

Feed Trade

WEB版

VOL. 60 NO. 3



2024

7
~9

飼料輸出入協議会

JAPAN FEED TRADE ASSOCIATION

2024年 7～9月号



目 次

<海運セミナー>

ドライバルク市況動向と見通し…… (2)

講師：森田 公平 氏

秋季為替セミナー開催のご案内…… (32)

アメリカ穀物協会主催：2023/2024年米国コーン・アウトルック・カンファレンスの講演から／浜本 哲郎…… (33)

理事長新任あいさつ／下石川 哲…… (51)

令和6年度新役員，専門委員会の委員決まる…… (52)

シリーズ●わが社「自慢の逸品」——第40回

豚肉商品「どんぐりの恵み」のご紹介／伊藤忠飼料株式会社…… (54)

シリーズ●各地の食生活——第18回

駐在2カ月商社マンのニューヨーク食レポート／川田祐一郎…… (59)

シリーズ●各商社の担当者紹介⑯ 丸紅株式会社

我が社の穀物油糧担当者のご紹介…… (65)

●わが社飼料関連部署の新人紹介

兼松(株)，双日(株)，三井物産(株)，丸紅(株)，豊田通商(株)，伊藤忠商事(株)，三菱商事(株)，カーギルジャパン(同)…… (69)

<座談会>

米国産トウモロコシの需給とシカゴ相場動向…… (79)

出席者：小國 聖仁，坂井 勇人，平山 伸弘，黒川 尚暉，
平西 滉太，遠藤 雄太，片岡 寿平，〔司会〕山口 大河

●New Balance<18>

今年も油断のならない天候相場が始まった／岩崎 正典…… (113)

編集後記…… (137)

ドライバルク市況動向と見通し



<講師>

川崎汽船(株)ドライバルク企画調整グループ
グループ長 兼 プロジェクトチーム長

森田 公平氏

●日時 2024年6月13日 ●場所 新橋ビジネスフォーラム

皆さん、こんにちは。よろしくお願いいたします。ただいまご紹介に預かりました川崎汽船の森田です。本日は講演の機会を与您とてくださり、ありがとうございます。

日頃、ドライバルク事業にあまりなじみのない方もいらっしゃるかと思ますので、できるだけわかりやすい平易な言葉で説明に努めたいと思ます。どうぞよろしく願ひいたします。

資料1（編注：スライド，以下同）は，本資料におけるマクロ前提の主要な指標として，世界の人口，世界のGDP，世界の消費者物価指数の見通しを掲載させていただいています。ご参考いただければと思ます。

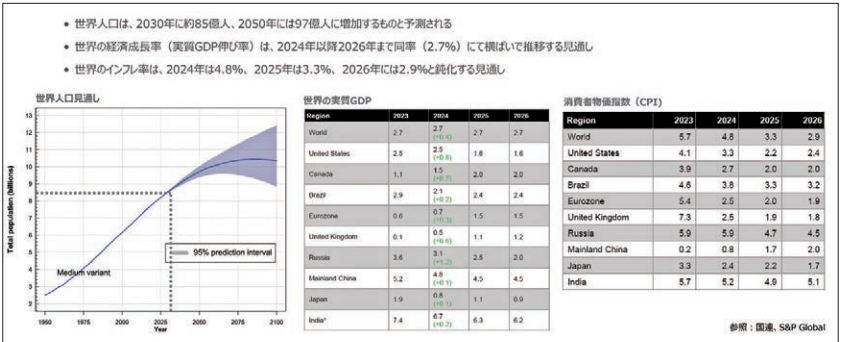
世界人口は，2022年80億人から2030年に85億人まで増加するカーブを描き，世界のGDPは国・地域により凸凹ありますが，全体としては横ばい，インフレに関しては，2025年以降3%近辺で段階的に落ちついていく，といった前提に立ちまして，資料2以降の資料作成と，弊社としての見立てを構築しています。

もちろん，これ以外にもマクロのデータは注目すべきですが，すべてはご



セミナー会場風景

資料1 マクロ経済見通し



紹介しきれませんので、ここに3つだけ掲載させていただいています。

本日のアジェンダですが、2024年から2028年までの向こう5年間の海運市況の見通しについて、4部構成でお話を進めさせていただきます。

第1部は需要編、第2部は供給編、第3部は市況の見通しと環境規制等の外的要因が海運市況に与える影響を考察してみたいと思います。第4部は弊社のDX推進活動の中でも、飼料・穀物関係の皆様の顧客体験に役立つような業務アプリの開発等についてご紹介させていただければと思います。

それでは、第1部の輸送需要編にまいります。

資料2は、ドライバルク貨物の海上荷動き量を積上げ棒グラフで示したものです。2024年以降は、緩やかに増加する見込みであることがわかりかかと思えます。2024年から2028年にかけて年平均の成長率は+0.7%成長と、緩やかに拡大路線が継続していきます。成長率としては、2023年以前の年+2.6%と比較すると軟化しますが、拡大路線が継続すると見込んでいます。

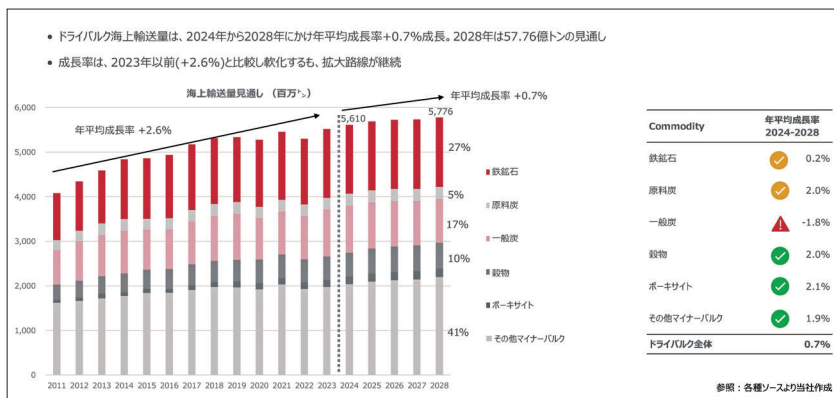
昨年2023年は、前年比+4.1%増加の55億1,800万トンの海上荷動きがありました。コロナ禍を経て、各国の経済・産業活動が活発化し、鉄鉱石、石炭、穀物の太宗貨物に加えて、マイナーバルクの荷動きが堅調に推移しました。

中国では、前年並みの高い粗鋼生産量を維持し、鉄鉱石等大型船の原材料輸送需要を下支えしました。中小型船の主要貨物である石炭、穀物、インフラ関連等は、中国経済の低迷の影響を受けつつも、インドや東南アジア等の新興国向けの輸送需要に下支えされ、こちらも堅調に推移しました。

2024年の見通しですが、地政学的なリスクが顕在化していることや、中国経済の減速懸念、環境規制強化など不確実性の高まりや外部環境の変化はあるものの、海上荷動きは比較的堅調に推移すると見込んでいます。

高品位の鉄鉱石やボーキサイトなど航海日数の長い輸送需要の増加、我々はトンマイルの伸長と呼んでいます。そういうものに加え、穀物とマイナーバルクの堅調な輸送需要の伸びを示し、全体として+3.7%成長の56億1,000

資料2 輸送需要 ――ドライバルク全体



万吨程度の海上荷動きを予想しています。

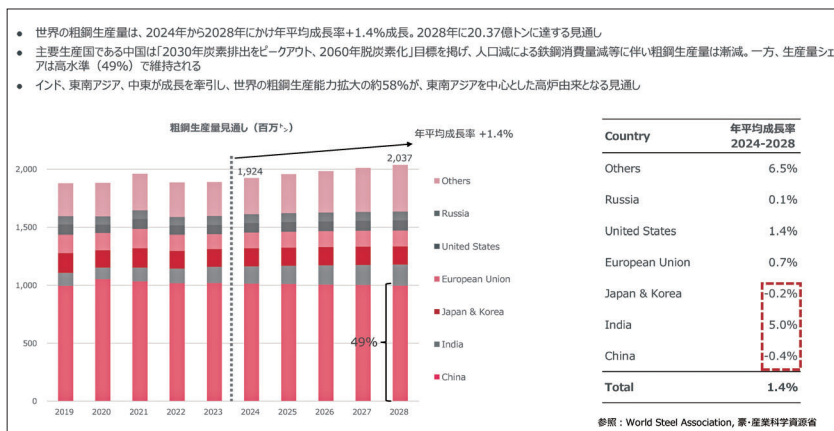
中長期的には、世界的な環境保全の動きとか、不確かな中国の粗鋼生産の動向もあり、鉄鉱石・石炭の急激な輸送需要の拡大は期待できないところがありますが、人口増加に伴い、穀物やマイナーバルクの成長は維持していくものと見込まれます。

資料3は、世界の粗鋼生産量の見通しを示したグラフです。2023年まではWorld Steel Associationの実績を載せていまして、2024年以降は、オーストラリアの産業科学資源省の見通しを参照しています。2024年以降、緩やかに増加する見込みであることがわかりかと思えます。

黒い矢印は年平均成長率を示していまして、2024年から2028年の5年間平均でなると年+1.4%成長、2028年には20億3,700万トンに達すると予想しています。

2023年は世界全体で18億8,820万トン、前年比ほぼ横ばいの実績でした。中国は10億1,910万トン、前年比+0.1%増にとどまりました。不動産の不況が続き、鋼材需要が低水準で推移しました。インドは1億4,020万トンと、前年比+11.8%増加、日本は8,700万トンで、前年比-2.5%減少、建設向けの鋼材需要が減ったほか、中国の不動産不況で鋼材輸出が停滞した影響が出たと

資料3 世界粗鋼生産量見通し



考えられます。

2024年は世界全体で19億2,400万トン、前年比+1.9%の増加を見込んでいます。このうち中国は10億1,460万トンで、前年比-0.4%減少を見込んでいます。一方、中国を除くその他世界では9億970万トン、前年比+4.6%成長で、インド、中東、東南アジア等が成長を牽引していくと見込んでいます。

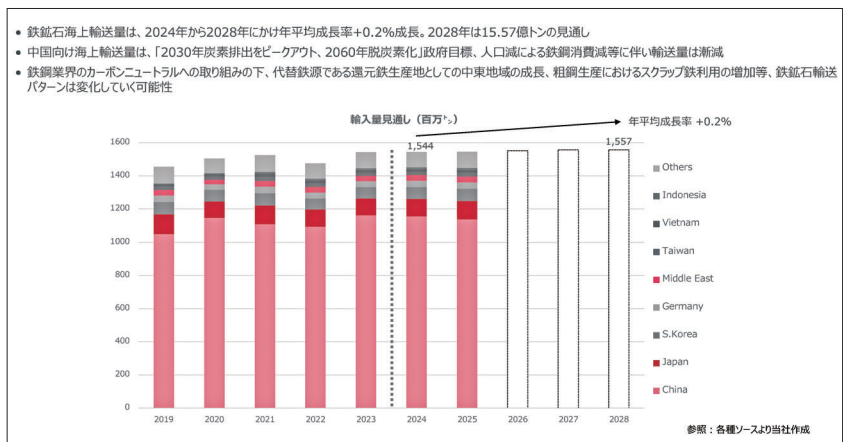
右の表は、生産国別の2024年から2028年までの5年間の年平均成長率を示したものです。このうち中国は-0.4%減少に転じる一方、インドは+5%増加で成長を牽引しまして、日韓は横ばいから若干の減少を見込んでいます。

資料4は、鉄鉱石の海上荷動きを示したものです。2024年から2028年までの5年間平均でならしますと年+0.2%成長と、ほぼ横ばいです。2028年に15億5,700万トンに達すると予想しています。

中国向けの海上輸送量は2023年にピークアウトし、環境規制、人口減による鉄鋼消費量の減少等により漸減していくと見込んでいます。

一方、インドでは、高炉での生産が伸び、西アフリカ産の鉄鉱石の出荷量増加や、主要還元鉄の生産地である中東への荷動きなど、トレンドパターンの多様化が進んでいく流れもあり、全体の需要としては概ね変わらないと見込んでいます。

資料4 鉄鉱石の海上輸送量見通し



続いて資料5は原料炭のグラフになります。2024年から2028年までの5年間平均でならしめますと年+0.2%成長とほぼ横ばい。2028年に2億6,900万トンに達すると予想しています。

インドでは、高品位の原料炭が採れないため、今後も粗鋼生産量の拡大に伴い、原料炭の輸入は増えていく見込みです。

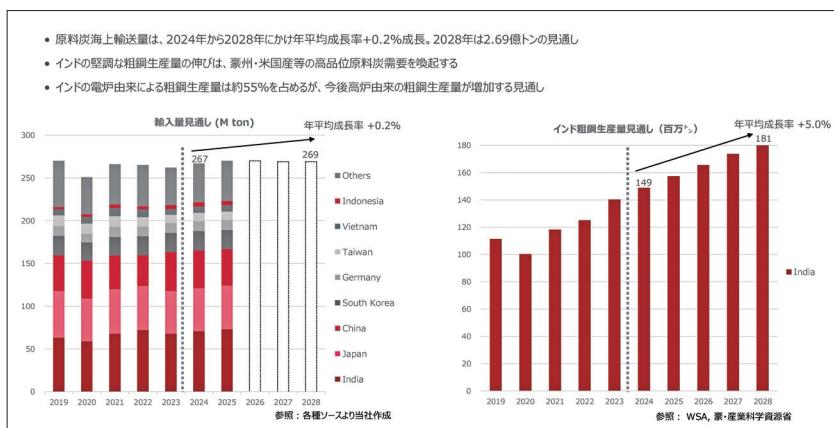
2019年以降、インドが世界最大の原料炭輸入国となっていますが、他の輸入国を引き離していく状態が続いていくと見込まれます。

なお、今回のグラフでは表現していませんが、主に2030年以降、高炉での還元材がLNGやメタネーションの伸長により、原料炭の需要は減退すると予想しています。

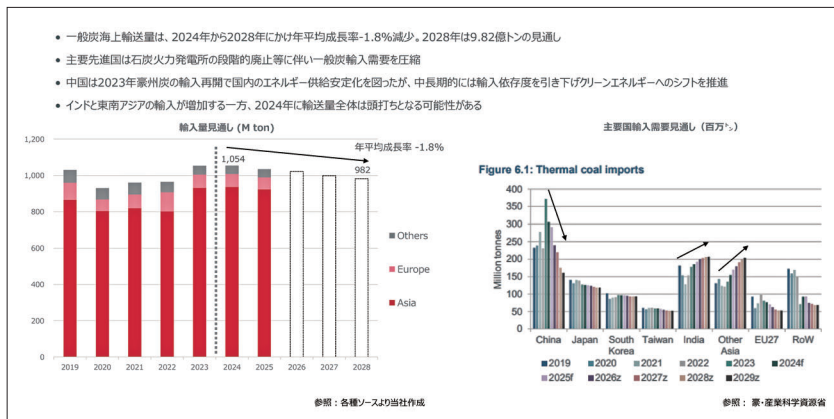
右のグラフは、インドの粗鋼生産量の予測を示したものになります。2024年1億4,900万トンから、2028年にかけて1億8,100万トンに増加が見込まれます。インドは、従来より電炉由来の粗鋼生産量が高い国ですが（約55%）、今後、高炉由来の粗鋼生産量が増加していく見込みです。

資料6は、一般炭の海上荷動きを示したグラフです。2024年から2008年までの5年間平均でならしめますと年1.8%減少、2028年に9億8,200万トンに達すると予想しています。

資料5 原料炭 — 海上輸送量見直し



資料6 一般炭 — 海上輸送量見直し



主要先進国は、脱炭素化を背景に一般炭の需要は減少に向かっていきまして、中国は2023年にオーストラリア産の石炭の輸入再開に踏み切り、国内のエネルギー安定供給を図りましたが、中長期的には輸入依存度を引き下げて、クリーンエネルギーへのシフトを推進しようとしています。

代わってインドや東南アジアの輸入が増加する見込みですが、輸入量全体としては、2024年10億5,400万トン相当で頭打ちになる見通しです。

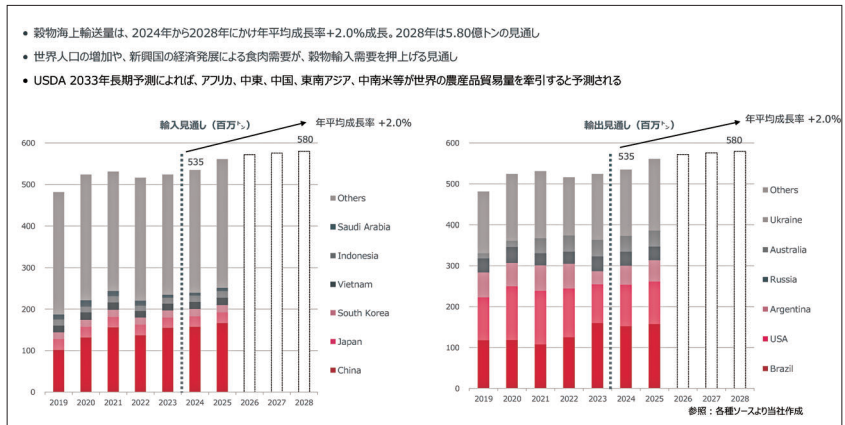
資料7は、穀物の海上荷動きのグラフになります。2024年から2028年までの5年間平均でならしめますと年+2.0%成長、2028年に5億8,000万トンに達すると予想しています。

人口増加や新興国の経済発展による食肉需要が穀物の輸入需要を押し上げる見通しです。

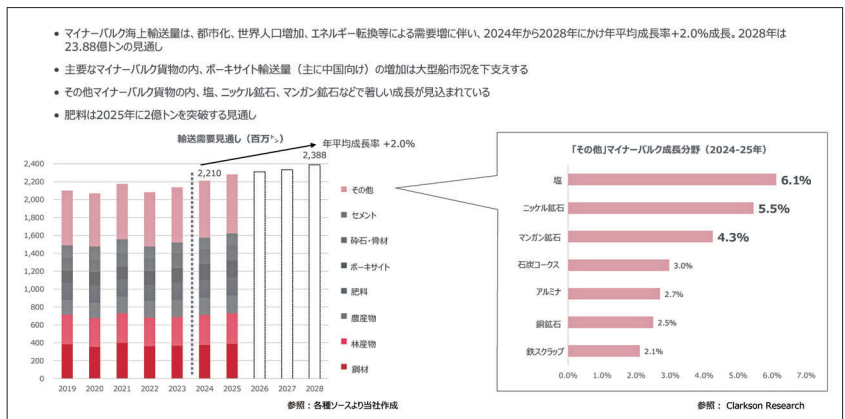
USDAの長期予測によれば、輸入国・地域の中で、アフリカ、中東、中国、東南アジア、中南米等が世界の農産物の貿易量を牽引していく見込みということ。

資料8は、マイナーバルクの海上荷動きのグラフになります。マイナーバルクというのは、鋼材、鉱物、非鉄金属等の多種多様なバルク貨物を指します。2024年から2028年までの5年間平均でならしめますと年+2.0%成長、2028

資料7 穀物 — 海上輸送量見通し



資料8 マイナーバルク（鋼材・鉱物・非鉄金属等多種多様なバルク貨物） — 海上輸送量見通し



年に23億8,800万トンに達すると予想しています。

2023年は世界全体で21億3,600万トン、前年比+2.7%増加の荷動きとなりました。特に碎石・骨材、ニッケル、肥料、ボーキサイトの伸びが大きい1年でした。

2024年は世界全体で22億1,000万トン、前年比+3.5%成長を見込んでいます。ボーキサイトが大きな伸びを示し、ニッケル、林産物も安定的な成長を

見込んでいます。

なお、肥料は、2024年は、前年比+3.6%増加の1億9,800万トンを予想しています。2025年には2億トンを突破する見通しとなっています。

資料9をご覧ください。第1部需要編のまとめに入りたいと思います。

ドライバルク貨物の海上輸送量は、2024年は鉄鉱石や原料炭の、いわゆる鉄鋼原料と一般炭が前年並みで推移します。他方、穀物とマイナーバルクは堅調な輸送需要の伸びを示し、全体として健全な需要環境を維持すると見込まれます。

こちらの表に示しているとおり、中長期的には、鉄鋼原料は微増、一般炭については脱炭素化の動きが加速すると予想されますので減少、中小型船の主要貨物である穀物やマイナーバルクは、人口増加や新興国の経済発展の恩恵を受けて需要増加を予想しています。

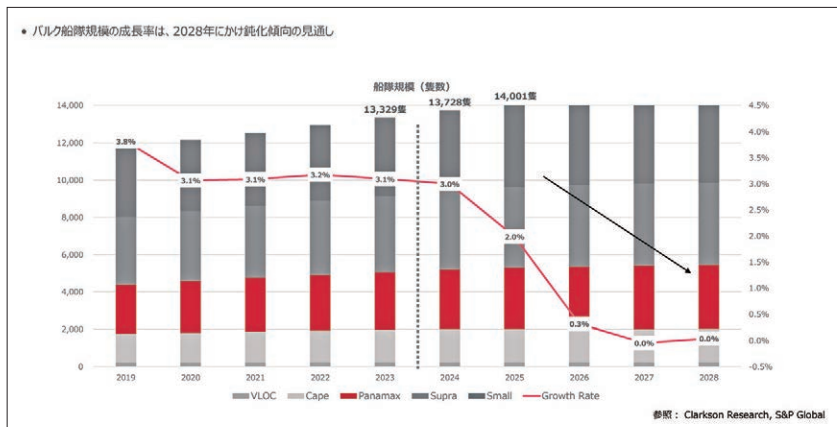
資料9 需要編まとめ

Commodity		年平均成長率 2024-2028	輸送需要見通し（～2028年）
<ul style="list-style-type: none"> ドライバルク海上輸送量は、2024年から2028年にかけて年平均成長率+0.7%成長。2028年は57.76億トンの見通し 成長率は、2023年以前(+2.6%)と比較し軟化するも、拡大路線が継続 			
鉄鉱石	0.2%		<ul style="list-style-type: none"> 鉄鉱石海上輸送量は、2024年から2028年にかけて年平均成長率+0.2%成長。2028年は15.57億トンの見通し 中国向け海上輸送量は、「2030年炭素排出をピークアウト、2060年脱炭素化」政府目標、人口減による消費減等に伴い輸送量は漸減 鉄鋼業界のカーボンニュートラルへの取組みの下、代替鉄源である還元鉄生産地としての中東地域の成長、粗鋼生産におけるスラップ鉄利用の増加等、鉄鉱石輸送バリエーションは変化していく可能性
原料炭	0.2%		<ul style="list-style-type: none"> 原料炭海上輸送量は、2024年から2028年にかけて年平均成長率+0.2%成長。2028年は2.69億トンの見通し インドの堅調な粗鋼生産量の伸びは、豪州・米国産等の高品位原料炭需要を喚起する インドの電炉由来による粗鋼生産量は約55%を占めるが、今後高炉由来の粗鋼量が増加する見通し
一般炭	-1.8%		<ul style="list-style-type: none"> 一般炭海上輸送量は、2024年から2028年にかけて年平均成長率-1.8%減少。2028年は9.82億トンの見通し 主要先進国の石炭火力発電所の段階的廃止等に伴い一般炭輸入需要を圧縮 中国は2023年蒙州炭の輸入再開で国内のエネルギー供給安定化を図ったが、中長期的には輸入依存度を引き下げグリーンエネルギーへのシフト推進 インドと東南アジアの輸入が増加する一方、2024年に輸送量全体は頭打ちとなる可能性がある
穀物	2.0%		<ul style="list-style-type: none"> 穀物海上輸送量は、2024年から2028年にかけて年平均成長率+2.0%成長。2028年は5.80億トンの見通し 世界人口の増加や、新興国の経済発展による食肉需要が、穀物輸入需要を押し上げる見通し USDA 2023年長期予想によれば、アフリカ、中東、中国、東南アジア、中南米等が世界の農産物貿易量を牽引すると予測される
マイナーバルク	2.0%		<ul style="list-style-type: none"> マイナーバルク海上輸送量は、都市化、世界人口増加、エネルギー転換等による需要増に伴い、2024年から2028年にかけて年平均成長率+2.0%成長。2028年は23.88億トンの見通し 主要なマイナーバルク貨物の内、ポークサイト輸送量（主に中国向け）の増加は大型船市況を下支えする その他マイナーバルク貨物の内、塩、ニッケル鉱石、マンガン鉱石などで著しい成長が見込まれている 肥料は2025年に2億トンを突破する見通し
ドライバルク全体	0.7%		

続いて、第2部の供給編にまいりたいと思います。

資料10は、ドライバルク船の船腹量、隻数の推移を示したグラフです。積上げ棒グラフになっていますが、年末時点の船腹量実績と見込みをあらわしています。2023年の実績は前年比+3.1%増加の1万3,329隻、2024年の予想

資料10 バルク船隻数見通し

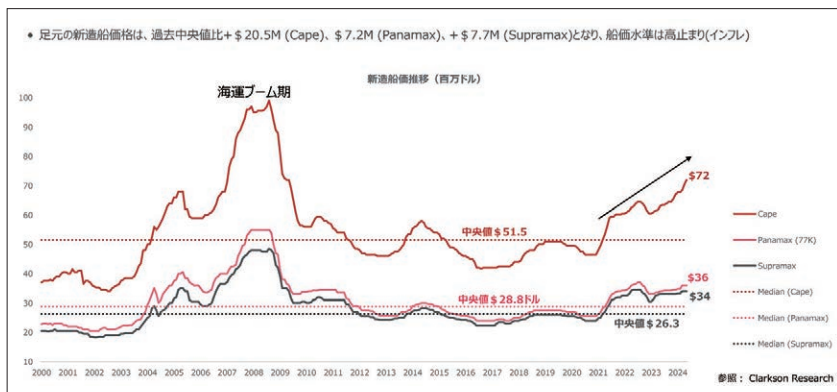


は前年比 + 3 % 増加の 1 万 3,728 隻，2025 年の予想は前年比 + 2 % 増加の 1 万 4,001 隻，2026 年から 2028 年にかけて伸び率は 0 % 台までに低下し，鈍化傾向が続いていくことがわかれると思います。

資料11のグラフはドライバルク 3 船型，Cape サイズ，Panamax，Supramax の新造船価の推移を示したものです。実線が新造船価，いわゆる時価の推移で，点線は2000年 1 月から2024年 5 月までの船価中央値を示しています。

2021 年の春先以降，時価が中央値をコンスタントに上回っている状態であ

資料11 新造船価推移



ることがわかると思います。

2000年代半ば以降の海運ブーム期を除くと、足元の船価は全船型で歴史的に見ても高止まり、すなわちインフレしている状況であることがわかると思います。

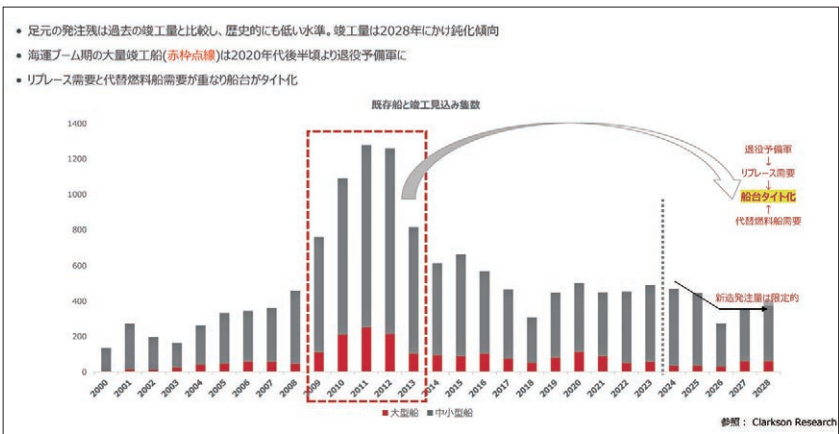
資料12のグラフは、2000年以降に竣工したドライバルク船の竣工量の実績と、2024年以降の発注残を示しています。足元の発注残は、過去の年間竣工量と比べて低い水準であることがわかると思います。

特に2024年から2027年にかけては、造船所の建造船台がほぼ埋まっているとされていますので、物理的にこれ以上、発注残が増える状況にないと言えると思います。

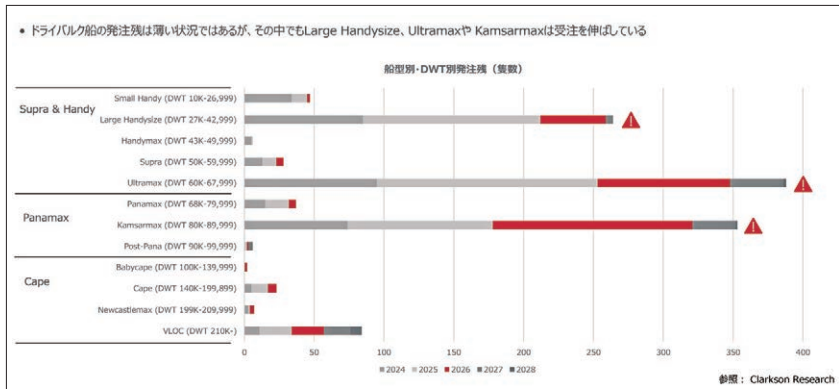
一方、赤枠で囲った海運ブーム期の大量竣工船は、2020年代の後半頃より退役予備軍となり、リプレース需要が創出される可能性があります。また時期を同じくして代替燃料船需要も高まりを見せ、船台のタイト化が生じる可能性がありますと考えられます。

資料13をご覧ください。ドライバルク船全体で見れば、歴史的に低水準の発注残と申し上げましたが、船型別、Dead Weight別に細かく区分すると、特徴的な傾向が見えてきます。Supramax, Handyサイズのセグメントで言い

資料12 竣工実績と足元の発注残



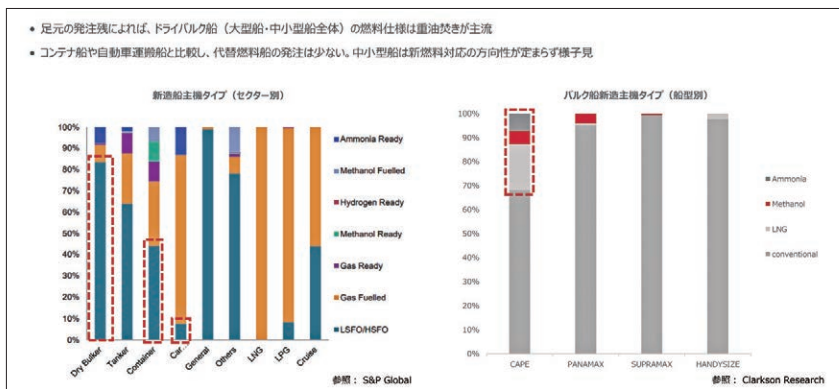
資料13 船型別発注残



ますと、4万～4万2,000トンDead Weight型と、6万4,000 Dead Weight型、Panamaxのセグメントで言いますと、8万2,000トンDead Weight型の発注残が、他船型に比べて大きく積み上がっています。供給過剰という水準ではないのですが、一定程度の注意が必要になると見ています。

資料14、左のグラフは、2024年5月末時点の全船種の新造船発注残について、主機のタイプ別に占有率を分析したものになります。ドライバルク船の約8割が重焚きの主機である一方、コンテナ船や自動車運搬船では重焚きの比率は低く、代わりにLNG 焚きの主機への転換が進んでいる様子がうかがえ

資料14 新造船主機タイプ（セグメント別）



ると思います。

右のグラフは、ドライバルク船4船型の新造船の発注残について、主機タイプ別に占有率を分析したものになります。Capeサイズのうち約3割が代替燃料の主機を採用している一方、中小型船型では1割未満にとどまっている様子が見えてくると思います。中小型船においては、新燃料対応の方向性が定まらず、様子見が続いていることがわかるかと思えます。

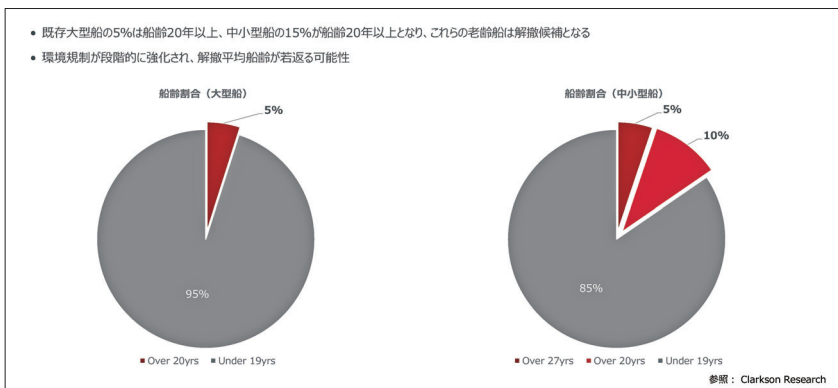
資料15のグラフは、ドライバルク船の解撤余力を円グラフであらわしたものです。こちらのモデルでは、大型船の船齢20歳以上、中小型船の船齢20歳と27歳以上の2段階で解撤候補船とみなしています。

その結果、既存の大型船の5%が解撤候補とみなされ、中小型船では船齢20歳以上の場合は15%が解撤候補であると考えられます。大型船に比べて、中小型船の解撤余力がある実態がわかると思います。

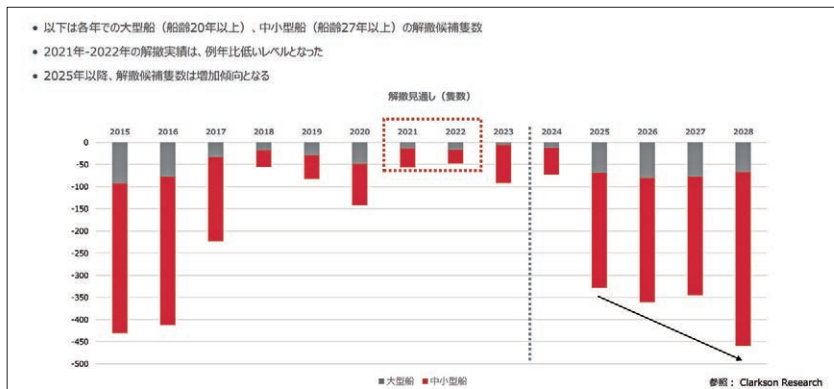
環境規制が段階的に強化されるに従って、解撤の平均船齢が若返りを見せる可能性があると考えています。

資料16のグラフは、2015年から2023年までの解撤の実績と、2024年以降の解撤候補船の隻数をあらわしたものになります。2024年の見込みは、今年に入ってから足元までの解撤実績を年率に換算したもの、2025年以降は、解撤候補の隻数として大型船は船齢20歳、中小型船は27歳として解撤前提を置

資料15 船齢と解撤見直し



資料16 解撤実績と見通し



たものとなります。

これを見ると、市況水準が比較的高いレベルで安定する2024年は、解撤件数が1年間を通して伸び悩む見込みですが、2025年以降は、特に中小型船において解撤候補船が急激に増える傾向が見てとれると思います。

これらすべてが解撤に回るとは申しませんが、環境規制が段階的に強化されることで、燃費性能の低い老齢船の退役が一定程度進んでいくと予想しています。

資料17をご覧ください。供給編のまとめに入ります。

まず好材料としては、新造船の供給圧力は2027年頃まで限定的である。既に建造船で埋まっている状況であること。

環境規制が段階的に強化されるに従って、不経済船や低品質船の解撤が加速化する可能性が高いことなどが考えられると思います。

短期的な懸念としては、足元スポット備船市況、運賃市況、中古船市況の高止まりで、船主の解撤意欲が若干後退していることが挙げられると思います。

2020年代後半から2030年代頭を念頭に置きますと、新造船価が歴史的に見ても高い水準でインフレが続く可能性、海運ブーム期に大量竣工した老齢船が退役を迎えて、リプレース需要が高まりを見せる可能性、同時期に代替燃

資料17 まとめ



料船の需要の蓋然性が高まりを見せる可能性、船台がさらにタイト化する可能性、これら4つが同時に到来する可能性を暗示しており、発注のタイミングをうかがうことの難易度が非常に高くなると予想しています。

続きまして、第3部の市況見通しと外部環境の市況影響に移りたいと思います。

資料18をご覧ください。最初に短期市況動向を眺めてみたいと思います。こちらのグラフは、2019年以降のバルチックCapeサイズインデックス、主要5航路平均備船料の週次データの推移を示したものです。

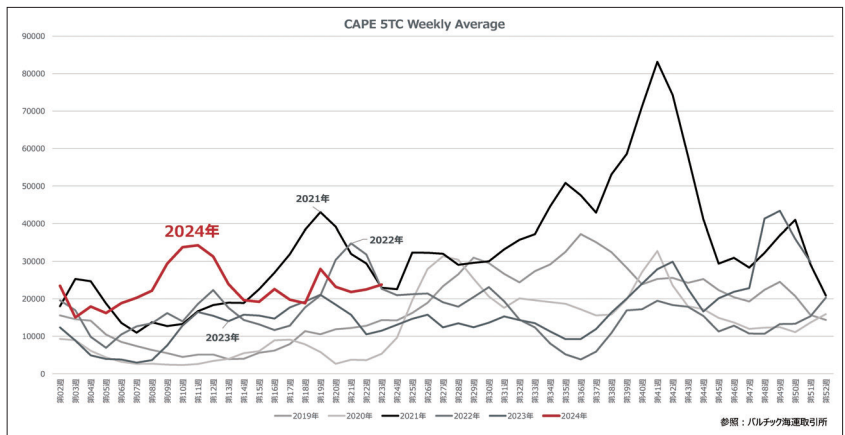
2024年は、高市況が続いた2021年に次いで高い水準を維持しています。

例年、第1・四半期、1～3月は、南半球の雨季やサイクロンの発生等で、鉄鉱石主要積出港の出荷量が減少するなど、季節的要因で市況が低迷する時期ですが、今年はインデックスが落ち切ることなく、その後の春先に3万ドルを超える高市況につながっていきました。

足元6月時点では、2万3,000ドル近辺で推移しています。

下期7月～12月は、例年の季節性に準じた堅調な貨物需要に下支えされて、底堅い水準で市況は推移すると見込んでいます。

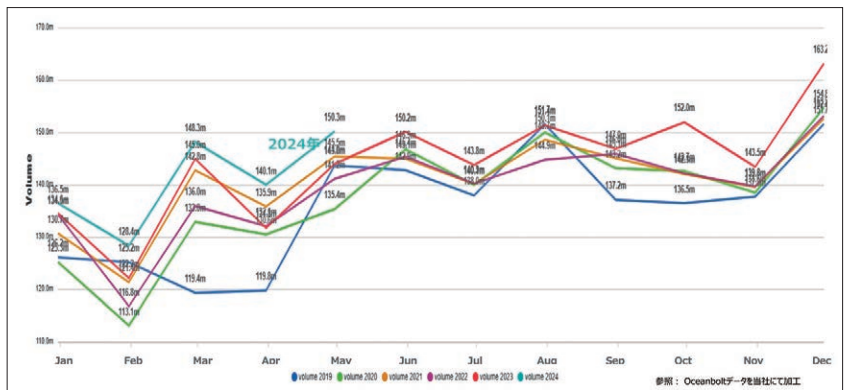
資料18 船型別ドライバルク市況 (2019年～)



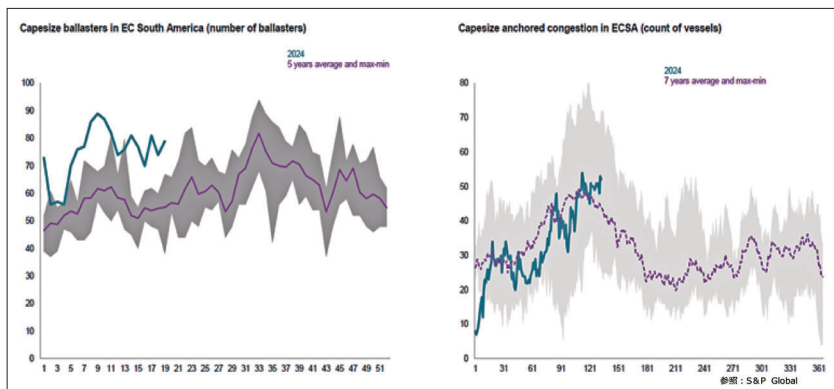
資料19は、Cape船の市況高を下支えしている需要面の要因を追いかけてみました。こちらは2019年以降の鉄鉱石海上荷動きの月次データを示したものです。2024年が水色の折れ線グラフですが、今年前半は、過去6年間で鉄鉱石の荷動きが最も高水準であったことがわかれると思います。

一方、供給面ですが、必ずしも楽観できる状況ではなかったように思います。資料20の左のグラフは、船舶の位置情報などがわかるAISデータからCape船の南米東岸向けのバラスト船（空の状態で走っている積み地に向かっ

資料19 鉄鉱石海上輸送量 (2019年～)



資料20 ケープ船の南米東岸向けバラスター数と滞船数



ている船)の隻数推移を示したものです。過去5年間の平均の上限を超える値で推移しているのかわかるかと思います。

右のグラフは、同じくAISデータからCape船の南米東岸の滞船状況を集計したものです。雨が少なかったことや荷役効率の改善等により、過去5年間平均を下回る滞船状況で推移してきました。

つまり、船腹供給が緩んでいるサインを示していたわけですが、市況が落ち切らなかったのは、供給の緩みを需要の底堅さが上回ったからだと考えています。

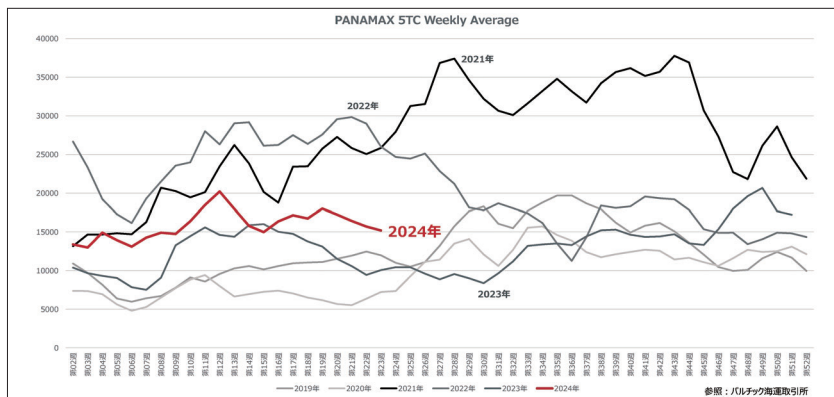
資料21は、バルチックPanamaxインデックスの主要5航路平均備船料の週次データの推移を示したものです。2024年は、高市況が続いた2021年・2022年の水準に達しはしませんが、それに次いで高い水準を維持しています。

例年、第1・四半期の後半から南半球の新穀の出荷が本格化し、市況が上昇サイクルに入るのですが、今年は上昇カーブが小ぶりで、一瞬2万ドル台に乗せましたが、勢いは続くことなく、上昇サイクルの期間も短く終わりました。

足元6月時点では1万6,000ドル台で推移しています。

下半期は、北半球の新穀の出荷が本格化することと、冬場の石炭需要の増加で、例年の季節性に準じた堅調な貨物需要に下支えされて、底堅い市況水

資料21 船型別ドライバルク市況 (2019年～)

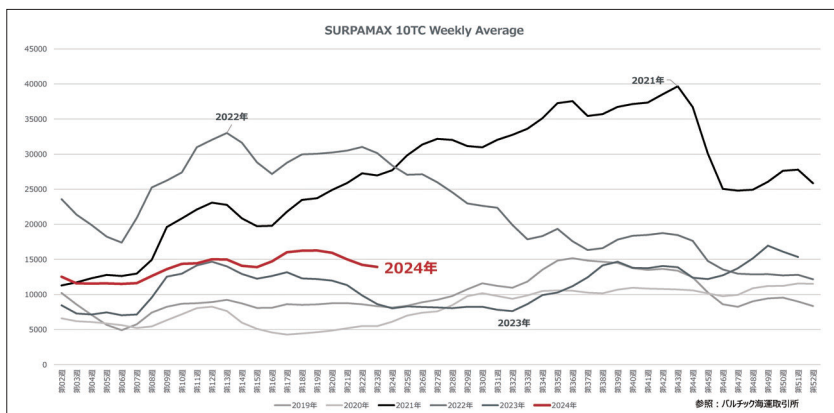


準で推移すると見ています。

資料22は、バルチック Supramax インデックスの主要10航路平均備船料の推移を示したものです。Panamaxと同様の傾向を示しています。

下半期の中型船の市況を占うとしますと、需要面では、一般炭の荷動き停滞分を、穀物とマイナーバルクの需要の取り込みでどの程度カバーしていけるかということ、供給面では、後ほど述べますが、パナマヤスエズの迂回の影響等がポイントになってくるかと考えます。

資料22 船型別ドライバルク市況 (2019年～)

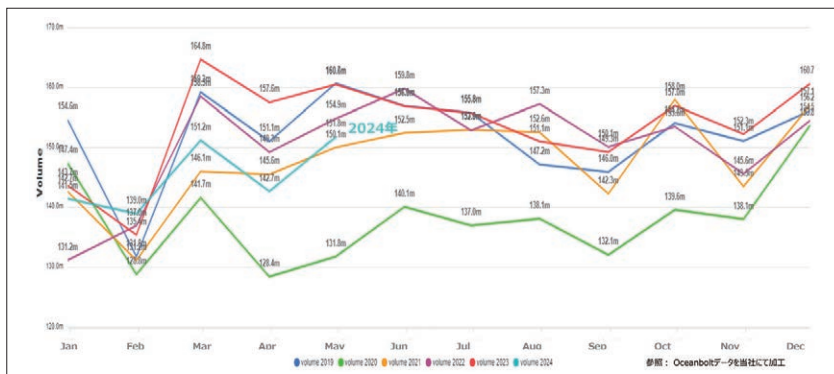


資料23のグラフは、2019年以降の石炭海上荷動きの月次データを示したものです。2024年が水色の折れ線グラフで、今年の前半は、過去6年間のうち上から3番目の荷動きで、季節性について例年と同じような傾向を示しています。

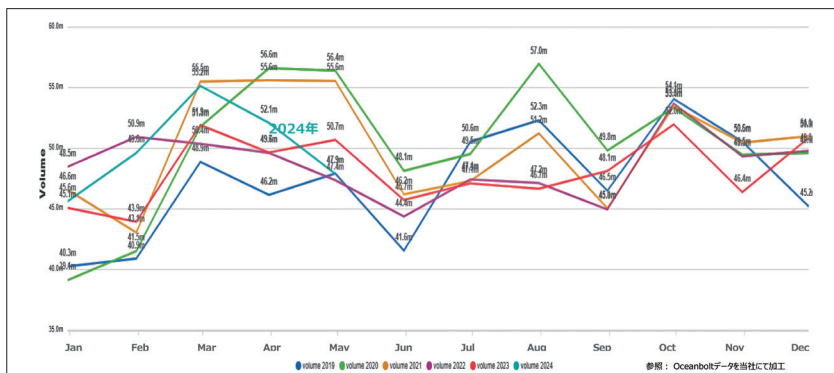
第1部の需要編でご説明したとおり、高品位の原料炭の需要の伸びに対して、一般炭の需要の落ち込みの幅が大きいため、石炭需要全体としては、2024年に頭打ちになる可能性があると考えています。

資料24は、2019年以降の穀物の海上荷動きの月次データを示したものです。2024年が青色の折れ線グラフになります。第1・四半期は比較的好調な出だ

資料23 石炭海上輸送量（2019年～）



資料24 穀物海上輸送量（2019年～）



して、第2・四半期に入り荷動きが停滞しています。

小麦は、ロシアでの貨車の脱線事故とか、異常な暖かさ、干ばつ、最近の霜等の影響により、黒海出しの見通しが軟化していたり、トウモロコシの害虫被害の影響によってアルゼンチン出しの見通しが軟化していたりなどにより、2024年の伸びは限定的というアナリストの分析もありますが、全体としては前年比+2%強の成長と予想しています。

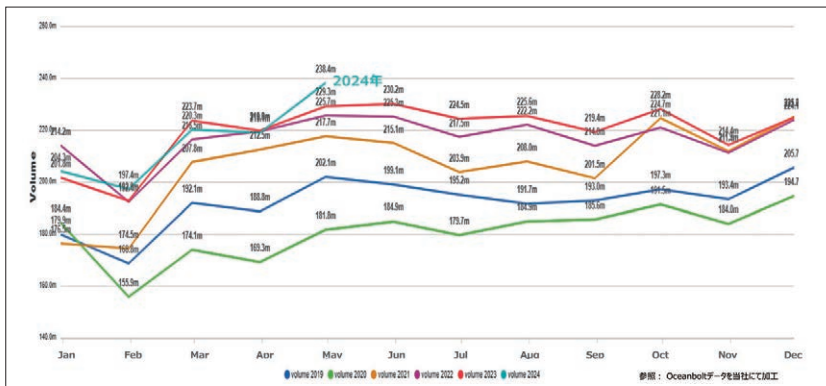
資料25は、2019年以降のマイナーバルクの海上荷動きの月次データを示したものです。2024年が水色の折れ線グラフとなります。第1・四半期から底堅い輸送需要があり、ボーキサイト等、過去6年間で最も荷動きが活発化しています。

資料26をご覧ください。ここで短期市況に影響を与える外部環境について眺めてみたいと思います。

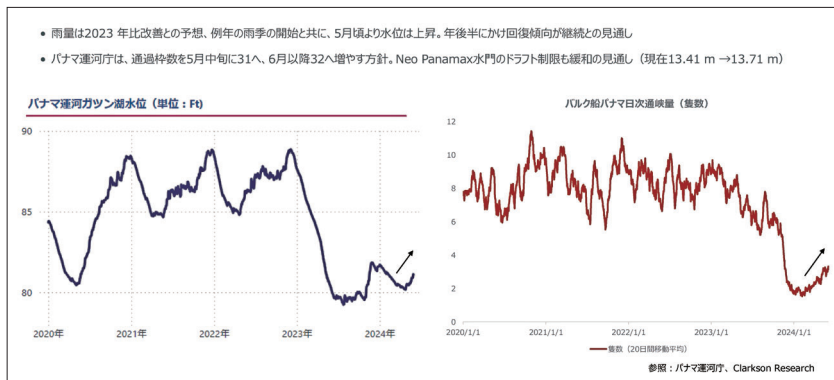
パナマ運河の渇水の市況影響について考えたいと思います。左のグラフは、ガツン湖水位の変化を示したものです。足元では2023年の最悪期から幾分水位は回復しています。

右のグラフは、ドライバルク船のパナマ運河の1日あたりの通峽量（隻数）の変化を示したものです。直近ではパナマ運河の水位は改善傾向にあり、5月・6月にかけて通峽量が増加し、トンマイル減少傾向となる中、下半期の

資料25 マイナーバルク海上輸送量（2019年～）



資料26 外部環境（短期視点） — パナマ運河渇水



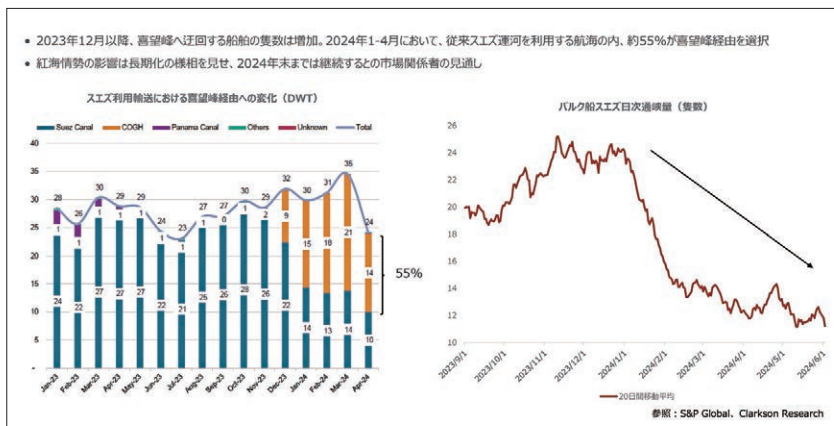
市況押下げ要因の一つになるかもしれません。

次は資料27，スエズ運河の迂回の市況影響について考えたいと思います。左のグラフを見ると，2023年12月以降，スエズ運河を通航していたドライバルク船が，喜望峰へ迂回する動きに変わっていることがわかつています。

従来，スエズ運河を利用して航海のうち約55%が喜望峰を選択している，というデータもあります。

右のグラフは，ドライバルク船のスエズ運河の1日あたりの通峡量（隻数）

資料27 外部環境（短期視点） — スエズ運河



の変化を示したものです。1日あたりの通峽量は低位安定しています。

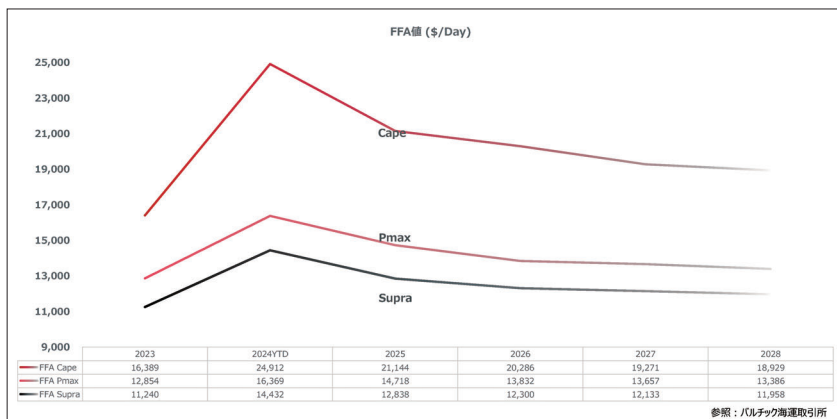
紅海情勢の影響は長期化すると見られ、少なくとも2024年いっぱいスエズ迂回は継続し、トンマイルの増加や代替輸送需要が継続して、短期的には市況にプラスに働くと考えます。

資料28をご覧ください。中長期市況の動向を眺めてみたいと思います。こちらは備船料先物取引（FFA）の直近の気配値を示したものです。2023年はバルチックインデックス、主要航路の平均備船料の実績を置いています。2024年は足元のバルチックインデックスの実績と、2024年12月までのFFAの気配値を加重平均した値を置いています。2025年以降は、FFAの1年分の値を置いたものとなります。

2024年は3船型とも前年比で大幅な改善が見込まれます。Cape船は、高品位の鉄鉱石やボーキサイトの予想需要が堅調で、トンマイルベースの成長期待が高く、一方で、船隊成長率は緩やかなものにとどまるため、中長期的には市況水準が安定すると考えます。

中型船は、穀物やマイナーバルクの底堅い需要に対する成長期待が高く、新造船の供給圧力は限定的で、老齢船の解撤余力も備えている。石炭需要の落ち込みは懸念材料としてありますが、2028年までの市況水準は概ね安定的で、

資料28 市況見通し — 備船料先物取引（FFA）



ここに示しているFFAの値を上回る水準を十分ねらえるのではないかと予想します。

資料29のグラフは、当社独自のモデルで需給バランスの見通しを示したグラフです。これは線グラフが上に向いているほど供給が需要を上回っていて、需給ギャップ率が広がっている、つまり需給バランスが悪いという見方になります。需要量は、S&P GlobalやClarkson等の海上荷動きの実績予測値を用いています。

当社独自の算定方法、根拠を具体的に幾つか申しますと、竣工量、解撤量、配船のパターン、積み高、速力、滞船、不稼働率、環境規制等の影響も加味して、そういうものを用いて、ばら積み船の年間輸送能力を数値化したものになります。

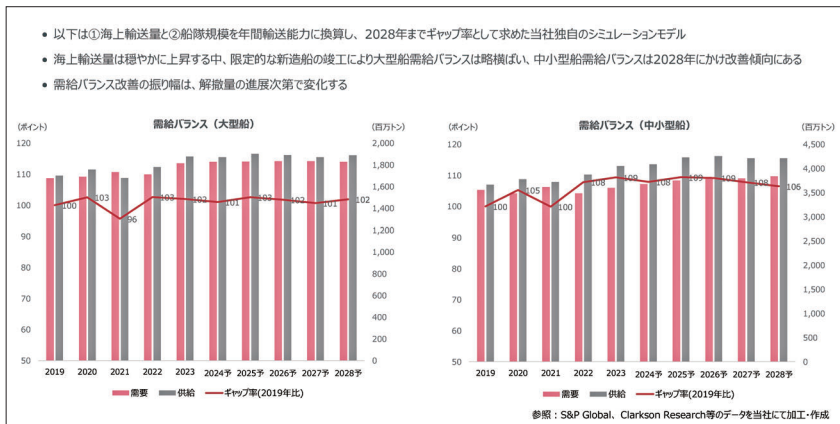
2019年のギャップ率を基準の100ポイントとして置いています。

2020年は、新型コロナの影響で需要が大幅に減少してギャップ率が拡大。

2021年は、前年からの振り戻しで海上荷動きの需要が大きく回復し、供給圧力も限定的だったため、ギャップ率は改善しました。

2022年は、段階的に世界各国の経済活動が巡航速度に戻り、前年あった一過性の需要の増加が剥落し、ギャップ率は悪化しました。

資料29 需給バランス



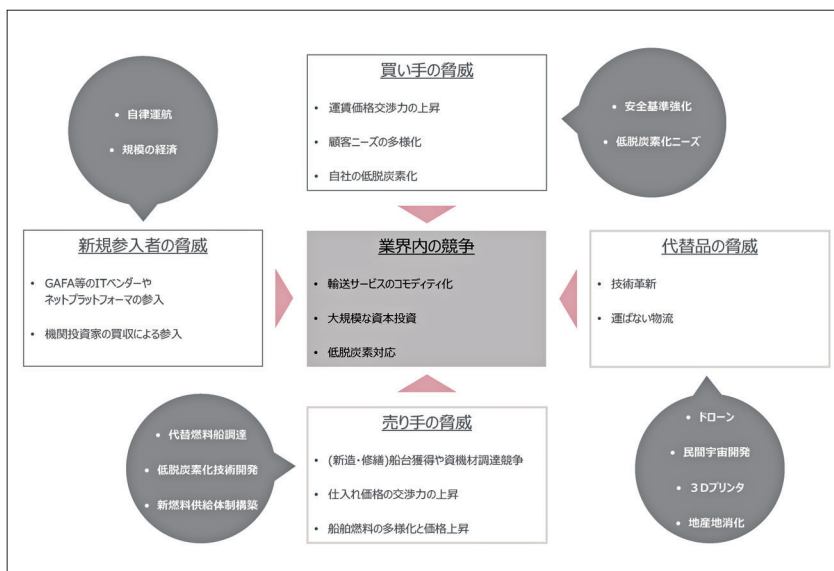
2023年以降は、需要量の伸びが供給量の伸びを上回るか、バランスするなどし、大型船ではほぼ横ばい、中小型船では2028年にかけて緩やかに改善する見通しと見ています。大型船はほぼ横ばい、中小型船は2028年にかけて緩やかに改善していくと見ています。

したがって、中長期的な需給バランスの側面から見ても、市況水準は概ね安定的に推移していく蓋然性が高いと考えています。

資料30をご覧ください。前の資料29で中長期的に市況水準は概ね安定すると申し上げましたが、ここで再び中長期的な視点で外部環境を眺めてみたいと思います。

海事産業を5フォースモデルでとらえてみた図になります。講演時間の都合上、全部を読み上げることはいたませんが、「低炭素対応」など環境にまつわるキーワードが目立つかと思います。市況が安定を迎えるかどうかは、需給環境の安定に加えて、ステークホルダー全体の環境対応の成果に左右されることを暗示している気がしてなりません。

資料30 外部環境（中長期視点）



資料31は、海事産業にかかわる環境規制についてまとめたものです。環境規制は、脅威とも機会ともとらえることができると思います。直近の動きをおさらいしますと、IMOは、2023年7月にGHG排出削減目標を大幅に引き下げて、2050年頃までにネットゼロ目標を掲げました。ライフサイクル全体で発生する全排出物でネットゼロという意味です。

細かい説明は割愛しますが、中期対策として技術的手法や経済的手法の最終化に向けた議論を加速化し、2025年中の承認・採択、2027年の発効を目指しています。


このような状況下、まずIMO規則として、2023年にEEXI/CII規制が適用開始となりました。

またIMOに先行して、EUでは地域規制が開始されています。2024年にEU-ETSを導入、2025年にはFuelEU Maritimeの導入予定となっています。

規制と支援策によって、船舶からのGHG削減と、ライフサイクルでGHG強度の低い燃料への転換を主導するねらいがあるといわれています。

私ども海運事業者と荷主関係者様への影響についてです。まず海運事業者は、船舶の脱炭素化を進め、燃料の低炭素・脱炭素化への転換、風力推進の

資料31 環境規制の脅威と機会

		2020	2030	2040	2050
自社と社会の目標	スマイル	IMO ¹⁾ (08年比)	●GHG20~30%減 ●CO2 40%減	●GHG70~80%減	●GHG排出ゼロ
		欧州 ²⁾ (90年比)	●GHG55%減		
		 K LINE	●CO2 50%減		●GHGネットゼロ
	規制	IMO	●23年~EEXI/CII規制の適用開始		
	欧州	●24年~EU-ETS導入 ●35年~FuelEU Maritime強化により ●25年~FuelEU Maritime導入 LNG燃料に対するコスト発生			
IMO		<ul style="list-style-type: none"> 23年7月にGHG排出削減目標を大幅引き下げ、50年頃までのネットゼロ目標、各30年頃/40年頃の間中チェックポイント目標を定めた 50年目標をWell-to-Wake(以下WtW)のネットゼロとした。WtWは燃料の生産、輸送、貯蔵、パンカング、船上使用までのライフサイクル全体で発生する全排出物を指す。 中期対策として、技術的手法では船舶の年間GHG排出強度を段階的に強化していく制度等が提案され、経済的手法ではGHG排出量に応じた課金制度や化石燃料船への課金で得られた収入をゼロエミ燃料船へ還元する制度等が提案されている。 これら中期対策の最終化に向けた議論は、24年中の最終化、25年中の承認・採択、27年の発効を目指す。 			
EU		<ul style="list-style-type: none"> EUETSをEU発着船に適用し、25年からFuelMaritime(WtW GHG強度規制)を開始する。規制と支援策により、船舶からのGHG削減とWtW GHG強度の低い燃料への転換を主導している。 			
海運事業者と荷主関係者への影響		<ul style="list-style-type: none"> 海運事業者は船舶の脱炭素化への対応を進め、燃料の低炭素・脱炭素化への転換、風力推進の活用、船上CCS技術確立などを注ぐ。 重油焚き船に対する環境対応船の脱炭素価値とコスト競争力の高まり ⇒ 環境対応船への顧客需要の高まり ⇒ 環境対応力は差別化と運賃競争力の源泉へ。 海事産業に限らず、環境規制コストについては持続可能な社会や地球環境保全のために必要なものであり、その恩恵を享受する受益者により応分に負担されることが公平で合理的。 			

活用、船上CCS技術の確立といったところに力を注ぐ必要があります。

その理由は、重油焚きに対する環境対応船の脱炭素価値とコスト競争力が高まる世の中に変わり、環境対応船に対する顧客需要も高まりを見せる。その結果として、環境対応力は差別化と競争力の源泉になると考えているからです。これが脅威でもあり機会でもあると申し上げた理由の一つです。

もう一つ大事なメッセージをお伝えしますと、環境規制コストは最終的には受益者によって応分に負担されることが公平で合理的という考え方に収斂していくであろうと思っています。

資料32は、FuelEU Maritimeを詳しく説明したページです。時間の関係上、割愛いたしますので、後ほどご覧いただければと思います。

次に資料33、第3部のまとめに入ります。

短期市況については、2024年は高市況が続く見通しです。貨物需要が堅調に推移する中、供給圧力は限定的です。パナマ運河の渇水問題は緩和に向かっていますが、スエズ運河の迂回によるトンマイルの増加や代替輸送需要は継続し、短期、スポット市況にプラスに働いていくと考えます。

船会社側の成約担当者や我々マーケットリサーチャー・マーケティング担

資料32 FuelEU Maritime

- 2021年にEUが発表した包括的な気候変動政策パッケージFit for 55に含まれていた“FuelEU Maritime”が来年1月より開始される。
- 低炭素燃料や技術革新のためのコスト増加、トレードパターン変化、環境配慮船への需要増加による競争力変化など、市場変化が予想される。
- 一方で燃費性能の悪い老齢船の退役が一定量進むことも予想され、供給が引き締まる可能性も。

Fit for 55 とは？
2030年までにEU内の温室効果ガスを55%削減(1990年比)することを目標とした政策パッケージ。
Fit for 55 - The EU's plan for a green transition - Consultation (europa.eu)

特に、国際海運に影響のあるものとして、

- EU-ETS**
 - 経済的手法
 - 2024年導入開始予定
 - 船上で排出したGHGが対象 *2025年まではCO2のみ対象
 - 年間排出総量に相当する排出枠を購入する必要がある
- FuelEU Maritime**
 - 規制的手法
 - 2025年導入開始予定
 - 非汽船については新定章意旨段階
 - 燃料のCA全体で排出したGHGが対象
 - 使用燃料のGHG強度が基準を超えた場合罰金が発生

⇒ 対応できない場合、どちらもコストを支払うこととなる

資料33 市況見通しと外部環境

市況見通しと外部環境
短期市況2024年 <ul style="list-style-type: none">• ドライバルク市況は、2024年は高市況が続く見通し。貨物需要が堅調に推移する中、供給圧力は限定的。パナマ運河渇水問題は緩和に向かっているが、エスズ運河迂回によるトンマイル増加や代替輸送需要が短期、スポット市況にプラスに働く。• 短期市況予測で注目する情報・データ類、「貨物オーダー」、「船腹リスト」、「バラスト数」、「滞船状況」、「平均速力」、「コモディティ価格」、「出荷動向（週次）」、「在庫（港頭在庫・製品在庫）」、「海気象」、「人災・天災」、「マクロデータ（主要国、月次、四半期）」、「センチメント（市場参加者心理）」など。
中長期市況2025年以降 <ul style="list-style-type: none">• 2025年以降も先物補船取引(FFA)気配値を上回る水準を担える可能性が高い。環境規制が段階的に強化されることで、燃費性能の低い老齢船の退役が促進。発注残の少なさと相まって供給量は圧縮されるため、需給バランスの改善に貢献。• 環境規制の強化は「脅威」にも「機会」にもなる。自社と顧客の低炭素化による差別化で競争力を獲得。• 中長期市況予測で注目する情報・データ類、「メガトレンド（人口動態、気候変動、世界の分断化など）」、「需要動向（中長期）」、「竣工量」、「解撤量」、「発注量」、「建造能力」、「船価動向」、「資源開発プロジェクト」、「環境規制等の外的要因」、「技術革新」、「政治動向」、「世界的なイベント（五輪、万博等）」など。

当社が短期市況予測で注目している情報・データ類を幾つかご紹介します。「貨物オーダー」、「船腹リスト」、「バラスト数」、「滞船状況」、「平均速力」、「コモディティ価格」、「出荷動向（週次データ）」、「在庫（港頭在庫・製品在庫）」、「海気象」、「人災・天災」、「マクロデータ（主要国、月次、四半期）」、「センチメント（市場参加者心理）」などに着目して、これらを定点観測分析して、仮説を検証するサイクルを回して市況予測に活用しています。

中長期市況については、2025年以降もFFAの気配値を上回る水準をねらえる可能性が高いと考えています。

環境規制が段階的に強化されることで、燃費性能の低い老齢船の退役が促進されることや、発注残の少なさと相まって供給量が圧縮されるため、需給バランスの改善に貢献する見通しです。

中長期市況予測で注目する情報・データ類を幾つかご紹介します。「メガトレンド（人口動態、気候変動、世界の分断化など）」、「需要動向（中長期）」、「竣工量」、「解撤量」、「発注量」、「建造能力」、「船価動向」などの供給サイドの長期見通し、「資源開発プロジェクト」、「環境規制等の外的要因」、「技術革新」、「政治動向」、「世界的なイベント」等に着目して、中長期予測に活用しています。

最後に第4部として、弊社のDX推進活動の中で、飼料・穀物関係者の皆様の顧客体験に役立つような業務アプリ開発の取組みを2つご紹介させてい

ただきたいと思います。

1つ目は、ドライバルク船の滞船料・早出料の自動計算システムを開発しました(資料34)。名前は「Chronus(クロノス)」と言います。ギリシャ神話の時間を司る神であるクロノスから着想を得たものです。時間の羅列であるSOFを正確に読み取ることが本システムの目玉であり、これによる作業時間の短縮を図ることを期待したシステムである。そういった願いがこのネーミングに込められています。

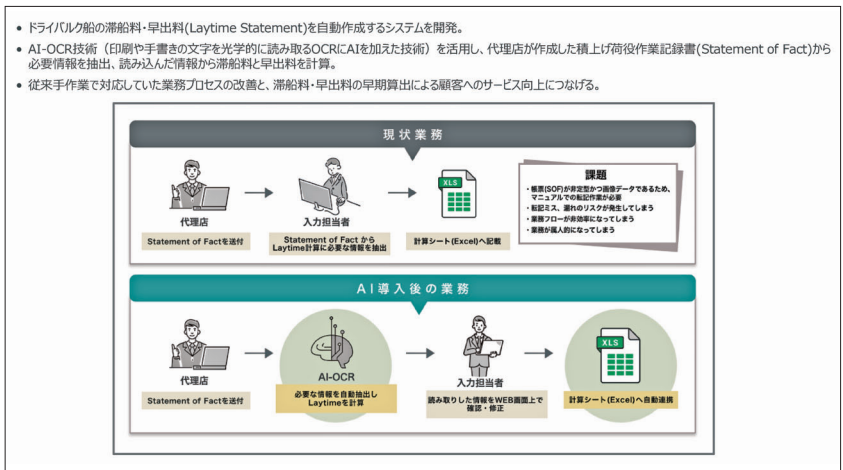
AI-OCR技術を活用して、代理店が作成したSOFから必要な情報を抽出し、読み込んだ情報から滞船料と早出料を計算できる仕組みとなっています。

従来の手作業に比べて業務プロセスが改善し、滞船料と早出料の早期算出による顧客サービスの向上にもつながっています。

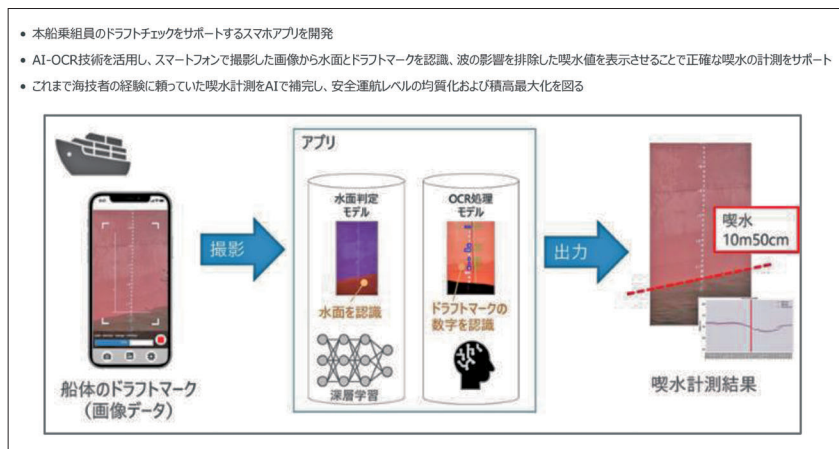
社外利用もスコープに入れていますので、関心をお持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ弊社担当者までご連絡をいただければと思います。

2つ目は、喫水の自動計測アプリケーションを開発いたしました(資料35)。アプリの名前は「ArchImedes(アルキメデス)」と言います。喫水を測る、す

資料34 弊社取り組み事例のご紹介①——ドライバルク船の滞船料・早出料自動計算システム(Chronusクロノス)の開発



資料35 弊社取り組み事例のご紹介②——喫水自動計測アプリケーション (ArchImedesアルキメデス) の開発



なわち船の浮力を測って、船の自重を引けば、貨物の数量がわかるということをやっていますので、そこから連想して、浮力が発生する原理を示したアルキメデスの原理から名前をとっています。

「アルキメデス」をアルファベットで書くとAとIが入っているのですが、それを大文字にして、AIを利用していることをアピールしています。

こちらもAI-OCR技術を活用して、スマホで撮影した画像から水面とドラフトマークを認識し、波の影響を排除し、喫水値を表現させることで、正確な喫水の計測をサポートするツールとなっています。

これまで海技者の経験に頼っていた喫水計測をAIで補完し、安全運航レベルの均質化と積高最大化を図っています。

これらは社船・仕組船以外の船主様からお借りしている長期備船にもアプリを提供し、運用拡大を進めています。

資料36をご覧ください。最後にご利用として、弊社では組織営業、環境営業を強化し、顧客の挑戦のパートナーとして選ばれ続け、主力キャリアとしてともに成長することを目標に掲げています。

海上輸送部分に限らず、食糧バリューチェーンにおける課題解決は、弊社

資料36 最後にお願い

顧客の挑戦のパートナーとして選ばれ続け、主力キャリアとして共に成長へ

野菜イラスト: Sea Owl/Shutterstock.com
トラクターイラスト: Zefir/Shutterstock.com

出典: JICAホームページ

食糧バリューチェーンにおける課題解決は、弊社担当者になんでもご相談下さい

例えば「安全」「効率」「環境」をテーマに、

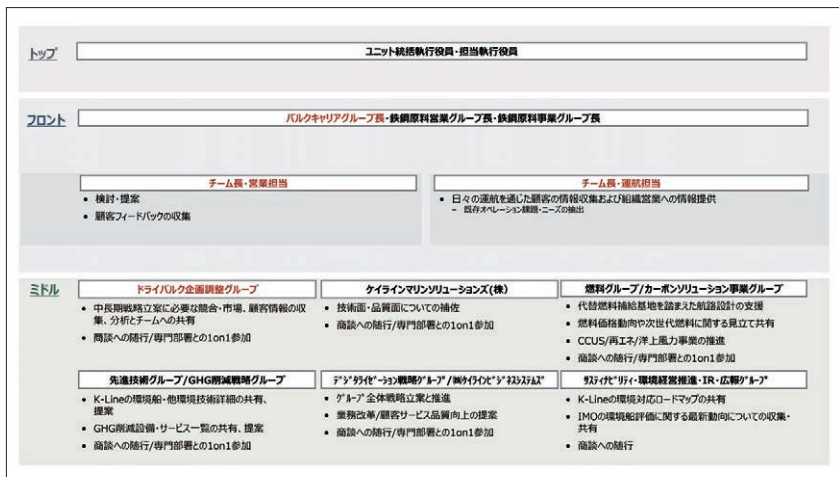
- 安全: 省人化(自動荷役、工場内横持ち輸送無人化)、センシング(予知保全、貨物保全)など
- 効率: DX(PF、Jミネーション、横付け、自動荷役、検数検査、原料調達/在庫管理等の効率化/最適化)など
- 環境: GHG削減(燃料転換、CCS/CCU)など

担当者に何でもご相談いただければと思います。

例えば、「安全」「効率」「環境」をテーマに、ここに記載してあることも一緒に検討を進めることができるのではないかと考えます。

資料37は、弊社の組織営業・環境営業体制図です。事業部門トップのコミ

資料37 弊社組織営業・環境営業推進体制



ットメントを得ながら、フロントの営業グループの後ろに我々ミドル組織が控えて、がっちりスクラムを組む体制を敷いています。ぜひさまざまな課題・ご相談に対して必要ご支援をさせていただければと思います。

最後までご清聴いただき、ありがとうございました。

(編注：本文資料は全て、川崎汽船㈱ドライバルク企画調整グループ提供です)

※質疑応答は誌面の都合により割愛させていただきました。

秋季為替セミナー開催のご案内

飼料輸出入協議会

恒例の為替セミナーを下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回も会場開催と同時にweb配信を行う予定です。どちらでのご参加を希望されるかも、お申し込みの際ご連絡いただきますようお願いいたします。

記

日 時：令和6年9月12日(木) 14時～15時30分

(会場開催の受付開始13時30分～)

場 所：新橋ビジネスフォーラム <http://biz-forum.jp/access>

港区新橋1-18-21 第一日比谷ビル 8 F TEL 03-5843-9169

演 題：『為替・金融市場の動向』（仮題）

講 師：丸紅経済研究所 シニア・エコノミスト 坂本 正樹氏

参加料：無料（定員となり受付できない場合のみこちらからご連絡申し上げます）

■参加ご希望の方は下記へお申し込み下さい。

飼料輸出入協議会 宮本宛 Email：jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp

電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551

アメリカ穀物協会主催

2023/2024年米国コーン・アウトルック・カンファレンスの講演から

アメリカ穀物協会日本代表

浜本 哲郎

2024年1月11日木曜日にアメリカ穀物協会主催2023/2024年米国コーン・アウトルック・カンファレンスが赤坂インターシティカンファレンス（東京都港区）にて開催されました。当カンファレンスでは、トウモロコシ生産の現状についてのレポートをネブラスカ州トウモロコシ委員会会長ジェイ・ライナースとオハイオ州トウモロコシチェックオフ委員会理事スコット・ハー、パナマ運河の状況を踏まえた世界の穀物サプライチェーンの課題についてアメリカ穀物協会副理事長ケアリー・シフェラスにより講演が行われました。

講演者略歴



ジェイ・ライナース ネブラスカ州トウモロコシ委員会会長
常に農業に強い情熱を持っている。ネブラスカ大学リンカーン校で一般農業の準学士号を取得。これまで全米トウモロコシ生産者の市場アクセス活動チーム，市場開発活動チーム，貿易・バイオテクノロジー活動チームの議長を務めた。



スコット・ハー オハイオ州トウモロコシチェックオフ委員会理事

オハイオ州 トウモロコシ・マーケティング・プログラムの理事を務めており，アメリカ穀物協会のアジア諮問チームのメンバーでもある。ハー・グレイン・ファームは，トウモロコシ収量コンテストで5度の州チャンピオンに輝いている。



ケアリー・シフェラス アメリカ穀物協会副理事長

アメリカ穀物協会の10の海外事務所とすべての世界的なプログラムを監督する責任を担っている。1993年の入職以来、国際業務／アジア担当マネージャー、東南アジア事務所アシスタントディレクター、日本事務所ディレクター、中国事務所ディレクター、チュニジア事務所中東・アフリカ・欧州地域ディレクター、2015年よりワシントンDC事務所にてグローバル・プログラム担当シニアディレクターを務め、2022年より現職

●ジェイ・ライナース ネブラスカ州トウモロコシ委員会会長

皆さん、こんにちは。ジェイ・ライナースと申します。今回、東京訪問をさせていただく機会を得て、大変うれしく思っております。実は、これが3回目、あるいは4回目の訪問になるでしょうか。私はネブラスカ州トウモロコシ委員会の会長を務めており、農業経営に携わっております。ネブラスカ州の中南部に、私どもの農場が位置しております。130年にわたる家族経営の農場で、私で4代目となります。

私の農場は、およそ1,100ヘクタール、1ヘクタール当たりの単収はおよそ16.9トンとなっております。ネブラスカ州は「黄金の三角形」とも言われているように、トウモロコシ生産、それに由来するエタノール生産、それから畜産生産の3産業が非常に盛んです。



ネブラスカ州の黄金の三角形

私は近隣の農家と同様に、最先端のテクノロジーを利用した精密農業を行っております。作付けについては、非常に多くのハイテクが搭載されている作付け機（プランター）を利用し、播種の状況をモニターで常に確認しています。作付けのみならず、施肥なども最先端の技術を採用、搭載して

行っております。このようなハイテクの利用が、農業経営の効率化に最も寄与しています。

圃場におきましては、土壌の水分のデータを補足するための機材を利用しています。そこから読み取った情報は私のスマートフォンに送信され、その情報に従って、いつ灌漑をするべきかタイミングを計っています。

現在駆使している最先端の生産技術のいくつかをご紹介します。まずは、かなり重点的に活用している衛星画像です。この画像データ



プランターによる播種作業



夏場の施肥作業



農業機械に搭載されているモニターで圃場の状況を確認する



ドローンの活用

は2, 3日おきに送られてきて、それらからどの程度の施肥が必要なのかを判断しています。それに加えて、単収の予測を立てることもできます。また、その後も肥料がどの程度不足しているのかも判断していきます。

2つ目はドローンの活用です。私どもの農場だけではなく、近隣の農家においてもかなり広がってきています。ドローンの映像を元に、除草剤や殺虫剤をどの程度使うべきか、あるいはそのタイミングを計っていくなど判断を下してまいります。

ネブラスカ州では、概ね60パーセントの農家が円形に灌漑するピボット（旋回）型の灌漑方法を使っています。私も同様に、スマートフォン上にアプリをダウンロードして、そこから情報を得ております。

●スコット・ハー オハイオ州トウモロコシチェックオフ委員会理事

スコット・ハーと申します。私どもの農場は、ハー穀物農場（Haerr Grain Farms）と呼んでいる、パートナーシップ経営の農場です。家族農場で私が4代目となります。

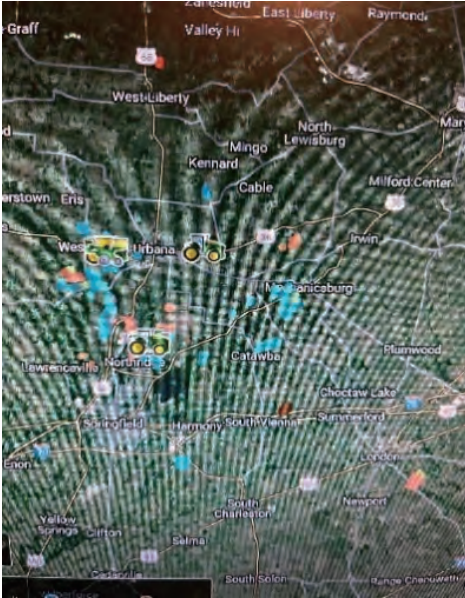


スコット・ハー農場

私どもの農場はコーンベルトの東部に位置するオハイオ

州にあります。農場ではトウモロコシとダイズを栽培しています。生産にはさまざまなテクノロジーを駆使しています。そのいくつかを紹介します。まず、テレマティクスという携帯端末やスマートフォンから機材の位置を確認し、それらからモニタリングをするシステムです。さらにGPSアンテナを搭載している農機を使うことによって単収のマッピングをすることができます。そして、精密農業を営む上で重要なデータを収集するフィールドマップを作成することができます。

生産コストのご質問を受けることが多いのですが、農家ごとに状況が異なる



テレマティクスによるモニタリング



GPS搭載コンバイン



コンバインでのモニタリング画面

ため、一概には言えません。大規模農家であれば農業資材の大口の調達が可能になるため、かなりのディスカウントを受けることができます。そのため、小規模農家よりもコスト面での削減が可能になります。また、調達方法も農家ごとに異なっています。資材を卸から調達する農家もあれば、小売りから調達する農家もあります。また、ディーラーにかなりサービスを依存している農家もありますが、その場合はかなりのコストアップとなります。

このような背景があるため、生産者のコストというのは一律ではなく、かなり開きがあるということは確かです。2024生産年度での生産コストは、低ければ1ブッシェル当たり4ドル20セントに抑えることができました。しかし、コストが積み上がっていくと、1ブッシェル当たり6ドルまで跳ね上が

ることもあります。それから、資材購入のタイミングも、コスト面で重要です。たとえば、十分な貯蔵施設を圃場に構えることができるのであれば、一括購入で、かなりコスト負担を軽減することもできるでしょう。

遺伝子組み換え作物を生産するメリットは、非常に多くあります。まず1点目は、環境に優しいということです。遺伝子組み換え品種を播種することがなかった以前は、除草剤だけに頼ることができず、畑を耕す耕起栽培によって除草を行っていました。耕起することによって、農業生産での二酸化炭素の放出量も増えてしまいます。ところが、除草剤がかかっても枯れない除草剤耐性遺伝子組み換え品種の開発で除草剤の使用が可能になり、播種後にも農地に生えている雑草を枯らすことができるので、耕起の必要もなくなりました。農地の土壌には、微生物などの働きで生じたCO₂が貯留されています。農地を耕すと、そのCO₂が大気中に出てしまいますが、不耕起であればCO₂土壌中に保持しておくことができます。

2点目は、遺伝子組み換えのハイブリッド品種を播種することによって、単収アップ、ひいては安定した供給も望むことができます。さらに干ばつ耐性、害虫防除に寄与する品種も出ています。

農家にとって重要なのは作物保険です。多くの農家は同じような考えを持っていると思います。この保険に加入することなくして生産を進めるということは、あまりにもリスクが大き過ぎると考えています。なぜならば、農業経営というのは、資本コストの負担が非常に大きいからです。連邦政府による助成と規制は、非常に大きな助けとなります。助成はもちろんのこと、規制の下での政策による管理も大きなメリットです。

作物保険の補償範囲や補償タイプには、実に多種多様なものがあります。範囲については、過去の生産量をベースに、50パーセントから、手厚くするのであれば95パーセントまでの補償をかけることができます。それから、収入保障のタイプの保険などもあります。さらに災害対応という面からは、例えば、干ばつ対策、あるいは洪水対策、ひょう、強風、暴風などの災害対応を対象とした保険などもあります。



洪水により水に漬かったトウモロコシ畑



干ばつで影響を受けたトウモロコシ畑

次にサステナビリティについてのお話です。これは最近極めて重要なトピックとなってまいりました。現在、主流となってきた不耕起栽培や保全耕起という手法があります。これらの手法は、土壌の浸食を抑えることができ、また土壌中の二酸化炭素を捕捉することによってその排出を抑えることができます。そして、被覆作物も重要な要素となっております。被覆作物は栄養素の流出を防ぎ、土壌を非常に健全な状態に保つことを通じて、土壌の組成を守る役割を果たしてくれま

す。そして、効率的な窒素肥料の施肥もポイントとなっております。例えば、土壌の状況に応じてピンポイントで施肥量を変えていくことによって、栄養素や肥料の流出を防ぐことができ、



前年度のトウモロコシ残渣が残っている圃場への大豆の作付け



前年度の大豆残渣が残っている圃場へのトウモロコシの作付け

効率的な施肥，効率的な土壌の管理も徹底することができます。米国の生産者が，作物保険などの米国農務省のプログラムへの参加資格を得るためには，環境保全条件に準拠していかなければなりません。つまり，生産者が，しっかりと保全計画を策定して，それを登録し，農業サービス局（FSA）に提出することが要件となっております。

前年にトウモロコシを栽培していた圃場に輪作でダイズを播種することが広く行われていますが，前年度のトウモロコシの残渣が残っている圃場に作付けます。またその逆の状況として，前年度のダイズの残渣

が残る圃場にトウモロコシを作付けします。

課題も多くあります。まず，一つ目の挑戦は，インフレへの対応です。インフレの影響は各方面で確認できます。トウモロコシ生産についても労働者の賃金，機材，種子，農薬，肥料など，すべてにおいてインフレの影響を受けています。そして，金利も非常に高い水準にとどまっています。今現在（2024年1月）の運転資金に適応される金利は8.5パーセントです。それから天候ですが，異常気象も頻発しています。例えば，干ばつの長期化，あるいは非常に厳しい洪水などが多発しています。一方で，うまくいっていることもあります。トウモロコシの単収も継続的に増大しています。今期の単収は記録的な水準に達し，記録を塗り替えています。単収のコンテストがありますが，その優勝者は1エーカーあたり623.8ブッシェルとなっております。これは，ヘクタールベースに置き換えますと，1ヘクタールあたり39.13トンとなります。さらに，化石燃料の低炭素の代替としての，エタノール需要の将来性も忘れてはなりません。

農場では高度なテクノロジーを搭載した播種機、収穫機をはじめ、ますます新たなテクノロジーが活用されてきております。さらにデータをあらゆるソースから拾い上げて利用するDXともいえる取り組みを行うようになってきました。

最後にまとめの言葉とさせていただきます。アメリカの農家は革新をやむことなく続けてまいります。それによって多くの穀物を供給し、世界に届けてまいります。世界の燃料と食糧の需要を満たしてまいります。ご清聴ありがとうございました。

●アメリカ穀物協会副理事長、ケアリー・シフェラス

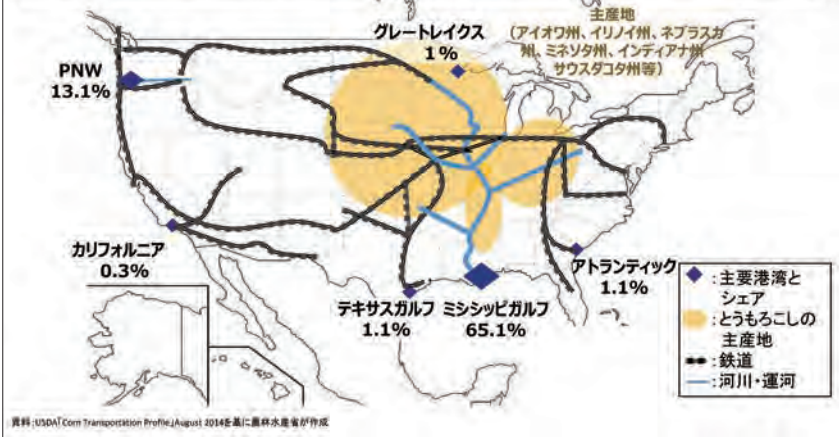
私からは、世界のトウモロコシ供給の課題について、お話をさせていただきます。世界各国での動きが、穀物の物流においてどのように影響を及ぼしているのか、ひいては、価格の変動にどのように作用しているのか、その点についても述べたいと思います。

最新の課題という観点から、皆さまが最も注目すべき項目を4点ここでお話いたします。まず、パナマ運河、そして、スエズ運河と紅海、加えて、鉄道輸送の障害とメキシコへの穀物出荷です。この状況がどのように日本における皆さまに影響を及ぼしているのか、その点についても述べたいと思います。そして最後に、黒海とロシア・ウクライナ紛争の影響について、お話いたします。

まず、早速ですが、パナマ運河を巡る動きについて、既に皆さんもよくご存じのことと思いますが、お話をしたいと思います。パナマ運河周辺の雨期は、例年、4月から11月になります。しかし2023年、エルニーニョの影響を受けて雨期の雨量はかなり限定的でした。そのため、湖水の水位が満たされず、開門の水位調節ができなくなりました。本来は、パナマ運河が機能するために、周辺の湖からパナマ運河に水が流れ、パナマ運河の門扉が開門されるたびに一定の水量が失われ、大西洋、あるいは太平洋へと流れていきます。

米国輸出時の穀物輸送経路（とうもろこし）

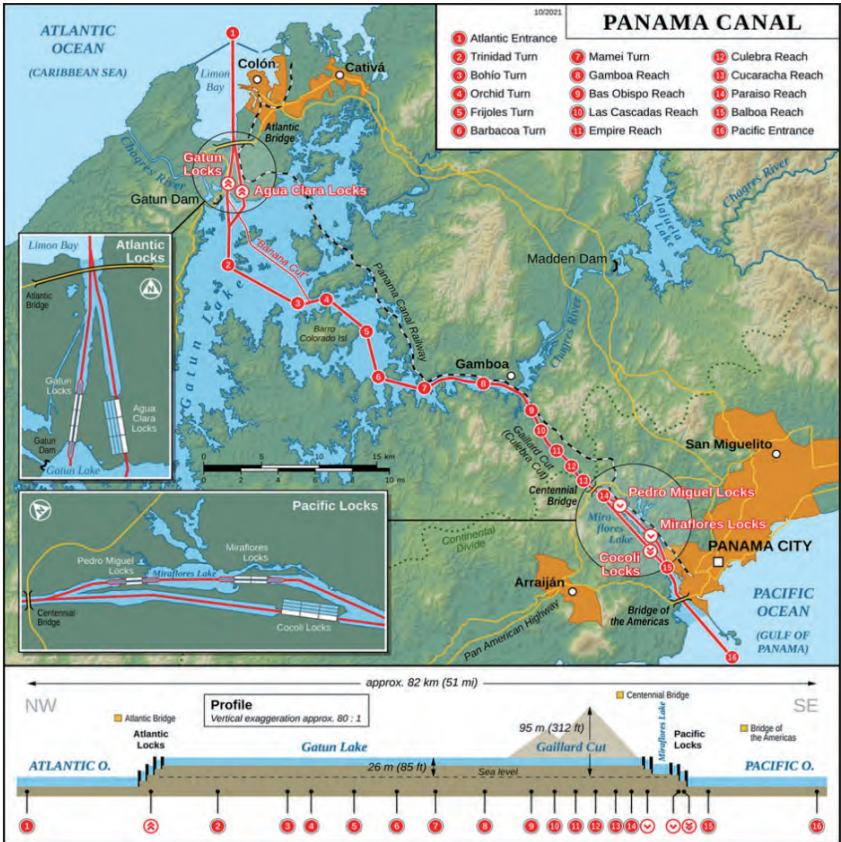
- 降水量の多い五大湖西部が主産地であり、そこから南に下るミシシッピ川を使った幹輸送が多い。ミシシッピガルフが総輸出量の約7割を占める。
- PNWからの輸出割合は小さいが、アジア地域への輸出の場合、海運距離が短くパナマ運河を通る必要もないため、ガルフより輸送コストが割安となる場合がある。我が国輸出への利用港も相場により変化する。



ガルフの輸出拠点であるニューオーリンズやテキサスの港から、アジア太平洋地域への貨物船の航路としては、パナマ運河を通過するのが一般的です。しかし、2023年12月から、これが難しくなり、大西洋と太平洋の両岸からの運河の通過のために、到着前に通過枠の予約を取っておかなくてはならなくなりました。

この予約には、パナマックスの船舶で5万5,000米ドル、ハンディマックスのサイズで3万5,000米ドルの費用が、運河通過料に加算されます。さらにパナマ運河当局は、通過枠を事前に設定しており、1日当たり22隻しか通過することができません。また、優先順位を付け、より高い通過料を支払う船舶に優先的に通過枠が与えられます。例えば、LNGを搭載している大型船舶、石油を搭載しているタンカー、コンテナ船、カーキャリアという自動車を運んでいる船、旅客船などに、優先的な通過枠が与えられ、バルク船舶は後回しにされてしまいます。

パナマ運河当局は過去のパナマ運河の利用回数に基づいて顧客のランキン



パナマ運河

グを設定しています。そのリストは、1位から610位まであり、順位が下の場合は通過枠を得ることさえ難しいということを意味しています。事実上、通過枠を得られる可能性は、トップ10に入らないと厳しくなります。さらに、パナマ運河当局は通過優先枠の順番を飛ばすための通過枠のオークションを定期的で開催しています。落札者はビッド価格を追加のコストとして支払わなくてはなりません。こうすることによって、順番を1日、あるいは2日、早められることもあります。しかしその場合は、トータルのコストはかなり高くなります。この入札価格の最近の水準は、おおよそ100万ドルから400万

ルで、これに通過枠の予約料と通過費用も加算されるとかなり高額な負担になります。現実的には、特にバルクの穀物、ダイズや油糧種子などを積載している船舶は、通過しようとしても、なかなかコスト面で厳しいです。

ちなみに、パナマシティの近くに、私どもアメリカ穀物協会はオフィスを構えております。パナマ運河当局から、車で約15分の距離にあります。行き来は頻繁にしており、当局と良い関係を構築してきたため、コストの最新情報を得ることができます。

このような事情から、ニューオーリンズ、あるいはテキサス州の輸出港からアジア太平洋地域に向かう海洋船は、パナマ運河を避けています。実は、12月にパナマ運河当局から規制が敷かれる以前から、既にニューオーリンズ、あるいはテキサスから、アジア太平洋地域に向かう穀物を積載している外航船は、パナマ運河をバイパスしている状況が見られました。あまりにも時間がかかり過ぎるからです。注意深く見ていくと、アジア太平洋地域へは、既に9、10月あたりから、遅延を解消するために、パナマ運河を避け、他のルートをとっております。代替ルートとしては、ニューオーリンズから地中海を経て、スエズ運河を通過して、アジア太平洋地域へ向かうルートと、喜望峰を通過してアジア太平洋地域へ向かうルートがあります。スエズ運河を通過するルートでは、航行日数は7から10日、場合によっては12日、喜望峰を通るルートでは、12から15日、場合によっては18日追加されるという情報もあります。ニューオーリンズから出航する場合には、もう一つ、南米の最南端のマゼラン海峡を通過していくルートもあります。航行日数がかかるということは、それに伴って、消費する燃料も増えていくため、コストも跳ね上がっていくということになります。また船舶の遅延に伴い、利用可能な船舶の空き状況も減ってくるので、さらにコストの追加に反映されていくこととなります。なお、コロンビアは南米の北部に位置していますが、大西洋のカルタヘナの側にも出航のための港を構えておりますし、また太平洋側にも構えておりますため、両方から出航する体制も組めます。

この状況に見舞われているため、米国から穀物輸出をする場合においては、



パナマ運河を利用しない喜望峰とマゼラン海峡を通過する輸送経路

物流面では、かなり変更をかけていかなければならないのは確かです。ニューオーリンズ、あるいはテキサスの港から出航するというのであれば、既にお話をしましたように、スエズ運河、あるいは喜望峰のルートを使わなければなりません。あるいは北岸、PNWの港から積み出しをするという手を使わなければなりません。

さらに、日本向けのトウモロコシとダイズが、東海岸のバージニア州ノーフォークから出航しているルートも確認されています。その場合は、東海岸から喜望峰、あるいはスエズ運河を経由して、輸送されます。

このような状況は、アジア太平洋地域への輸送にのみ影響を及ぼしているわけではなく、中南米市場にも影響を及ぼしています。また、先ほど少し触れたコロンビア、それから、さらにメキシコ、ペルーにおいても、影響を及ぼしております。このような地域にニューオーリンズなどからかなりのトウモロコシが出荷されてまいりましたが、そのロジスティクスにも影響を及ぼしています。

中南米について、もう少し触れたいと思います。それぞれの国の規模としては、かなり小規模ではありますが、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマなど、全て一つの地域として合算するのであれば、そ



中米諸国の港湾と飼料工場の立地

れなりの規模のマーケットがここに存在するということになり、400から450万トン相当の規模を誇っています。その中でもホンジュラスとパナマは、トウモロコシをはじめとする穀物を受け入れる港が大西洋側に位置しているという観点から、非常に恵まれていると思います。ホンジュラスとパナマでは、港と飼料産業あるいは工場が大西洋側にあるのに対して、コスタリカとニカラグア、エルサルバドル、グアテマラに関しては、主要な穀物の受け入れ港と飼料産業が太平洋側に位置していますので、通常であれば、米国から出荷されるトウモロコシとダイズは、パナマ運河を経由して到着します。

その中南米の状況は日本とは関係ないではないかと思いがちであるかと思いますが、グアテマラ、エルサルバドル、ニカラグア、コロンビア向けのトウモロコシの出荷は、PNWの港に輸送され、そこから太平洋を経て出荷され、それらの国々の太平洋岸の港に到着しています。そのため、本来であれば

PNWを使わない出荷先がPNWのエレベーターを使うことになるため、余裕がなくなってくるということになります。

そして、今のところはそれほど大きな問題には発展してはいませんが、今では中国向けのソルガムの出荷も、従来のテキサスではなく、PNWから出荷されています。併せて、トウモロコシも、台湾向け、韓国向け、それから、もちろん日本向けは、PNWから出荷されています。大豆はPNWを経て中国に向かっているというのは確かですが、数量や出荷ペースとしては、それほど大きなものではありません。なぜかという、中国向けのアメリカ産大豆の出荷量が減速し、ブラジル産が中国に向かっていることが背景にあるからです。

では次に、スエズ運河と紅海についてです。イランが、イエメンのフーシ派による紅海のバブール・マンデブ海峡での船舶の攻撃を支援しているという状況にあります。本来であればスエズ運河を経由してアジア太平洋に船舶を向けることにより、かなり時間短縮を図ることができるはずですが、フーシ派による攻撃に船舶がさらされることによって、スエズ運河の辺りだけではなく、紅海にも問題が及んでいます。主にコンテナ船ですが、コンテナ船にとどまることなく、石油や穀物を積載しているバルク船などにも及ぶことも考えられます。主要な船舶事業者は、スエズ運河から紅海を走行することを拒否しております。従って、全ての船舶が長距離ですが喜望峰を経由してヨーロッパに向かわざるを得ない状況に追いやられています。

主な攻撃対象はコンテナ船のため、石油、LNG、穀物、あるいは鉄鉱石や石炭などを積載しているバルク船などが紅海を経てスエズ運河を通過していますが、もしもフーシ派が攻撃の対象をバルク船にも広げるということであれば、かなりの危険が及ぶことになるでしょう。

では、メキシコとの鉄道輸送障害について触れたいと思います。アメリカの税関・国境取締局は、2023年12月18日に国境の二つの鉄道路線を封鎖しております。その二つというのが、エルパソとイーグルパスです。その背景には、不法移民を防ぐ政策があります。不法移民は、空のユニット貨



メキシコ国境の鉄道輸送閉鎖

車に乗り込み、鉄道網を經由して米国内に入っていきます。この状況に対応するため政策が採られ、その政策に応える形で税関・国境取締局が、この二つの鉄道路線を封鎖したのです。もちろん、全域にわたって封鎖したわけではなく、国境からせいぜい、1～2キロメートルほど外の部分を閉鎖したにすぎません。

このような状況下で、トウモロコシ、あるいは飼料の原料がそろわないのではないかという危惧が生まれたため、メキシコ側での飼料と家畜の生産者が、かなりナーバスになったのは確かです。それは米国からメキシコに輸出されるトウモロコシの約75パーセントが鉄道路線を利用して出荷されているからです。

これを解消するために、メキシコ政府はかなりの圧力を米国政府にかけま

した。4日間にわたり、昼夜問わず電話を掛け続けました。その努力が報われて、クリスマス直前の12月22日金曜日の午後2時に封鎖された2路線が再開されました。

このような状況は、日本には関係ないと思われるかもしれませんが、この25台ないしは30台の穀物を積載していたユニットトレインが国境を越えることができず待ち続けていたことから、ネブラスカ州、アイオワ州、あるいは、イリノイ州でも、積み荷された穀物が鉄道の再開を待っていた状況にありました。

つまり、従来であれば十分な容量の鉄道がPNWに向けて動くのですが、パナマ運河の問題があり、このメキシコとの国境での路線封鎖があり、本来使える貨物列車のスペースが埋まってしまって、動かすことができないという状況が生まれたわけです。これが日本向けの出荷に影響を及ぼさないとは言いきれないでしょう。この障害は、実際には5日間にとどまったのが幸いでしたが、これから先、再びこのような手を米国政府が使うことがないことを私どもは祈っております。

最後に、黒海と穀物ロジスティクスの課題についてです。国連と、ロシア、ウクライナの間で合意に至り、国連主導で輸送経路が定まったものの、2023年7月に、貨物輸送路が閉鎖されてしまいました。国連による輸送路は閉鎖されましたが、ウクライナは独自の輸送路を立ち上げております。それを使って、かなりの量のトウモロコシ、小麦、大麦などを黒海から輸送しています。穀物輸送などのルートの一つ目は、まず、ウクライナのオデッサ港を出発し、黒海の西岸をなぞるような形で移動し、イスタンブールのボスポラス海峡のほうに向かい、そこから地中海に向かう経路です。二つ目はウクライナから陸路で、トラック、あるいは鉄道網を使い、ルーマニアの港に向かって穀物を輸送し、ルーマニアの港から出荷するというルートです。そして、ロシアからも小麦、大麦、それから、量はあまり多くないですが、トルコ向けがメインのトウモロコシが独自のルートで輸送されています。

このような状況下で、ウクライナは390万トン相当の穀物の出荷に成功して



黒海と穀物ロジスティクス

きました。しかし、出荷先はスペイン、イタリア、エジプト、あるいはチュニジアなどの近隣諸国に限られています。アジア太平洋地域等遠方へ輸送されないのはいつ輸送網が中断されるか分からないうえ、輸送期間も50日あるいは60日となり、リスクが多大のものになるからです。

(1月11日の講演を一部再構成してお届けしました)

理事長新任あいさつ



飼料輸出入協議会

理事長 下石川 哲

(三井物産(株)食料本部 食糧事業部長)

この度、飼料輸出入協議会理事長に就任しました、三井物産の下石川哲です。重責を担うこととなり、身の引き締まる思いですが、日本の飼料業界、畜産、水産、食品業界の発展に少しでも貢献できるよう誠心誠意取り組んでまいります所存です。

昨今の我々を取り巻く世界環境は、気候変動、戦争、疫病、サイバー攻撃などグローバルに共通した中長期的課題が同時に顕在化しています。また、国内におきましても少子高齢化による市場の成熟、トラックや内航船の物流問題、各種設備の老朽化など業界全体にみられる喫緊の課題も少なくありません。昨年来の資材価格高騰に加えて、急速に進んだ円安による影響も依然根強いものがあります。さらには、若い人口に支えられた新興国の旺盛なタンパク質需要は増加の一途であり、各国で食の安定確保に向けて様々な施策が講じられる中、日本においても食料安全保障に関する具体論がよいよ熱を帯びつつあります。

もっとも、当会には様々な課題に直面したときこそ各社で知恵を持ち寄り、有効な現実解を見出してきた歴史と実績があります。

今後も日本の豊かな食生活を支える一翼を担い、更なる飛躍を遂げられるよう、当会が長年果たしてきた飼料原料の安定供給に引き続き尽力してまいりますので、監督官庁はもとより、飼料、畜産、水産等各業界関係者の皆さまのご支援とご協力を賜りながら、一歩ずつ前進できればと考えております。益々のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年度新役員，専門委員会の委員決まる

飼料輸出入協議会では，さる5月29日，令和6年通常総会を飼料輸出入協議会会議室にて開催し，提出議案は全て承認され，引き続き開かれた理事会において新役員並びに専門委員会の委員長，委員が以下の通り選出された。理事長には，下石川哲三井物産(株)食糧事業部長が選出された。

7月1日現在の役員は以下の通り。(社名アルファベット順)

役員

理事長	下石川 哲	(三井物産(株) 食糧事業部長)
副理事長	森 拓也	(豊田通商(株) アグリビジネス部長)
副理事長	岡本 英二	(丸紅(株) 穀物油糧部長)
副理事長	山西 真介	(伊藤忠商事(株) 飼料・穀物部長)
副理事長	永田 義典	(三菱商事(株) 穀物飼料部長)
会計理事	須藤 拓也	(双日(株) 食料事業部長)
理事	豊田 裕司	(カーギルジャパン(同) 飼料穀物部長兼蛋白飼料部長)
監事	岩瀬 裕紀	(兼松(株) 穀物飼料部長)
専務理事	姫野 健二	(飼料輸出入協議会)

専門委員会

1. 総務委員会

委員長	豊田通商(株)
委員	カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株) 三菱商事(株) 三井物産(株) 双日(株)

2. 主原料委員会

委員長	伊藤忠商事(株)
副委員長	三菱商事(株)

副委員長 丸紅(株)

委員 カーギルジャパン(同) 兼松(株) 三井物産(株) 双日(株)
豊田通商(株)

3. 副原料委員会

委員長 丸紅(株)

委員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株)
三菱商事(株) 三井物産(株) 双日(株) 豊田通商(株)

分科会

植物蛋白・糟糠類分科会

動物蛋白分科会

粗飼料分科会

分科会長

三菱商事(株)

兼松(株)

豊田通商(株)

4. 編集委員会

委員長 三菱商事(株)

委員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株)
三井物産(株) 双日(株) 豊田通商(株)

5. 安全性委員会

委員長 伊藤忠商事(株) (主原料委員長)

丸紅(株) (副原料委員長)

委員 カーギルジャパン(同) 兼松(株) 三菱商事(株)
三井物産(株) 双日(株) 豊田通商(株)

豚肉商品「どんぐりの恵み」のご紹介

伊藤忠飼料株式会社



今回は伊藤忠飼料株式会社おすすめの豚肉商品「どんぐりの恵み」のご紹介をさせていただきます。

1. 伊藤忠飼料株式会社について

弊社は「畜水産事業を通じて広く社会に貢献する」という経営理念のもと飼料の製造から農場の運営、食品の販売まで「食」に関わる幅広い事業を展開しております。食の細部まで想いを巡らせ、おいしく安全な食を創ることで、人々の豊かな生活と健康を支え続けてまいります。

2. 食肉事業について

弊社は飼料メーカーならではの商品の開発を行い、安心安全で高品質な豚肉を食卓に届けるために、「飼料」「品種」「飼養管理」にこだわった豚肉の生産流通を行っております。2022年には豚肉のおいしさの自社評価基準として、研究所にてこれまで蓄積されてきた官能評価・機械分析の結果を用いて「おいしさ基準」を策定し、お客様へのおいしさの見える化にも取り組んでおります。

3. どんぐりの恵み誕生秘話

弊社は、30年以上にわたり「飼料」「品種」「飼養管理」にこだわった豚肉の生産と流通に取り組んできました。しかし、そのこだわりや美味しさを消費者に伝えることが難しく、商売につなげるのに苦労していました。SPF豚

管理やこだわり飼料原料であるコブラフレークといった専門的な言葉が消費者にはなじみがなく、伝わりにくかったのです。ある冬の日、悶々とした思いを抱えていた際に猪鍋を食べる機会がありました。その猪鍋は、獣臭がなく滋味深い味わいでした。店主の「秋に取れる猪は山でたっぷりどんぐりを食べるから美味しい」という一言で、私たちはインスピレーションを得ました。イベリコ豚がどんぐりを食べて育ち、美味しいと認知されていることから、「どんぐり給与＝美味しい豚」というイメージが瞬時に浮かびました。こだわりを強調するのではなく、あえて控えめに、しかし存在感を持って商品を提供することを考え、研究所で商品開発を進めました。2012年に試作品が完成し、イメージ通りの、口どけよく甘い脂で決してしつこさが残らない豚肉に仕上がりました。翌年には首都圏の量販店で採用され、本格的な生産を開始しました。






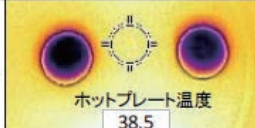
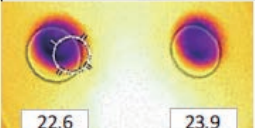
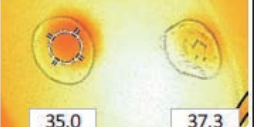
現在では「どんぐりの恵み」の専用農場が完成し、定期的に試食販売を行っています。試食販売では「柔らかくて旨味がある」「脂が甘くてさっぱりしていて美味しい」「この豚を食べたら他の豚が食べられなくなった」といった多くの好意的なフィードバックをいただいております。

4. こだわりのポイント







●専用飼料

飼料メーカーとして培ったノウハウを活かし、どんぐりやココナッツの絞り粕（コブラフレーク）、イムノビオス、カルスポリン、麦類などを配合した専用飼料を給与しております。

コブラフレークを飼料に配合することで口どけが良く甘い脂に仕上がります。また、一般豚と比較して冷めても脂が白く固まりにくく、お弁当などでもおいしくお召し上がりいただける豚肉になっております。

	加熱前		加熱途中		加熱後	
						
芯温						
	ホットプレート温度 38.5		22.6	23.9	35.0	37.3

▼調理後の脂が固まる様子

	ITS	一般豚
調理直後		
5分後		
15分後		

また、カルスポリンやイムノビオスを配合することで豚の腸内環境が良好に保たれ、臭みの無い肉に仕上がるため、豚肉が苦手な方にもお召し上がりいただきやすいと考えております。

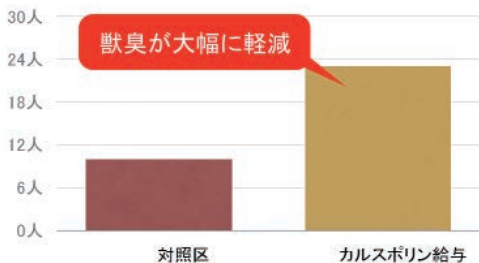
イムノビオスの効果

香調	豚脂		ローズ	
	対象区	イムノビオス	対照区	イムノビオス
メチオナル methional	>729	81	>729	>729
カードボード Iras-2-nonenal	>729	81	>729	>729
獣臭 4-methyl-phenol	>729	81	>729	9
獣臭・スカトール 3-methylindole	>729	9	>729	9

特に獣臭・スカトール濃度が減少

豚肉の匂い比較調査

条件 カルスボリンを過期給与した豚と、通常の飼料のみの豚と比較
両方の豚肉を塩水に浸け、33名のパネラーに「どちらの匂いが好みか」を確認



(カルピス株式会社 1996)

●品 種

弊社グループの株式会社シムコの種豚を使用しております。シムコは1964年に創業した種豚の専門会社で、種豚の繁殖や肉豚の肥育・販売などを手掛けております。豚の発育に悪影響を及ぼす特定の病気に感染していない「SPF

種豚」の生産を1972年から手掛けるブリーダーのパイオニアです。おいしさを追求した育種改良を重ねており、2017年にはシムコ種豚を利用する生産者が東京食肉市場豚枝肉共励会名誉賞を受賞するなど、その肉質は高い評価を受けております。

5. 最後に

弊社では「どんぐりの恵み」の他にも、肥育期国産穀物100%飼料を給与した「みちのくの心意気」や、国産の和栗を給与した豚「和栗豚」などの銘柄豚を開発・取り扱いのほか、こだわりの鶏卵の開発・販売も手掛けております。こだわりの卵「燦然」は昆布粉，梅酢，ココナッツオイル，植物性乳酸菌，マリーゴールドを含む飼料を使った贅沢な卵となっており，黄身は色鮮やかで，コクと旨味が自慢のおいしい卵ですので，ご賞味いただければ幸いです。

<お問合せ先>

伊藤忠飼料株式会社

広域営業推進部 食肉営業課

Email : its-meat@itochu-f.co.jp

駐在2カ月商社マンのニューヨーク食レポ



Columbia Grain International LLC.所属

川田 祐一郎

ニューヨークは言わずと知れた世界的大都市。各地から様々な国籍の人が集まり、彼らが織りなす文化や思想は色とりどりです。それが故、食文化という点でニューヨークに固有の特徴があるというわけではなく、イタリアンならここが美味しい、中華ならここが好き、といったそれぞれの料理の種類に応じた名店や個人的お気に入りが存在するように何となく感じます。

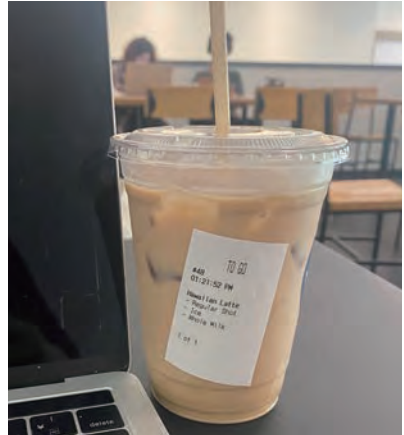
と、偉そうに述べたものの、ニューヨークに駐在して2カ月の筆者が、この街の食生活について読者の皆様にご説明するにはあまりにも日が浅いと言わざるを得ず、これまで海外に長期で生活したことのない私のある種の新鮮な、かつ観光客染みた経験の一端をご紹介します。

1. KONA COFFEE ROSTERS

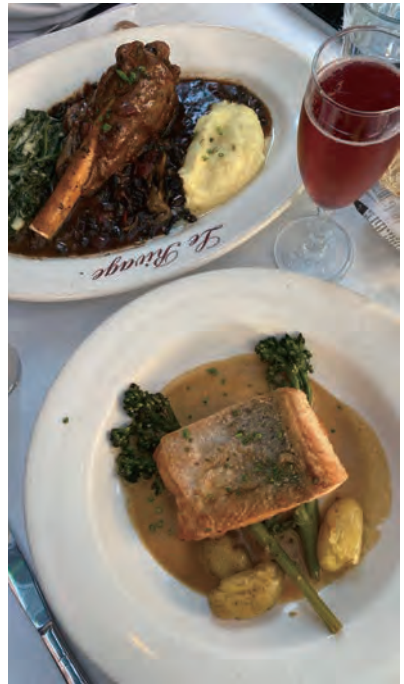
たまたまオフィスから近くて頻繁に訪れたコーヒーショップ。オススメはHawaiian Latte。日本では飲んだことのない味でしたが、店員に勧められるがまま購入。マカダミアシロップとココナッツシロップがコーヒーの味と相性が良く意外とハマってしまいます。クロワッサンサンドも美味しいです。

2. Le Rivage

こちらは地元民にも観光客にも人気のフランス料理店。ソテーやムニエルなどフランスの伝統料理を取り揃えています。店内で食べるのが一般的ですが、ニューヨークでは店の前に小屋を建てて、さながらテラス席のような



KONA COFFEE ROASTERS



Le Rivage

テーブルを用意しているお店も多数あります。晴れた涼しい日には屋外の席で食事をするのも気持ちがいいものだなと感じました。また、こちらのお店では週末の20時からジャズの生演奏があります。J-POPに親しんで久しい筆者ですが、ジャズの小気味良いリズムに耳を傾けると、柄にもなく少しだけ大人びた気分になります。

3. Smorgasburg

冒頭で述べたように世界な様々な料理が楽しめるニューヨーク。それらを同時に、かつ非常にリーズナブルに楽しめるイベントが毎週末開かれます。マンハッタンのEast 34th Streetから出ているフェリーに20分ほど乗りブルックリンにあるNorth Williamsburgで降ります。4月から11月の暖かい季節の



Smorgasburg

毎週土曜日だけ開催される野外フードフェスティバルで、世界中の出来立てのローカルフードを楽しめるので食べ歩きにぴったりです。筆者のお気に入りにはスペイン料理のテントで売られていたパエリア。職人たちが大釜を使い目の前でテンポよく調理する様子が見ていて楽しく、海鮮出汁で炊いた熱々のパエリアがとても美味しいです。買った食事をその場で食べられるベンチがイースト川沿いに併設してあり、マンハッタンの高層ビルが並ぶ景色も一緒に楽しめます。

4. Chelsea Market

こちらも様々な食が集まった市場兼レストランといった複合施設。様々なお店があり、一日ではとても回り切れませんが、筆者が入ったのは「Lobster



Chelsea Market

Place」という海鮮料理店。ここでは、新鮮な魚介類を生のままその場で食べることができます。ニューヨーク近郊で取れた牡蠣やあさり、エビなど食べたい食材を選びます。印象的だったのは牡蠣。日本で食べるものより小さくあっさりとしていて、とても爽やかな風味を感じられました。お持ち帰りもできるので、自宅での料理の食材調達にも便利なお店です。

5. Wolfgang's Steakhouse

歴代のアメリカ大統領や日本の総理大臣、スポーツ選手やハリウッド俳優にも愛されている、世界的にも有名な「Wolfgang's Steakhouse」。日本にも進出している店ですので、実際に訪れたことのある方もいらっしゃると思いますが、是非とも本場を味わいたいと思い奮発。筆者が訪れたPark Avenue



Wolfgang's Steakhouse

にある店舗は意外にも店内はそれほど広くなく、やや薄暗い照明の中で真っ白なテーブルクロスがひかれたテーブルが所狭しと並べられています。その間を身なりの整った大柄な男性ウェ이터たちが何人も行き交い、客の注文を次々に運ぶ様が何とも言えない現地感を醸しており、ワクワクした気持ちにさせてくれます。

筆者はポーターハウスステーキを注文。ここで使われている肉は厳選されたUSDA プライムビーフ。USDA と聞けば米国生活の浅い筆者にも馴染み深く、さらに高揚感が高まります。しばらくすれば熱々の皿に乗った巨大なステーキが運ばれて来て、ウェ이터がその場で付け合わせと一緒に取り分けてくれます。肉厚でジューシーな上、赤身肉ならではの旨味があり、脂肪分が少ないため量があっても平らげられてしまいます。付け合わせはクリームスピナッチとマッシュポテトが定番です。食べ終わった後のオススメは残った骨を持ち帰ること。これでカレーを作れば、骨についている残った肉も余すことなく使うことができ、骨から出る出汁がカレーを家庭レベルの味から一段引き上げてくれます。ウェ이터に頼めばラッピングしてくれますので、日本のお店でも試していただけるかと思います。



今回は紙面の都合上、以上の5店のご紹介にとどまりますが、筆者の限られた経験に基づく情報であるため、これ以外にも素敵なお店は数えきれないほどありますし、この業界にはより多くのお店をご存知の諸先輩方がたくさんいらっしゃいます。そんな中で筆者の感じることは、訪れる人それぞれにとって楽しめるお店を自由に探すことができ、「アメリカ」と一括りにはできない未知の世界にどんどん冒険できるのがニューヨークの醍醐味ではないかなと思います。是非実際に足を運んでみて下さい。

丸紅株式会社

我が社の穀物油糧 担当者のご紹介



◆高野 祐哉 (たかの ゆうや)

(穀物油糧部穀物課)

平素より大変お世話になっております。丸紅の高野祐哉と申します。2020年に入社して以降、穀物油糧部穀物課に所属し、トウモロコシ・マイロに関わる業務を担当してまいりました。プライシング、為替業務からトウモロコシやマイロのご商売まで一通り経験させていただき、今年度からトウモロコシのデリバリーを担当しております。

簡単にではございますが、自己紹介をさせていただきます。出身はカーリングで一躍有名になった北海道北見市です。学生時代はカーリングに全く興味を示さず、ラグビーに没頭する学生時代を過ごしました。大学進学を機に上京し、世田谷区にあるラグビー部の寮で4年間ラグビー漬けの生活を送り



ました。毎朝6時半開始の早朝練習を終えてから、自転車で大学の1限に向かい、20時頃まで実験室で研究し、帰寮後はウェイトトレーニングに勤しむという、思い出ただけで目眩がするような過酷

な大学時代を過ごしました。しかし、お会いする多くの方からは、理系には見えないと言われることが多く、非常に複雑？な気持ちです。

丸紅入社後は楯岡球から距離を置き、週末はキャンプや旅行にいき、お酒を飲んだり、読書をしたり、優雅な時間を満喫しております。写真は昨年アメリカ旅行で訪れたSedonaのサンセットです。エネルギーに満ち溢れたスポットで、今まで訪れた地で断トツにオススメの場所です。

また、今年で社会人5年目を迎え、新しいことにチャレンジしてみようと料理を始めました。洗い物が少なく、食べ応えがある料理を選定し、専らパスタばかりを作っております。書籍「パスタ365」を購入し、1ページから順番にトライしていますが、序盤で登場するペンネがなかなか入手できず、私のパスタチャレンジは4月から足踏みをしています。ぜひ、ペンネお持ちの方がいらっしゃれば、おすそ分けいただけると嬉しいです。腕を振るってご馳走します。

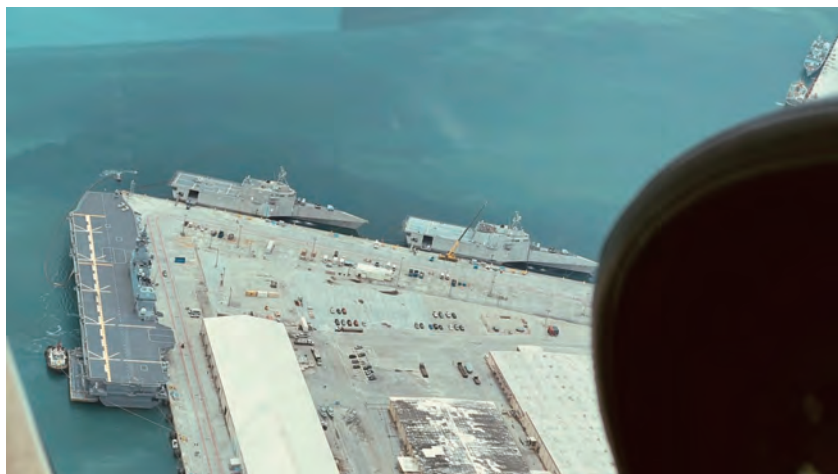
まだまだ若輩者ですが、飼料原料の安定供給を牽引し、日本の食卓を支えている飼料畜産業界の更なる発展に貢献できるよう精進いたしますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

◆小玉 大空 (こだま そら)

(穀物油糧部穀物課)

2024年4月より穀物油糧部穀物課に異動してまいりました小玉大空と申します。現在はコーンの商売に加え、フレート業務も担当しております。当社では珍しい？中途入社です。丸紅には2022年に入社し、穀物油糧部の事業開発課で2年間従事しておりました。社内ではミリタリーオタクで通っています。飼料の輸出入には、大型船&海上輸送が欠かせない要素であり、普段からフレートという形で船に関われることを嬉しく思っております。

写真は、海上自衛隊とアメリカ海軍の合同演習を見るためにグアムに旅行に行った際に、自分でセスナを操縦したときの景色です。パナマックスとほ



ほぼ同じ全長230mの「いずも型護衛艦」もしっかりと見ることができました。軍艦同様にパナマックスも30ノットで航海してくれればいいのに…と思う日もありますが、業務ではコスト最優先でエコ航海をお願いしたいところです。

肩書過多かもしれませんが、獣医師免許を持っていることもあり飼料が畜産においていかに重要であるかも理解しているつもりです。今後は飼料に対して原料という形で貢献していきたいと思います。

◆北田 夕梨菜（きただ ゆりな）

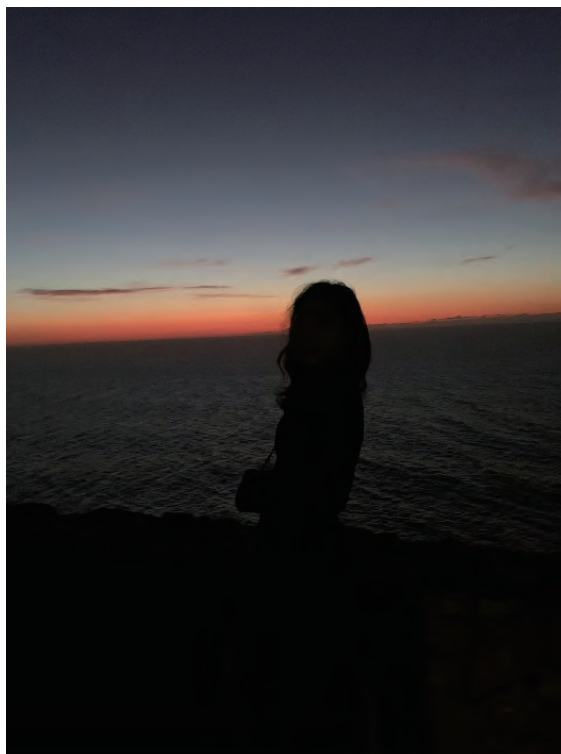
（穀物油糧部穀物課）

皆さまお世話になっております。丸紅の北田夕梨菜と申します。

2022年4月に入社以来、経理の部署で2年間決算業務等を経験した後、2024年4月に穀物油糧部に異動いたしました。現在はマイロの買付／商売／受渡し、およびコーンの受渡し補佐を担当しております。穀物業界は産地のクロープ状況だけでなく、世界各地の地勢や財政、外交状況など多様な要素からマーケットが形成されており、非常にダイナミックで、日々学ばせていただけることは本当に多いと実感しております。

出身は大阪で、就職まではずっと関西に住んでおりました。音楽がジャンル幅広く大好きで、R&B, Hiphop, Alternative, House など…休日家にいるときはエンドレスに流しております。高校時代からJazzダンスをやっており、社会人になった今もたまにレッスンに行きますが、今後も趣味として続けていきたいです。海外旅行も大好きで、写真は大学時代に行ったポルトガルのロカ岬で撮ったものですが、ユーラシア大陸最西端から見る日の入りは本当に綺麗で感動いたしました。

皆さまの食生活の根幹ともなる穀物の安定供給に向け尽力してまいる所存ですので、今後とも何卒よろしく願いいたします。



わが社飼料関連部署の新人紹介



(社名、順不同)

兼松株式会社



熊谷 孝陽 (くまがい たかあき)
穀物飼料部 副原料課

4月に兼松の穀物飼料部副原料課に配属されました熊谷孝陽と申します。

出身は福島県で、皆さんの想像を絶するド田舎で生まれ育ちました。どれくらい田舎かというと、実家周辺が数年前に限界集落に認定されたくらいの田舎です。大学も宮城県だったためこの春上京してきまして、やっと人の多さに慣れてきたところです。

地元が田舎過ぎてやる事がなく、幼少期は山や川で遊ぶことが多かったため体を動かすことが好きです。そのため中学生までは野球部、高校と大学ではラグビー部に所属しておりずっと体育会で生きてきました。現在も月に1回はラグビーをしています。そのため最近ジムに通い始め、MAXの重量を更新するべく日々バーベルを担いでいます。

大学の受験期から深夜ラジオにハマリ、今でも週15本ほど聴いています。大学生の時には毎日朝5時までラジオの生放送を聴いて、6時30分から始まる部活に行きタックルをする生活を4年間続けました。一番好きな番組は三四郎のオールナイトニッポンで、基本的に番組が放送される金曜27時～29時は起きていることが多いです。

私の地元には畜産業で生計を立てている人が数多くいます。そのような環境で育ったこともあり、今後飼料を通じて農家の方々を支えていけること大

変嬉しく思っています。まだまだ分からないことばかりですが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



最上 空 (もがみ そら)
穀物飼料部 粗飼料課 牧草チーム

本年度より新卒採用にて入社しました最上空と申します。粗飼料課牧草チームに配属となりました。皆様に名前と顔を是非覚えていただこうと思ひまして、簡単ですが自己紹介をさせていただきます。

私は東京の小平市で生まれ、小学校は地元小平、中高は八王子市、大学は神奈川県藤沢市と誰もが羨む生粋のシティーボーイとして育ちました。名前は姓が最上、名が空と歌舞伎町で万年No.3で治まっていそうな名前ではございますが、私自身は大変気に入っております。

私自身を理解してもらうために欠かせない要素2つを紹介させていただきます。1つ目は小学生の頃から取りつかれている競馬です。家から近い東京競馬場にはまだ馬券も買えない時代から通い、駆け抜ける馬に魅了されました。現在もその気持ちは変わっておらず、週末は東京か中山と競馬場に勤しむ日々を楽しんでおります。

2つ目は実家で暮らしている4羽のウサギたちです。これまた小学生の頃から一緒に暮らしてきたのですが、家族4人のうち自分を除く3人が牧草アレルギーであり、かれこれ10年以上チモシーを担当してきました。チモシーの香り、色、硬さなどを見極める感覚は好き嫌いの激しいウサギに鍛えられました。

そんなご縁もあってか、弊社に入社後は粗飼料課の牧草チームへ配属となりました。これから安定した飼料の供給で日本の食を支えることに携われること、大変光栄に存じます。至らぬ点多々あるかと存じますが、ウ

サギと馬に鍛えられたエンドユーザー視線を糧に、飼料業界の発展に貢献できるよう最大限尽力いたします。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



大津留 隆世（おおつる りゅうせい）
穀物飼料部 穀物課

皆様はじめまして。兼松穀物飼料部穀物課に配属となりました，大津留隆世と申します。高校までは福岡県福岡市で過ごし，大学進学タイミングで上京しました。スポーツは小中高と野球をやっていました。小学校中学年までは図鑑を読むのが大好きな少年で，親に化学キットをおねだりし，夢は科学者と将来有望でしたが，野球を始めてからはそんなことはすっかり忘れて，気づけば文系の人間になっていました。高校の思い出は全校生徒の前で漫才をしたことです。学年1怖い先生をあえてイジリ，その先生がにやりと笑ってくれた瞬間はたまらなく快感でした。

大学では開発経済学を専攻し，「途上国における民主化はその国の乳児死亡率を低下させるのか」というテーマを立て，データ分析を用いた研究を行いました。また，サークルは野球サークルに所属していました。コロナ禍で失った活気を取り戻すため新歓を必死にやった結果，何故か野球未経験者ばかりが集まり，試合にはほとんど勝てませんでしたが非常に楽しい4年間でした。

私は人と関わることが好きで，人に心を開くのがかなり早い方だと思います。そのような背景から，人と人との繋がりがビジネスを生む商社業界に興味を持ち，入社しました。未熟者ではありますが，皆様のご指導とご鞭撻をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

双日株式会社



浅見 昂志 (あさみ こうし)

食料事業部 食料原料課

はじめまして。この度、双日株式会社食料事業部食料原料課に配属となりました、浅見昂志と申します。私は高校までは大阪で育ち、大学から大学院まで福岡の大学に通っていました。大学では体育会のサッカー部に所属し、泥臭いプレースタイルでサッカー中心の生活を過ごしていました。同時に幼少期から農地や自然が好きで、大学院では畜産害虫防除、具体的には「牛の血を吸うハエに寄生するアリンコみたいな蜂」の研究に熱中していました。

農業に携わっていた祖父の影響もあり、食への関心が高く、「美味しいものさえ食べればそれでいい」という祖母の言葉は今も自分にとって大切な価値観になっています。そんな中、食生活を支える食料原料課に配属され、身が引き締まる思いでいっぱいです。

ATM（明るく、楽しく、前向きに）の精神で、時に泥臭く、誠心誠意仕事に励んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

三井物産株式会社



八代 快 (やしろ かい)

食糧事業部 飼料穀物室

本年4月より三井物産に入社し、飼料穀物室に配属されました八代快と申します。生まれも育ちも東京で、22年間実家暮らしを続けていたため、現在

一人暮らしをしている寮の一室は混沌を極めております。5歳から始めたサッカーに人生の大半を費やし、大学まで競技に熱中しておりました。特に高校と大学では部活の主将を務め、チームをまとめることに苦心しながらも仲間と切磋琢磨するという学生生活を送りました。ポジションはセンターバックで、足元の技術より大きい声、熱い闘志が持ち味です。現在でも週末には社会人サッカーに参加し、5歳児の頃と同じ気持ちでボールを追いかけます。

大学では法・政治学を専攻しており、食料業界とは接点を持たずにおりましたが、幼少期から現在まで食事に目がなく「美味しいものをたくさん食べる」が人生のモットーであるため、食料バリューチェーンの根幹たる飼料穀物ビジネスに携わることができ大変光栄です。我が国の食料安定供給を守る「穀物業界のセンターバック」を目指し、明るく素直に業務に邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

..... **丸紅株式会社**



河村 侑京 (かわむら うきょう)
穀物油糧部 穀物課

皆様、初めまして。この度、穀物油糧部穀物課に配属となりました河村侑京と申します。中学時代にベトナムに留学していた経験があり、グローバルに働きたいという思いで、入社を決めました。

大学時代はコロナ渦でしたが、ウーバーイーツ配達員として朝から晩まで街中を駆け回る日々を過ごしておりました。

趣味は音楽と服です。何かに影響されることが多く、カリスマ性のあるアーティストに惹かれ、服装もその人の真似をしてしまいます。

配属から2カ月が経ちますが、いまだに慣れないこと、わからないことも

数多くございます。まだまだ未熟ではございますが、活躍する人材になれるよう精一杯努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

豊田通商株式会社



中川 湧斗（なかがわ ゆうと）
アグリビジネス部 穀物受渡グループ

皆様、初めまして。ライフスタイル本部アグリビジネス部穀物受渡グループに配属となりました、中川湧斗と申します。福岡県福岡市で生まれ育ち、大学院修了後の就職を機に上京しました。大学・大学院時代は農業気象学領域で、小麦収量と温暖化の関係について研究しておりました。台湾への語学留学の際には、「世界で農業ビジネスを行いたい」という内容で中国語のスピーチコンテストへ出場しました。大きなフィールドで農業ビジネスに携われることをうれしく思います。一日でも早く業界に貢献できるよう精一杯努力します。どうぞよろしくお願いいたします。



石井 水咲都（いしい みさと）
アグリビジネス部 穀物受渡グループ

皆様はじめまして。

アグリビジネス部穀物受渡グループに配属となりました石井水咲都と申します。

幼い頃の海外経験から、様々な文化や価値観に触れることができる「言語」に興味を持ち、大学ではスペイン語を専攻しておりました。

3年時には、スペインでワーキングホリデーを行い、現地でのインターンシップや牧場でのボランティア活動など様々なことに挑戦してまいりました。

趣味は旅行で、今までに15カ国以上を訪れて多くの人々に出会い、沢山の刺激を受けてきました。今一番行きたい地域は、南米です。

配属から約2カ月が経ちますが、穀物業界の変化の激しさとスケールの大きさに驚きながら、ひたすら先輩方の背中を追いかける日々充実感とやりがいを感じています。至らぬ点が多々あるかと存じますが、少しでも早く皆様のお役に立てるよう、好奇心を忘れず素直に謙虚に精進してまいります。

ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

..... **伊藤忠商事株式会社**



山崎 美樹 (やまざき みき)
飼料・穀物部 飼料課

皆様初めまして。今年度飼料課に配属となりました、山崎美樹と申します。私は生まれも育ちも関西で、今年4月に初めて上京いたしました。大学・大学院の6年間はコメの遺伝子について研究しながら、農業サークルで枝豆を栽培しておりました。農業は天候や個体差など様々な要因に左右され、どんなに尽力しても100%自分の思い通りにならない分野です。学生生活を通じて、結果に一喜一憂せずにやるべきことをやる精神を得ることができました。

学生時代の経験から、人々の生活に欠かせない「食」を支えたいという思いを胸に入社いたしました。飼料という食の根幹にあたる分野に携われることを嬉しく思います。至らぬ点ばかりでございますが、一日も早く皆様のお役に立てるよう精進してまいります。

ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



友田 有紀 (ともだ ゆき)
飼料・穀物部 飼料課

皆様、初めまして。飼料課に配属されました新入社員の友田有紀と申します。東京出身で、大学時代は学園祭実行委員会で広報として活動し、学園祭のパンフレットを作成していました。またゼミでは、開示情報と企業価値の関係性をテーマに研究しておりました。これらの経験を通じて培った、人を巻き込む力と多方面から精査する姿勢を業務でも最大限活かしていきたいと考えております。

趣味は食べることと神社巡りです。都内以外にも範囲を広げ、昨年は奈良の大神神社に行きました。さらに趣味を増やすべく、最近はゴルフにも挑戦しています。

飼料業界に足を踏み入れて2カ月、まだまだ分からないことだらけですが一刻も早く皆様に貢献できるよう努力してまいります。

皆様ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

三菱商事株式会社



角田 花 (つのだ はな)
穀物飼料部 麦チーム／オイルシードチーム

座右の銘：人の振り見て我が振り直せ

今年度入社いたしました、麦チーム角田花と申します。

学生時代は、中高で吹奏楽部に、大学でオーケストラに所属しオーボエという楽器の演奏を続けてまいりました。

人々の生活に身近な商材に携わるビジネスに従事したいと希望しており、そ

の根幹を成す食分野での業務を担当できることを大変嬉しく思っております。

一日も早く皆様のお役に立てるよう精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



堀江 晃平 (ほりえ こうへい)
穀物飼料部 コーン・マイロチーム

座右の銘：選んだ道を正解にする

この度、穀物飼料部コーン・マイロチームに配属になりました、堀江晃平と申します。

大学では農学部に在籍し、食品生物化学を専攻する傍ら、体育会ラクロス部に所属し、汗を流す日々を送っておりました。

常に好奇心を持ちながら日々の業務に邁進し、1日でも早く業界の皆様に貢献できるよう努めてまいります。

未熟な私ではございますが、精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



山下 輝 (やました ひかる)
穀物飼料部 飼料チーム

座右の銘：好きこそものの上手なれ

今年度入社いたしました、飼料チームの山下輝と申します。

大学では運動会アメリカンフットボール部に所属しておりました。また、大学院での研究では、福島県の飯舘村で新規就農者支援を行っておりました。

皆様にいち早く貢献できるよう、日々の業務に真摯に向き合い、精進してまいります。

未熟な私ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い
いたします。

カーギルジャパン合同会社



鎌谷 凌平 (かまたに りょうへい)
穀物油脂本部 バルクグレイングループ 飼料穀物部

皆様初めまして。2024年9月飼料穀物部に中途入社いたしました鎌谷凌平
と申します。

2017年に大学卒業後、前職では飼料添加剤メーカーに在籍しておりました。
全国の畜産農家様を回り、動物の状況や畜舎の環境などを見ながら、畜産農
家様の生産性向上に寄与できるような提案をすべく日々の業務に従事してい
ました。

一眼レフでの写真撮影が趣味で、休日は外に出て街並みや動物園の写真を
撮っています。特に動物は瞬間ごとに違う表情を見せてくれるので、撮影の
たびに違った画が撮ることができて大変楽しいです。

またバイクやキャンプも趣味で、ツーリング先のキャンプ場に行き、ハン
モックで揺られながら読書などをすると、最高の週末を過ごしたと感じます。

至らぬ点も多々あるかと思いますが、皆様のお力になれるよう日々精進い
たします。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

米国産トウモロコシの需給とシカゴ相場動向



<小國聖仁氏>



<坂井勇人氏>



<平山伸弘氏>



<黒川尚暉氏>



<平西滉太氏>



<遠藤雄太氏>



<片岡寿平氏>



<山口大河氏>

司会 皆さん、暑い中、お集まりいただきありがとうございます。主原料座談会を開催させていただきます。司会は伊藤忠商事の山口が担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

早速ですが、はじめに6月末までのシカゴコーン定期相場展開総括ということで、豊田通商の片岡さん、お願いいたします。

● 6月末までのシカゴコーン定期相場展開総括

片岡 よろしく申し上げます。豊田通商の片岡です。私から1年間の相場の振り返りをさせていただきます。

昨年の座談会が7月4日でしたが、直近限月7月限の終値は¢557.25でし

出席者

(社名ABC順, 敬称略)

小國 聖仁 伊藤忠商事(株)飼料・穀物部飼料課
坂井 勇人 兼松(株)穀物飼料部穀物課
平山 伸弘 丸紅(株)穀物油糧部穀物課
黒川 尚暉 三菱商事(株)穀物飼料部コーン・マイロチーム
平西 滉太 三井物産(株)食糧事業部飼料穀物室
遠藤 雄太 双日(株)食料事業部食料原料課
片岡 寿平 豊田通商(株)アグリビジネス部コーン・大豆グループ
<司会>
山口 大河 伊藤忠商事(株)飼料・穀物部飼料課

た。昨年は、今年と違って大きなインバースになって、9月限では¢488という形になっていました。

1年間でいうと、期近限月の最高値は7月14日につけた614.75、最安値は6月末につけた390.50という形になっていました。

昨年6月は米国で乾燥懸念があって価格を上げていたのですが、6月末、座談会のちょっと前に恵の雨ということで、乾燥懸念が大幅に緩和されてマーケットが急落したところが、ちょうど1年前だったのかなと思います。

その後、ロシア、ウクライナの緊張の高まりなどで強含む場面もありましたが、2カ月ほどかけて¢450まで値を下げました。

その後も麦の連れ高とかで一時的に強含むこともあったかと思いますが、基本的にはだらだらと3月頃まで値を下げたという展開だったのかなと思います。

3月以降は、また米国で土壌水分不足が話題になりましたが、6月にまとまった雨を観測してコンディションは結構改善していった、つい先日、6月末には6営業日連続で下げて、6月末の四半期レポートで予想を上回る作付面積と在庫ということで、また値を大きく崩して最終日を終えた、という1年だったのかなと思います。

直近に関しては、下値の支持線をブレイクしたのかなということで、一段下の相場になったのかなという状況かと思います。

司会 ありがとうございます。

続きまして、23/24年度の供給動向について、伊藤忠商事の小國さん、お願いいたします。

●23/24（旧穀）米国産トウモロコシ需給見通しについて

<供給動向>

小國 伊藤忠商事の小國です。旧穀の23/24年の供給については、6月に発表されたUSDA需給報告の数字をもとにお話ししますが、供給サイドの数字はほぼ固まってきております。まず作付面積は94.6百万エーカーと過去を見ても歴代3位、単収は177.3bu/エーカーと生産高の153億buは歴史カルハイという実績でした。ちょうど1年前に発表された時分と比較しても、作付面積はほぼ同じ、傾向値単収は177.5からあまり変わらずということで、昨年の作付の順調さ、あと受粉期の干ばつがあまり影響しなかったところが大きいのではないかと思います。結果的に米国産は過去最高だったのですが、世界的に見ても、ブラジル、アルゼンチンの出っ込み引っ込みはありますが、供給量は潤沢だったのではないかというレビューになります。

司会 ありがとうございます。

今度は、旧穀の需要動向について、三井物産の平西さん、お願いします。

<需要動向>

平西 三井物産の平西と申します。昨年、トウモロコシのデリバリーを担当してまして、今年から飼料用麦のデリバリーと商売を担当させていただく予定です。本日はよろしくお願いいたします。

まず旧穀の需要見通しについては、USDAの6月発表では5月から据え置きで147億bu、22/23クロープの137億buから10億bu増えているような形になっています。この10億bu増加の内訳については、国内での需要・輸出どちらも5億buずつくらい増えているという報告になっています。



座談会風景

特にこれから変動が起こる可能性があるのは、エタノールと輸出の2点と考えております。現状、エタノール需要は、USDAの発表では、昨年から2.74億bu増加の54.5億buになっていて、国内ではドライブシーズンになり、国内需要堅調、エタノールの輸出も好調となっています。

ただ、現時点までのウイークリープロダクションの積み上がりを見ていきますと、過去の傾向からして、果たしてこの54.5億buまで膨れるのかは、ちょっと懐疑的に見ていまして、弊社予想では54.2億buで置いています。

輸出に関しては、メキシコが国内の不作により輸入量が増えていて、これがUSに流れてきています。現状、エクスポートセールスも順調に積み上がっていて、現時点のUSDAの発表は21.5億buに対して、輸出はもう少し増えて22.5億bu、これから1億buくらい増えるのではないかとこの予想で見えています。

その他の飼料と食用については、USDAの予想のまま、特に大きく動く材料はないのかなと弊社としては見ています。

司会 ありがとうございます。

では、6月末発表の四半期末在庫について、双日さん、お願いします。

● 6月末発表の四半期末在庫について

遠藤 双日の遠藤と申します。昨年、出向先の宮崎県の鶏肉会社から戻ってきました、12月より受け渡しの担当をしています。まだまだ新参者ではございますが、よろしく願いいたします。

6月末発表の四半期末在庫は、6月1日時点で49億9,300万buとなり、これが予想平均値48億buを上回る結果となりました。

同時に発表された作付面積と共にサプライズな結果となりまして、昨年6月1日時点と比較しますと、41億300万buであることを考えると、9億buほどの増加となっています。

保管場所の内訳としては、30億buが農家内の在庫、19億buがサイロ等農家外在庫で、その割合は61対39となっています。

昨年同時期は22億buが農家内在庫で、19億が農家外在庫となっていましたので、農家内在庫が8億buほどの増加となったことが分かります。

この四半期末在庫は、直近4シーズンではハイエストであり、コロナ直前である19/20年度と同水準であります。相場が急騰するコロナの2021年以前である14/15～19/20年度にあたる在庫率が12～16%だったことを見ると、この数字に近いというのが、今回の四半期末在庫の数字になります。

司会 遠藤さん、ありがとうございました。

四半期末在庫について、何かご意見がありましたらお願いします。

小國 四半期末在庫の発表の際は、既に成約している在庫とそうでない在庫の数量は発表されるんでしたっけ？それが分かれば今後8月末までに輸出される数量は凡そ分かると思ったんですが。

遠藤 数値的には出てなく、把握し難い認識です。

司会 たしか四半期末在庫は実際の物があるか・ないかのデータにつき、成約がついている貨物も在庫としてカウントされているという記憶です。

小國 ありがとうございます。

司会 最後に、旧穀の期末在庫率の見通しについて、各社からご意見をいただければと思います。では、伊藤忠商事の小國さん、お願いします。

● 期末在庫見直し

小國 まず在庫率の予想値は14.1%、今から0.3%上昇すると弊社は見ています。

供給サイドは先ほど申し上げたようにあまり変動要因はないかと思ひ今の供給量を置いています。需要サイドは、先ほど平西さんからあったようにエタノールと輸出の2つが変動要因だと思っています。エタノールは、少し上方修正される可能性があるのではないかと思います。その理由の一つは、今の生産量は、1日あたり1Mバレルくらいで、これが続けば、今の54億buは達成する見込みです。この生産量がどうやって維持されるかという点、一つはエタノールマージンが回復してきている。つまり、エタノール企業にとっては、生産するインセンティブが高まってきていること。もう一つは、ドライブシーズンに加えて、夏季のE15の制限が撤廃されたことで、今後、ガソリン向けのエタノール需要が増えていくことが考えられます。そのため、ここは54億buが55億buになるのではないかと思います。

輸出については、6月20日時点の輸出の累計は17億buであり、8月末までの約10週間で、目標値から17億buを差し引いた残りの4億5,000万buが輸出可能なかと検証した時、少し難しい数値だと捉えています。2020-2023年の6月末から8月末までのアメリカの輸出実績を考えても多くても3億buということで、今後南米が競争力を持つ中でアメリカ輸出は伸びるのかと言われると、ちょっと懐疑的なところはあるかなと思ひ、8月末の輸出量の着地は20億buくらいが妥当かなと思っています。エタノールの増加と輸出の減少を加味すると、需給はやや緩んで14.1%かなと思っています。

司会 ありがとうございます。

続きまして、兼松の坂井さん、お願いします。

坂井 兼松の坂井と申します。今年の5月くらいまでトウモロコシの受け

渡しを担当しております。本日はよろしくお願いたします。

弊社の期末在庫率の予想は13.36%です。USDAの期末在庫率が13.75%なので、若干減ると予想しています。

小國さんのお話のとおり、弊社も供給サイドは変わらないと考えている一方で、需要サイドにおいて、エタノール需要と輸出需要を若干引き上げて予想しました。

エタノール需要は54億7,500万 bu と予想しています。アメリカや中国の経済が底堅いことから、WTI原油先物は80ドル近辺で推移しており、原油相場が強いと見えています。その一方で、トウモロコシの価格が下がっていることで、エタノールマージンが¢40~50/ガロンとされており、エタノール需要は増えると考えています。

そのため、USDA 予想値から若干引き上げさせていただきました。

輸出に関しては、ブラジルの洪水やシカゴ安によりブラジルの農家売りが出てこず、米国の輸出需要が強かったというのが直近だと思います。

ただ、ブラジルのセカンドクロップが、2013年以降、最も早いペースで収穫が進んでいることと、ブラジルのリアル安が進んでいることが後押しして、直近2週間は、米国の輸出成約高もペースダウンしていると思っています。

それを踏まえて、徐々にUSDAの予想値に近づいていくのではないかと考えています。ただ、今年は米国の輸出需要が強かったことを踏まえて、21億7,500万 buの輸出需要と予想しています。

以上から、旧穀の期末在庫率13.36%と予想しています。

司会 坂井さん、ありがとうございます。

続きまして、丸紅の平山さん、お願いたします。

平山 丸紅の平山です。今はトウモロコシの商売を担当させていただいています。よろしくお願いたします。

弊社の期末在庫率、まさかの坂井さんと一緒の数字で13.36%を予測しています。内訳が少々異なりまして、先月のUSDAよりエタノール需要を55億 bu に修正した形です。中東情勢の不安定化による原油高でエタノール需要が更

に増加すると予想しています。

輸出需要に関しては、21億5,000万buをどう見るかだと思いますが、6月時点から南米からの出物は鈍くなったものの、そこまで大きな修正はないかなと予想しています。

司会 平山さん、ありがとうございます。

では、続きまして、三菱の黒川さん、お願いいたします。

黒川 三菱商事、黒川です。よろしく申し上げます。

弊社は、旧穀の期末在庫率は13.54%と予想しています。供給面に関しては、皆さんと同様ほぼ据え置きとしています。

一方、需要面について、弊社はエタノール需要は据え置き、輸出に関しては、兼松さんと同じ21億7,500万bu、2,500万buほどの増加と見ています。

理由は、例年対比ブラジル産トウモロコシの競争力を持ち始める時期が例年対比遅れており、6月のUSDA発表値対比、輸出需要が少し増えてくると置いています。

司会 ありがとうございます。

続きまして、平西さん、お願いします。

平西 我々は13.0%と予想しています。供給面は、USDAから変更しておらず、先ほど需要のパートで申し上げた通り、エタノールが微減し、輸出が増え、全体としては需要が増え13.0%に落ち着く予想です。

司会 ちなみに、数字はどんなイメージですか。

平西 エタノールが54億5,000万buから54億2,000万buになり、輸出が21億5,000万buから22億5,000万buとなる予想ですね。

司会 ありがとうございます。

続きまして、双日の遠藤さん、お願いいたします。

遠藤 我々は13.29%と見込みました。供給面は、収穫面積、単収予測も大きな変更はないとして据え置きとしています。

需要面は、変更したのがエタノールと飼料用のところ です。エタノールを10百万bu上方修正しました。この理由は、米国の人口が年間100万人くらい

増えて、毎年3%増加していることを考え、プラス米国国内の車種、ガソリン車はまだ70%を占めているのですが、エタノールを使用したハイブリッド車も増えて割合的には5~7%を占めているということで、今後の政策にも左右されると思いますが、堅調な生産により少し上方修正としております。

飼料に関しても、国内の鶏・豚の生産が伸びており、この年間伸び率を反映して、やや1%強気に置いた数字とさせていただきます。期末在庫は19億6,200万buと予測しています。

司会 遠藤さん、ありがとうございました。

最後に、豊田通商の片岡さん、お願いいたします。

片岡 弊社は、期末在庫は13.1%と見ています。供給面に関しては、皆さんとほぼ一緒で、勝負ありという形で同様に置いています。

需給面は、飼料とエタノールをコンサバと考えていたので、若干上昇させて、期末在庫を19億2,500万buと試算して13.1という形にしています。

司会 ありがとうございます。

伊藤忠の小國さん以外は皆さん、需給は引き締まるのではないかというご意見かと思いますが、各社の発表の中で質問等あれば、お願いします。

片岡 小國さんが輸出を減らした理由は何でしたっけ？

小國 数字だけの話になりますが、6月20日時点で17億buの輸出実績で、残り4億5,000万buを10週間で輸出できるか？ということが焦点だと思いません。過去3年を見たとき、ガルフとPNWの2拠点からの輸出実績合計は2億4,000万~2億9,000万buで、それがいきなり4億5,000万buになるかというところ、ちょっと「？」というのがあり、確かにブラジルやアルゼンチンは競争力がなくなってきたという事実はありますが、それほどアメリカ産一辺倒ではないかと思えます。中国もそれほどスポット買ってきてないですし、上振れることはないのではないかと思えます。

片岡 皆さん、基本「ブラジルが遅れているから米国が増える」というロジックで輸出を増やしていますかね。

小國 そうですね。そこだと思います。

司会 小國さんの意見としては、過去の傾向値に着目、皆さんの意見としては、ブラジルが出づらくなっているから輸出が増えるんじゃないか、がポイントですね。

では、旧穀の需給見通しについては以上となります。

続きまして、24/25年新穀の米国産トウモロコシ需給見通しについて、伺いさせていただきます。はじめに6月末発表の作付面積報告について、兼松の坂井さん、お願いします。

●24/25（新穀）米国産トウモロコシ需給見通しについて

<6月末発表の作付面積報告について>

坂井 新穀米国産トウモロコシの作付面積は、9,147万5,000エーカー、約9,150万エーカーという結果になりました。3月末時点の作付け意向面積からは100万エーカー増加という結果になりました。

事前の予想レンジの最高値が9,130万エーカーだったので、それも10万エーカー上回る結果になり、相場においては弱材料となりました。仮にこの作付面積が実現すれば、1944年以降、8番目に高い数字となります。

6月の初めの時点で、直近15年間で2番目に遅い進捗状況でした。当初の作付面積の予想レンジが下限で8,700万エーカーとなっていたため、弊社としてはUSDA予想の9,000万エーカーを下回るのではないかと考えていました。

ただ、結果的に上回ったわけですが、州別で見えていくと、大幅に減少した州はなくて、減少しても小幅、逆に西側のコーンベルトの調子のよかった州で大幅に引き上げられていて、その結果として全体を押し上げる形になりました。

顕著だったのは、アイオワの+30万エーカー、カンザスで+60万エーカー、ミネソタで+20万エーカー、ネブラスカで+25万エーカーという形で上振れたという結果です。

ただ、注意しなければいけないのは、6月末の発表時点で9,150万エーカーと発表されていたうち、300万エーカーがまだ作付けされていない状態というこ

とです。8月の実地調査を踏まえた8月12日の発表でこの点につき、確認する必要があると思います。

司会 兼松の坂井さん、ありがとうございます。

続きまして、現在の生育状況、作柄について、三菱の黒川さん、お願いします。

<現在の生育状況・作柄について>

黒川 皆さんご存じのとおりだと思いますが、7月2日時点でUSDAが発表したGood/Excellent (G/E) レシオは67%、これは前週対比では2ポイント減少しているのですが、前年同期が51%ですので、比較すると16ポイント増加しています。従って、昨年同時期に比べて、作柄は大幅に改善している状況と言えると思います。

またシルキングの進捗率についても、同じく7月2日時点で、米国全体で11%の進捗率となっていて、前週対比で6ポイント増加、前年同期が8%、例年平均が6%なので、こちらも良好な進捗になっていると思います。

ここから7月・8月にかけて非常に重要な受粉期を迎えると思いますが、7月上・中旬にかけては、コーンベルト帯は生育に適した降雨と気温に恵まれると予想されていますが、7月下旬にかけてはやや乾燥した天候も予測されていて、今後の天候には注視がとを考えています。

6月28日USDA発表の作付面積予想は、市場で予想対比高めの数字でしたが、この数字に関しては、ややアンビシャスじゃないかという声もあります。7月下旬の乾燥天候が予報どおりになったとすると、今後、作付面積や単収の下方修正の可能性も十分あると考え、現時点まだ楽観視できる状況ではない、と弊社は考えています。従って、作柄については、現状、USDAが発表している181bu/エーカーという数字を弊社としては支持したいと考えています。

司会 ありがとうございます。ちなみに、米国で洪水が起きているという話ですが、それについての影響は軽微だと？

黒川 そうですね。軽微と判断しています。

司会 黒川さん、ありがとうございました。

続きます、新穀の単収・生産量予想について、三井物産の平西さん、お願いします。

<単収・生産量予想>

平西 まず6月USDAの振り返りですが、単収は181bu/エーカーで、歴史的にも非常に高い水準になっていて、生産数量も148.6億buになっています。

直近のG/Eレシオは6月30日時点で67%、前年対比16ポイント改善、2年前の64%と比べてもいい形になっています。

受粉期の天候に関して、洪水の懸念や米国北西部の乾燥懸念などあるものの、直近は良い天候に恵まれております。今後も恵みの雨が予報されていますが、天候に関しては引き続き注視する必要あるかと思っております。

現時点の弊社の単収予想は、184.5bu/エーカーに上方修正されると見込んでいます。理由としては、G/Eレシオは67%と非常によいということで、過去の同時期のG/Eレシオと単収の相関を見て、弊社としては184.5で予想しています。

生産量については、154億buで予想しています。発表された作付面積の9,100万エーカー、USDAの発表どおりと仮定すると、弊社予想184.5の単収に、作付面積を6月末発表USDAの数字9,150万エーカーで置いています。収穫面積は、作付面積9,150万エーカーに6月USDA発表の作付面積と収穫面積の比の0.912を掛け合わせて考えています。

司会 三井物産の平西さん、ありがとうございました。

続きます、需要全般について、伊藤忠商事の小國さん、お願いします。

<需要全般について>

小國 新穀の需要サイドについてです。まず6月のUSDA需給報告においては、飼料用としては57億5,000万bu、エタノール需要としては54億5,000万bu、輸出が22億buと、例年並みとなっています。飼料用については、旧穀対比5,000万bu、そんなに大した上げではないのですが、各畜種の頭数も変

わらないレベルかと思いますが、飼料用麦を考えたとき、飼料用トウモロコシは若干減る可能性があるのではないかと。新穀小麦は旧穀より潤沢にあることから、飼料用としてはトウモロコシの需要の方が下げ余地があるのではないかと考えます。

一方、エタノール需要は54億5,000万 bu と 平年並みですが、政治的な話として、今年は大統領選があり、もしトランプが当選した時を考えれば、どうしても中西部＝トランプ支持者が多い訳で、彼がどういう政策を出すかと言えば、恐らく中西部の農家刺激策をすると思います。そのため、エタノールは若干増えるのではないかと個人的には思っています。夏季限定のE15の政策も継続するとした場合、エタノール需要は54億5,000万 bu よりも増えるのではないかと思っています。輸出については、数字は出しにくいところだと思えますが、旧穀の数字並みの22億は妥当だと思っています。冒頭にありました通り、米国国内の在庫は潤沢にありますし、輸出向けに捌かざるを得ない部分もあるかと思えます。

需要サイドとしてまとめると、旧穀対比で飼料用がやや下げ、エタノール需要がやや上げ、輸出はほぼ同じなので、行って来いの話かなと思っています。そのためトータル需要として148億 bu は妥当な数字と考えています。

司会 ありがとうございます。

輸出は、足元しっかり見れていませんが、去年輸出がよかったのは、中国向けが減少したものの、確かメキシコは不作の影響で、メキシコ向けの輸出需要がかなり増えたという認識ですが、24/25年はまた同じような傾向になるのか。

昨今、大統領選でトランプが優勢になってきつつある記事を見ると、米中貿易もまた再発する。メキシコの需要に支えられて23/24年は輸出が増えていましたが、24/25は果たしてそうなるのか。USDAでは23/24年よりも増加する、という発表ですが、こちらの点についても、この先の期末在庫率で皆さんのご意見を聞いてみたいと思います。

では、期末在庫率の見通しについて、今度は片岡さんからよろしいですか。

● 期末在庫率見直しについて

片岡 弊社は、新穀の期末在庫率は14.97%としています。旧穀の在庫率でちょっと申し上げたとおり、キャリーオーバーの数量としては19億2,500万buと置いています。

作付面積は、月末発表のとおりの91.75を使っています。

単収は、若干上方修正の182buで置いています。結構近い数字を出しましたが、今のG/Eレシオ、降雨量、降雨予想、積算気温等々から単収を計算してみたところ、182という数字が出ています。

イリノイとかアイオワとかは過去最高にはならないのかなと思っていますが、他の大きな生産地、ネブラスカ、ミネソタあたりは、私の計算では過去最高単収になると予想しています。

一方で、デマンドサイドとしては、輸出デマンドが1億buくらい増えるという計算をしまして、最終的に期末在庫は22億3,000万bu、期末在庫率は14.97%と置いています。

司会 ありがとうございます。

続きまして、双日の遠藤さん、お願いします。

遠藤 弊社は、新穀期末在庫率は12.54%と見えています。単収は歴史的な数字が出てきており、弊社の希望的な観測もありますが、現時点の181buと据え置きとしています。

6月の作付け発表がサプライズとなっておりましたが、直近の天候とか洪水も踏まえると、ややコンサバに6月の需給報告発表を反映した数字で考えています。

一方、需要については、小國さんの話もありましたが、民主党、共和党、どちらの政党になるにしろ、我々も米国のエタノール政策は無視できないのではないかと考えているので、需要増加というシナリオを想像しているところです。

エタノールはコロナ以前の生産量が回復していることもあるので、2019年対比で消費量は1%程度伸びるものと仮定し、55億buとしました。

国内飼料需要も、直近USDAの値では堅調に推移していることもあったので、鶏・豚の消費も反映して58億buと置いています。

輸出面は、中国の供給不安もあって、中国の輸出がどうなるかもありますが、今後の米国政府の行方にもかなり左右されそうです。中国はアルゼンチンからのトウモロコシ輸入準備を始めていると言いますが、これもまだ早いのかなと思っています。

また先ほどあった最大の輸出先であるメキシコですが、新政権は米国からの輸入を制限する話はない発言があったとも聞いているので、ここの減少はないと見込んで、輸出は23億1,800万buと置きました。

司会 わかりました。ありがとうございます。

では、三井物産の平西さん、お願いいたします。

平西 弊社としては、新穀の期末在庫率17.0%で予想しています。

供給に関して、我々としては旧穀の輸出がまだ増える余地ありということで、新穀の期首在庫はUSDA対比減の19億buで置いています。先ほどの単収・生産量パートの通り、単収184.5 bu/エーカー、生産量は154億buで予想しておりますので、全体的な供給数量としては173億buの予想で6月USDA対比4億bu程度増える見込みで置いています。

需要面に関しては、USDA発表の148億buをそのまま踏襲する形で置いています。エタノールに関しては、皆さんがおっしゃるようにここから更に増える可能性はあると思いますが、昨年と比較してかなり増えているエタノール需要がこれ以上増えるのか現時点何とも言えないため、ここでは据え置きとしています。

以上から、期末在庫は25億buで期末在庫率は17.0%で予想を立てています。

司会 ありがとうございます。

続きまして、三菱商事の黒川さん、お願いします。

黒川 弊社は、期末在庫率は15.91%で予測しています。

供給について、単収は先ほど申し上げたとおり、USDAの発表を支持したいと考えていますので181です。作付面積に関しては、6月末の四半期報告に

て発表された9,150万エーカーを採用しています。

需要面について、まずエタノールに関しては、三井物産さんがおっしゃった通り、十分手前から増えてきていると思いますので、USDAの発表をそのまま据え置きとしています。

弊社がUSDAの発表から変えている数字は輸出需要です。USDAは、輸出需要は22億buで発表されていますが、1億buほど下振れてはないかと考えています。主には中国向けが減るのではないかと考えています。

6月のUSDAの発表にもありましたが、中国の現状の24/25クロープの生産量見込みは、足元23/24クロープが歴史的にも高水準であったところから、さらに増えると見込まれております。

もちろん中国の輸入量すべてが米国からというわけではなく、ブラジルからもあるとは思いますが、少なからず影響はあると考え、夏の大統領選挙でトランプが勝つようなことがあると、米中貿易摩擦に起因して減るという話もあると思うので、輸出は減らしました。

したがって、期末在庫は23億5,100万bu、期末在庫率は15.91%と置いています。

司会 黒川さん、ありがとうございます。

では、丸紅の平山さん、お願いします。

平山 弊社の期末在庫予想は15.14で置いています。単収は作付面積実績の数字を適用した形で、供給は置いています。

需要サイドは、期先なので何とも言えないところはありますが、エタノールを100万buプラスしたようなところで、USDAの数字から調整した形です。

輸出に関しては、確かに米中貿易戦争がまた再開して減る可能性は否定できないと思いつつ、その辺は強かにやってきそうなところもあるので、大きな減少はないのかなと考えています。仮に中国向けがなかったとしても、他の国向けに輸出は進むのかなということで、USDAの数字を置いています。

なので、期末在庫は22億5,000万bu、期末在庫率は15.14と予想します。

司会 ありがとうございます。

続きまして、兼松の坂井さん、お願いします。

坂井 期末在庫率は14.37%で予想しています。需要面に関しては、期先のところなのでUSDAの数字を使っています。

変更したところは、旧穀の期末在庫を減らして19億7,200万 bu, 単収は179で予想しています。

179に変更した理由として、黒川さんの話にもありましたが、G/Eレシオが昨年対比良い数字が出ています。特に主要産地のアイオワ、イリノイ、ネブラスカなどのG/Eレシオを見ても、昨年よりもよい数字が出ているということで、昨年の単収177は割らないと考えています。

USDA 予想値の単収181を達成するためには、パーフェクトな条件でなければ達成できないという前提に立つと、今年は例年よりも作付時期が遅かったことで、単収にネガティブな影響があるのではないかと考えていること、コーンベルトで起こった洪水も多少なりとも影響してくると考えています。そのため、単収を179で置いて、期末在庫率は14.37%と考えています。

司会 ありがとうございます。

最後に、伊藤忠商事の小國さん、お願いします。

小國 新穀の在庫率は15.32%です。内訳は、供給サイドでは、作付面積は、皆さんと同じ6月末の数字の91.5, 単収は、坂井さんと同じ179と見えています。単収を181から下方修正した理由としては、この181という数字は5月に発表された数字がずっと変わっておらず、恐らく作付けがうまくいったからだけの理由かなと思っており、そこから下振れる要因としては、ミネソタ以北の洪水が結構尾を引くのではないかということと、7月の月間平均気温がかなり高く、受粉障害が起こる可能性があるということです。

需要サイドは、飼料用が前年対比やや少なくなり56億5,000万 bu, 小麦の飼料用向けが増えるとの観点から飼料用トウモロコシは少なくなるのかなと思っています。エタノール需要は、やや増加の55億5,000万 bu, 輸出はUSDAそのまま22億 buと置いて、15.32%という新穀の在庫率を予想します。

司会 ありがとうございます。皆さんのご意見が出揃いまして、双日さん

が12%台、三井さんは17%台と、かなり上下が離れている状況ではありますが、皆さんの中で質問やご意見があればお願いします。

片岡 過去最高単収になるという意見じゃない人っていましたっけ？

小國 いなかったと思います。

片岡 やはりそうですね。

小國 片岡さんの182というのは少し高くないですか？

片岡 そう思うんですけど、トウモロコシ上位18州の計算したのですが、181-182という結果です。

小國 それは何を要因とされていますか？

片岡 G/Eと、あとは雨の中期予想と積算気温から計算してみたのですが、そうになっています。「こんなものかな？」と思いながら、なったら、すごいことですよ。

小國 最初に新穀の単収見込みはいつ出るんですしたっけ？ 5月でしたっけ？

司会 5月のUSDAですね。3月末はたしかacreageレポートです。

黒川 2月にアウトルックフォーラムの発表もありますよね？

司会 2月と3月にあって、2月は完全なるヒアリングベースで、3月のほうが確度が高いです。

平西 我々もG/Eレシオと単収の相関から、USDA対比更に増える見込みで単収の予想出していますが、この数字に対してはいろいろな意見があります。既にUSDAの181でも過去最高じゃないかと。

司会 確かにG/Eと単収は強い相関があるので、そこで求めるとそのくらいいくけど、そもそもこのG/E値が合っているのかとか……。

小國 大豆の傾向値単収も確か52と非常に高いんですよね。やはりトウモロコシもいいんですかね？

片岡 少し希望的な数字も入っていそうですね。

司会 では、他産地トウモロコシ動向について、丸紅の平山さん、お願いします。

●他産地トウモロコシ動向について

平山 米国以外の他産地トウモロコシ動向について、まずにブラジルに関しては、豊作を記録した前年程度ではないものの、引き続き豊作水準は維持している状況です。

6月のUSDA発表は1億2,200万トン、CONABは1億1,400万トンと乖離があります。一時はこの乖離がより大きかったのですが、この乖離は少しずつ縮小している状況で、イメージとしては、USDAにCONABの数字が歩み寄ってきている状況かと思います。

あとブラジル南部エリアの高温乾燥が生育環境を襲ったことから、同地域の減産懸念は引き続き根強く残るという状況です。

サフリーニャコーンの収穫もおよそ50%程度進捗しており、例年並みのペースという状況です。

輸出においては、レアル安ですので、輸出が活発に進むかなという期待はされつつも、南部を中心とした国内需要は底堅く、輸出需要は出にくいような状況になっています。

輸出業者も、国内需要からあぶれた余剰分を高く売ってくれる韓国や中国に売りさばく状況です。

続いて、アルゼンチンも豊作見通しと言えるかと思います。先月時点の生産見通しは、USDAが5,300万トン、ブエノスアイレス商品取引所は4,650万トンという数字になっています。

アルゼンチンは、生育期間中に産地を襲った乾燥の影響で、当初の生産見通しから少しずつ下方修正されているような状況です。ただ、いずれにしろ豊作水準は維持しています。

収穫進捗、当初は5年平均でも遅れをとっていましたが、順調にキャッチアップしているという状況で、およそ60%が進捗している状況です。

ブラジル同様、国内需要は堅調ながらも、少なくともブエノスアイレス商品取引所の4,650万トンの生産量から見ても、3,000万トンくらいは輸出量として出てくるかなという状況です。ただし、軟調なシカゴ定期、公式・非公

式のペソのスプレッド拡大とか、新政府への施策期待から農家売りが低調で、現時点ではあまり価格競争力はないかなと見ています。他のトピックで言えば、中国向けの輸出が7月から本格開始するということところです。

ブラジル、アルゼンチンの生産量に関して、米国USDAと各国調査会社の見通しに乖離が生まれている点ですが、各社の作付面積、単収の見立ての違いが主な要因と考えます。もう一つは、各国調査会社が強気の数字を書くことで国内の農家を守るという視点も一定程度あるのかなと個人的には考えています。

ウクライナに関しては、4月の異常な高温乾燥で、トウモロコシ生産は減産傾向にあります。24/25年クロープに関しては、USDAの見通しが2,770万トン、UGAの見通しが2,550万トンと、こちらも南米と一緒に乖離はある状況です。

輸出見通しについても、USDAが2,450万トン、UGAは2,050万トンと乖離がある状況ですので、これは引き続き注視していきたいと思います。

昨年度日本にも入ってきました南アフリカは、高温乾燥で出物がない状況、近隣諸国への輸出のみという状況になっています。輸出見通しは300万トン程度ありますが、主な輸出先はジンバブエ、ボツワナ、ナミビアです。

あと産地という点ではどうかと思いますが、中国は、国内自給率向上を目指している中で2億8,000万トンの生産見通しとなっています。他方、国内飼料向け需要が堅調に伸びており、輸入は2,300万トンになる見通しとなっています。

司会 ありがとうございます。質問・ご意見はありますか。

片岡 中国のアルゼンチントウモロコシの輸入の噂はどう思われますか。

平山 シカゴ定期にとっては弱材料かなと思います。ただ、まだ本格的に入っていませんし、品質とかは、もちろん過去の実績はあるので何とも言えないのですが、その辺は中国側からも「品質どうなの？」という話はあるので、どこまで盛り上がるかはちょっと注目かなと思っています。

片岡 アルゼンチンを買ったとしたら。高いのに買っているじゃないです

か。あれもどういう意図なのか、続くのかなというのは、結構注目ポイントかなと思っているんですけど。

平山 中国・韓国は、我々日本勢のほうが下げを期待している中で、ある程度のところで買いつけるという感覚があって、あと中国は米国との今後の関係も含めると、政府として産地の多角化を図る中での第三国としてのアルゼンチンという立てつけかなと考えています。

小國 皆さんが昨今注目されているのはブラジルからの輸出かと思います。23/24クroppは生産高だけ見ると過去2番目の多さですが、例年ほど価格は下がっていないと認識しています。その理由のシカゴ安に伴い農家売りが出ないことと国内のエタノール向けの需要が強くて輸向の数量が限られていることがあるかと思いますが、生産量から見たら出さないといけない部分があると思っています。皆さんはどうお考えでしょうか。

平山 具体的な数字は頭に入っていないのですが、イメージとして、ハーベストプレッシャーのことをおっしゃっていると思いますけど、米国と一緒に、南米の農家も保管スペースとか保管キャパシティを持ち始めたことが一つキーなのかなと思っています。

後のFOBプレミアム動向でも触れると思いますが、農家がシカゴを見ながら価格を判断する時間、猶予が従来以上に加わったというか、「ここで売りたいくない」という農家が多い。

あと大豆の販売のほうが、今は若干変わってきましたが、数日までは大豆優勢だったので、他のキャパシティの割合が、長期的に見ても保管をトウモロコシ、販売を大豆という構図がある以上は、大きく価格を下げるタイミングは、あまり期待しても来ないのかなというのが、私はずっと唱えています。

片岡 ブラジルの内陸の倉庫が増えているのは確かですし、サイロバッグも多いのですが、これが去年と今年で何か変わったのかというと、そんなに変わっていない。増えているのは確かで、傾向としてはある。ブラジルの価格のボラティリティが小さくなっていくのは確かだと思いますし、去年はシカゴが荒れていたのもありますが、去年と今年で何が違うの？というところ、そこ

じゃないような気がしています。結局シカゴが低迷しているのが一番の要因で農家が売ってこない。

片岡 価格については、農家全員が同じことをしないと下がらないじゃないですか。これが起こりにくくなっているのは、先ほどおっしゃったような影響があるのではないかと思います。

小國 来年はラニーニャになるんじゃないかという話がありますが……。

司会 今年の夏はラニーニャとなる可能性が70%みたいな。

平西 今はニュートラル。

小國 ブラジルだけ見れば、ラニーニャだと割といい方ですよ。

司会 ありがとうございます。続きまして、主原料代替原料動向について、豊通の片岡さん、お願いします。

●主原料代替原料（マイロなど）動向について

片岡 主原料代替原料についてお話しします。マイロ、主原料代替原料と言っていいのかわからないのですが、例年にならって、マイロと飼料米についてお話しさせていただきます。

マイロについては、23/24クロップの世界の期末在庫率は5.4%となりました。これは22/23クロップの世界の期末在庫率4.7%と比べて、若干緩和しているという状況です。

貿易の需給でいきますと、輸出は世界的には1,020万トンという統計が出ていました。そのうち米国産が660万トン、去年は620万トン、アルゼンチン産が120万トン、去年は130万トン、オーストラリア産が210万トン、去年は170万トンという形になっていました。

輸入量は、トータルは輸出と同じ1,020万トンですが、うち中国の輸入量が800万トンで、依然、世界の貿易の約80%を中国が輸入しているという構図は変わらない感じかと思えます。ほとんど中国が輸入しているので、中国次第の商材になっちゃっているのかなという形です。

一方、日本を見ると、年間の輸入量は約15万トン強という形かと思えます。

昨年は20万トンくらいあったと思いますが、15万トンくらいの計画をしています。これは全体の2%くらいなので、昨年に引き続いて日本でのデマンドは減少していて、どんどんプレゼンスが下がってきている状況かと思います。

飼料米に関しては、語るのは若干時期早々ですが、昨年・令和5年度の作付面積は13万ヘクタールほどでした。これは令和4年度と比べて0.8万ヘクタール減少という形です。生産数量についても減少したところですが、国の出していた目標数量を超過していた一昨年度と比べると、目標数量にはほぼ近い72万トン程度になったのかなと思います。主食用の市況回復、他転作物への転換施策等から作付面積を減らしたものと見られます

令和6年度に関しては、他転作物への転換が進み、また令和5年産の主食用の米不足の報道があるように、食用の市況のさらなる回復もあり、作付け意向調査によれば、飼料用米を減少傾向とする県は、昨年は19県だったようですが、今年は36県とさらに拡大しているような状況になっています。

ですので、令和6年に関しては、令和5年比較で供給は大きく減少すると見えています。

数量をもう少し具体的に言うと、飼料用米が3割減としたら、これが20万トン。輸入米も2割減と聞いていますので、これで14万トン減という形、これを足すと飼料用米は30万~35万トン減という形になると試算していますので、これが他の原料、トウモロコシや小麦に代替されていくのかなと見立えています。

司会 ありがとうございます。一時期、トウモロコシの価格が非常に高いレベルで、みんな飼料米を探したのに、一気に様相が変わりましたね。

片岡 今年は主食米が高過ぎて、だれも飼料用米はつくらないという状況です。

司会 そもそも主食米も、不作の影響や海外観光客の需要から外食産業において非常にタイトであると聞いております。

話変わりますが、国内のマイロはどうなっていますかね。

片岡 さらに調達が困難な商品になっていくと思います

司会 コンテナとかは考えていますか？

平山 毎度毎度お客さんに言われるんですね。「コンテナか…」と思いがながら、試算すらしてないけど（笑）。

片岡 輸入ロットによると思いますけど、チャージがやけに高いし、結局は結構高くなるんですね。意外とコンテナは物流が乱れるので難しい。

平山 プレコンとか入れちゃってヒラブラ使ったり、逆に一気に踏み切っちゃって、全国的にサイロが厳しいとかというときに出たりするのかな。でも、それくらいかな。

司会 今後、産地はUSなんですかね。オーストラリアからちょっとずつ変わってくるんですかね。

片岡 どうですかね。米国の作柄によりますが、結局は豪州が中心になると思います。

司会 出るときは出るけど、そこも若干変わってきそうですね。南米のマイロも出る・出ないみたいな話もあるので、もしかしたら南米で競争力が出てくれば、また需要も戻ってくる可能性も0ではないのかな、と思います。

ありがとうございます。

次に、FOBプレミアム動向について、丸紅の平山さん、お願いいたします。

●FOBプレミアム動向について

平山 FOBプレミアム動向については、我々は堅調に推移すると予想しています。米国輸出シーズンも一たん落ちついた中で、豊作が期待される南米産地に注目が集まることは変わらないかと。ただし、堅調な国内需要に消化される状況は当面続く見込みで、輸出業者も高く買ってくれる先に売りさばく構図は今後も続くと考えられます。

また軟調なシカゴ定期価格を背景に、南米農家の売り渋りが続く状況下、収穫が進むにつれてハーベストプレッシャーによる価格軟化を我々も期待したいですが、米国のみならず南米の保管スペースも増加しているし、農家は販売のタイミングを引き続き時間をかけてゆっくり見定めているような状況もありま

すので、FOBプレミアムの高値推移は、もう少し長期化すると思います。

司会 ありがとうございます。

次に、海上運賃動向について、三菱商事の黒川さん、お願いします。

●海上運賃動向について

黒川 振り返りと今後の見通しの2つのパートに分けて説明します。

まず振り返りですが、結論2023年の年末から足元6月までは、乱高下を繰り返しながらも足元6月は下げ基調になったと評価しています。

年末から2024年1月にかけて、イスラエル・ハマスの紛争、パナマ運河の深刻な干ばつに伴う通狭枠の制限によって、特に穀物の米国ガルフ出し極東向けの輸送ルートが喜望峰回りになることが多く見られ、船腹需給は逼迫しマーケットは上昇しました。

2月から3月中旬にかけては、例年旧正月に向けて市況は下がっていくのがトレンドなのに対して、今年は旧正月に向けて徐々に市況が上がっていく展開になりました。

理由としては、中国の鉄鉱石、石炭の輸入量は例年に比べて今年は堅調だったこと、また船主がパナマ運河、スエズ運河経由の航路を積極的に回避したことによるトンマイルの上昇があり、マーケットはある程度下支えされました。

3月下旬から4月上旬にかけては、そのトレンドが一段落したところで船腹需給は緩和され、下落基調に転じました。

4月中旬から5月初旬にかけては、中国向けの大豆需要が北米から南米に遷移してきた中で、トンマイル増えてマーケットは上昇基調に転じました。またアジア勢の5月初旬の大型連携明けには、多くの貨物の需要が集まって、引き続き堅調に推移しました。

6月に入り、中国向けの夏場の石炭需要及び南米東岸からの中国向けの大豆需要も一服して、マーケットは一転して下落基調に転じている状況と見ています。

続いて、今後の見通しについては、まず8月までを目途にマーケットはステイと見ていて、長期的にはブルなマーケットになると見ています。

例年であれば、モンスーン前の5月までに石炭の輸入数量を減らすインドですが、今年は猛暑の影響で、インドの石炭輸入は7月中旬くらいまで続くことが予想されています。

そのような状況下、インド向けの石炭トレードは増加が予想される一方で、インドフリーになる船が増えてきます。7月・8月にかけて南米出しの穀物需要が増えてくる中で、インドフリーになったものをそのまま南米に持っていける為、例年東南アジアや極東から船を走らせることが多いのに対して、インドは地理的に近いことからトンマイルは減少し、船腹需給はオフセットされて、ステイになるのではないかと見ています。

今後の見通しについて、結論供給量の減少が長期的には見込まれると考え、備船マーケットはブルになると見ています。1つ目の理由は、メタノール、アンモニア、水素などを動力とする新燃料船の開発が少しずつ進んではいるものの最も効率的な新燃料は何なのかという議論が引き続きあることや、造船にあたる資材費の高騰、造船所の人不足などを理由に、新造船の発注数は伸び悩んでいる為です。2つ目は、2000年代の海運ブーム期に大量竣工した船が船齢を重ね、2020年代後半頃には退役予備軍になってくるためです。

司会 ありがとうございます。今、パナマは正常化しているのであんまり気にはしていませんが、スエズも普通に渡っているんですか。

平西 我々はパナマ通れなかった影響で、年末に一度だけスエズ経由で配船しました。

司会 その際は特に、大丈夫でしたか？

平西 はい、幸い特に問題なく通行することができました。

司会 じゃあ、普通にスエズは航行はできていると？

平西 今はどうなっているんでしょう？

黒川 足元パナマが正常化しているので、今はあまり見てない。

司会 ただ、スエズを通らなければいけないような船が、喜望峰経由を余

儀なくされると、船足が伸びて全体の船腹需給も引き締め懸念が考えられるが、そこもある程度は改善しているということですかね。

では、また皆さんのご意見を伺いたいのですが、今後のシカゴの相場見通し、9月末時点のデックとマーチについて、黒川さんからお願いします。

●シカゴ相場見通しについて

黒川 12月限は¢410、3月限は¢425です。スプレッドは足元のものを採用しています。過去の期末在庫率とシカゴの相関関係を見ると、¢400を割る可能性もゼロではないですが、米国国内のインフレでインプットコスト上がっていることも考慮して、最終的にやや下げで結論づけています。

司会 ありがとうございます。続きまして、平西さん、お願いします。

平西 我々は12月限が¢400、3月限は¢420で置いています。我々の期末在庫率の見通しは、先ほどのパートでも申し上げたとおり17.0%で、ここから生産量・単収ともに増えていく見込みのため、ZHのキャリアは拡大していくと予想しています。今日時点で13セントキャリアですが、収穫期にかけて¢20くらいまでキャリアは広がっていくのではないかと予想しています。

司会 ありがとうございます。それでは、遠藤さん、お願いします。

遠藤 我々は12月限が¢455.5、3月が¢460.5と予想しました。これは先ほど期末在庫率はやや下がるものとして置いたので、それを考慮した形です。今後は大統領選挙を控え、慎重な様相を呈すと過程し上下に一喜一憂するような相場形成を想定します。その為、現時点の予想は結構難しいなと思ったのですが、生産状況や期末在庫率からもコロナ前の19/20年度に近い相場の動き方になっていると見て、黒川さんも仰っていましたが、CPIのインフレ上昇率を19年からどのくらい上がったかを反映させて、20%上がったということで、1.2倍をかけて算出しました。

個人の希望的なところは米国の豊作を祈念しつつも、アフターコロナで相場様態を変容させ、以前のように下がり過ぎはしないのではないかとというのが弊社の考えとなります。

司会 ありがとうございます。では、片岡さん、お願いします。

片岡 弊社としては、9月末、12月限は¢390、3月限が¢405と置いています。

現状でシカゴ自体は下抜けたのかなと思っていて、あまり上に上がるようなトレンドもつくだらうと。期末在庫も上方修正されていくという予想を出しているのですが、このまま基本的に下落トレンドを継続していくのではないかととらえています。

4ドル割るのは心理的な抵抗も結構あると思うので、4ドル付近をずっとうろうろするレンジ相場みたいな形になって下値トライしていく、そんなシナリオを考えています。

キャリーについては、特に何か金利政策が変わるとかはあまり思っていませんが、私も平西さんと同じように、もうちょっとキャリーはついてもいいと考えているので、¢15に置いています。

司会 ありがとうございます。では、小國さん、お願いします。

小國 私は12月限が¢400、3月限が¢420と考えています。先ほど申し上げたとおり、期末在庫率から400というのが理論値になってくるのではないかと考えています。今は理論値通りの相場付きになっており、その相場が続くのではないかというのは片岡さんと同じ意見です。フルキャリーは30cpb前後かなと考えていますが、フルキャリーほどまで広がらないということで、7掛けで20cpbくらいと考えています。

司会 ありがとうございます。坂井さん、お願いします。

坂井 私は12月限が¢410、3月限が¢425で予想しています。黒川さんと全く同じ予想となっています。

現在の期近の9月限の¢400付近は、2014年から2020年くらいのレンジ相場になっていたときの値と同じレベルになっています。そのため9月限の相場は、¢400が支持線・抵抗線になると考えています。

USDAの予想どおり生育が順調に進めば、期先の12月限になったときも、今と変わらないレベルの¢400くらいと予想しています。

ただ、今はインフレによって農家のインプットコストも上がっているの、
¢400よりかは少し上のところで推移すると考え、¢410と置きました。ス
ブレットに関しては今の¢15を乗せています。

司会 ありがとうございます。では、平山さん、お願いします。

平山 9月末12月限が¢405、3月限が¢420と当社は予想しています。ス
ブレット自体は、足元のレベルを適用しています。

我々も期末在庫率は上昇すると見えていますので、4ドル近辺が一つターゲ
ットになってくるかなと思っています。ただ、坂井さんと黒川さんが言われ
たように、インプットコストを含めて、ちょっと上をいくかなというところ
で¢405と置きました。

司会 ありがとうございます。

シカゴ相場見通しについて、何かご意見・ご質問があればお願いします。

事務局 今回の皆さんの予想は、天候は変なことがないという前提ですよね？

全員 そうですね。

司会 最後に為替、これが一番難しいかと思いますが、同じように黒川さ
んからお願いします。

● 為替相場見通しについて

黒川 弊社の為替見通しについては、今の160円台は円安に振れ過ぎていて、
今年度末にかけて140円台後半～150円台前半のレンジに向かって円高方向に
徐々に進んでいくと予想します。

振り返りですが、アメリカの中央銀行は、パンデミック時に急騰した物価
高を抑えるために、2022年3月くらいから2023年7月くらいにかけて段階的
な利上げを実施してきました。米国では利上げが実施されていて、足元据え
置きが続いていますが、日本では逆にずっとマイナス金利政策がとられてい
て、相対的にドルの価値が上がり、円安方向に振れてきたと整理しています。

足元に話を移すと、物価上昇率は、多少おさまったものの引き続き高い状
態は継続しているを見ていて、一方で、パンデミックのときに逼迫したアメ

リカ国内の雇用は緩和傾向にあって、伴って賃金上昇率も、パンデミック時は一時、前年同月比で8%増くらいのもので、足元では前年同月比4%くらいまで下がってきていると聞いています。

こういう状況下で注目すべきなのは、米国雇用統計で発表される失業率だと考えています。この値が上がってくると、米国中央銀行としても利下げを迫られるタイミングが来る。これが今年度後半くらいに来るのではないかと考えています。

その結果、日米金利差が緩和されてきて、為替も円高方向に振れるのではないかと考えています。

一方で、円高に振れたとしても、140円台後半～150円台前半までにしかならないと考える理由は、日本の経常収支の稼ぎの多くは対外投資によるもの、すなわち海外に投資して、そのリターンを得ることによるものとなっており、日本企業の多くが外貨での収益を得る機会が増えてきていると聞いています。

つまり、日本企業の多くは、投資準備金としてドルで資金準備するケースが増えていて、その結果、円の必要性・価値が目減りしているため、通貨の価値という観点で、円のドル対比の価値が構造的に無くなってしまっていると個人的には考えていて、一気に円高に振れるような、過去の120円の水準にまで戻ることはなかなか考えにくいのではないかと考えています。

司会 ありがとうございます。

では、平西さん、お願いします。

平西 当面この円安傾向は継続すると考えています。現在の円安傾向の根本的な原因は日米の金利差だと考えていて、米国も6月FOMC見ても利下げは行わない見通しなのではないかということと、日銀もここから利上げにはまだまだ踏み込みづらいことを考えると、当面この円安の状況は継続していくのではないかと考えています。

具体的には158～165円くらいのレンジで、米国の金利が下がる、ないしは円の金利が上がる、どちらかが起こるまでは、現在の円安が継続するような形になるのかなと考えています。

司会 ありがとうございます。

遠藤さん、お願いします。

遠藤 弊社としても同じように円安が続くと思っていまして、年内は170～180円にいくのではないかという予想を立てております。

社内で話してもいろいろな意見が出てきますが、11月の大統領選挙でトランプ氏が勝つシナリオを想定しております。トランプ氏が勝利した場合は、通関関税とか減税といったインフレを加速するような政策が予想されるため、米国の利下げ余地が狭まりドル安が限定的になるのかなということで、円安継続というように考えております。

司会 ありがとうございます。

片岡さん、お願いします。

片岡 遠藤さんとかなり一緒ですが、米国の大統領選までは160～165円くらいのレンジで、トランプさんが勝ったとしたら、ここからまた170円とかを目指していくのかなと見立てています。

皆さんが言ったことと被ってしまうのですが、今の円安傾向は日米金利差から来ていると考えていて、方向性が変わるには、日銀の利上げかFRBの利下げなのかなと思います。

FRBについては、米国は依然、景気はいいと思っているので、利下げをするような、経済引き締め政策を打つようなイメージはあまりわからない。しかも、大統領選挙もありますので、あまり思い切ったことはできないかなと思って、このままいこうと。

日銀も結局、利下げはしないと思いますので、今の160円から若干の円安傾向は継続していくのかなと思っています。

11月の大統領選挙は、いろいろ話を聞いていると、トランプさんが優勢なのかなと思っています。トランプさんが大統領になるという前提だと、再度、米国保護主義貿易政策を打ったり発言したりするというので、保護貿易からインフレが加速して、金利が下げられない、むしろ上がるという想定をして、さらに円安方向にいくことを考えています。

司会 ありがとうございます。

では、小國さん、お願いします。

小國 私は年末にかけて円高にいくのではないかと思っていて、下値は155円と予想しています。FRBはこれまでインフレ率2%の維持を達成するために、物価上昇を利上げで対応してきたと思い、今後はアメリカの消費者物価指数CPIと個人支出PCEのスプレッドが1つの指標になるのではないかと思います。物価が支出より増加率が高ければ、インフレが加速しており利上げが必要となりますが、今はそのスプレッドは縮まってきており、もう利上げする必要は無く、寧ろ利下げしないといけない程のレベルになってきていると個人的には思っています。

司会 ありがとうございます。

坂井さん、お願いします。

坂井 為替に関しては、今後155円～170円くらいで推移すると考えていて、どちらかというとも170円の円安方向にいくと予想しています。

今の円安基調は、中長期的に考えてもあまり変わらないと考えています。エネルギーコストが上がっていて、それによって日本の貿易収支も悪化していますし、米国経済が底堅く、日米の金利差が縮まらない。この辺が大きな要因と考えています。

日銀の政策決定会合が4回行われる予定ですが、仮に2回の会合で利上げしたとしても、1回あたり0.1%程しか上がらないので、そういう意味では、今の円安の構造を変えるほどではないと考えています。

2024年1月より新NISAの導入によって、毎月1兆円のペースで外国投信を買っており、円売りドル買いの圧力がかかっています。2024年5月の為替介入が9兆円だったことを考えると、投資信託を通じた円売りも無視できないものになっていると思います。

トランプ氏が仮に大統領に当選した場合、関税による輸入コストの増加、移民排斥による国内の賃金上昇で米国のインフレに繋がりと考えます。インフレ抑制のための利上げに転じると、円安に進んでいくと考えます。

司会 ありがとうございます。

平山さん、お願いします。

平山 私は、年末時点は157周辺まで円高に進むかなと考えています。年内でFRBによる利下げは恐らく1回程度と考えています。他方で、日銀の利上げに関しては、あったとしても1回、基本的にないと見えていますので、FRBの利下げによる円高、ドル安はこのくらいのレンジかなと考えています。

大統領選に関しては、アメリカの駐在員と話しても、トランプさん圧勝という見方が強くなっている中で、何なら織り込み済みのところもあるのかなと思うので、影響は限定的なのかなと考えています。

司会 皆さん、ありがとうございました。

円高に振れる、円安に振れる、据え置きと色々な意見が出て、同じような感じだったと思いますが、何かご質問はありますか。

片岡 バイデンが勝つと言う人はだれもいなかったですね。

平山 討論会は結構衝撃的だったらしいです。

片岡 あの詰まりまくっているやつですよ。

平山 詰まりまくっているし、「大丈夫か?」と。

片岡 風向きがすごく変わったというか。

司会 どこかの大統領の名前を忘れちゃったんですよ。「あれだけだっけ?」みたいな。

小國 トランプになったらドル高になるのでしょうか?個人的にはドル安かと思ってましたが。

平山 逆に米国経済は干上がると言っている方もいるから、そっちの見方もあるのかなと。

司会 片岡さんがおっしゃっていた「保護貿易でドル高が…」というのは、どういうことですか。

片岡 輸入物に関税をかけるじゃないですか。そうすると、インフレが進むと思っていて、インフレを抑えるために利上げなのかなというか、利下げをあまりしない。

司会 関税をかけることで、そのまま商品代が上がるからインフレになると。

片岡 連想ゲームみたいなものですけど。

司会 目下、皆さんの注目ポイントは、米中の金利差、及び米国の大統領選挙ということですね。

事務局 バイデンが撤退して、女性のペンス副大統領が民主党の大統領候補になったときのシナリオはどうなんですかね？

司会 今朝のニュースで、バイデンが撤退する噂が流れていましたね。補佐官は否定していましたが、まあ、あり得ますよね。

これはドル高というイメージですか、それとも円安というイメージですか。話している感じだと、円安というよりドル高が強いという感じですね。

片岡 そうですね。日銀が利上げしないかどうかは微妙ですけど。

平山 為替介入はまだあるのですか。

片岡 影響は少ないと考えます。やったとしてもしようがなさそうな……。

平山 為替介入国認定される基準まで、残り1兆円だか2兆円くらいしかないみたいな。もちろんアメリカと話をすればでしょうけど、何か言われなくなっちゃいましたね。

司会 結局これまで起こった為替介入も薄商いのタイミングであって、投機筋がそのうまみを得ただけの為替介入の感じで、何も意味をなしてなかった。

坂井 今日はアメリカの祝日ですよ。前回の介入時期を踏まえて、アメリカの祝日を狙って介入するのではないかというニュースが出回っていて、逆に日銀もやりづらくなっている感もあるかと（笑）。

司会 以上で、座談会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

New Balance

< 18 >

岩崎食料・農業研究所 所長

岩崎 正典



「今年も油断のならない天候相場が始まった」

1. 今年の農家作付け意向面積はトウモロコシの大幅減反になった

米国の中西部では、土壌が播種作業に相応しい状態、すなわち土壌温度の上昇という自然条件に加え、大型の農業機械が畑に入れるかどうかという物理的な条件が満たされ次第、農家が春の播種作業に着手する。中西部では多くの農家が天候リスクを最小限にすると同時に、農作業の段取りを平準化するため、更には土壌の肥沃度の維持という観点から、トウモロコシと大豆との輪作を行うことが一般的である。しかし、先物市場が示す新穀の価格見通しと、それに要する投入経費の見積から、どのような組合せをすれば収益を極大化できるのかが、農家の冬の間の検討課題でもあった。それにある程度の指針を示したのが、今年2月中旬に開催された農業観測会議になった。米国農務省の暫定的な需給見通しでは、トウモロコシの新穀価格は今年度の年間見通し480セントから40セント安の440セント、大豆は同じく1,265セントから145セント安の1,120セントと示された。こうした机上計算のみならず、農家に示された所得補償型の作物保険の基準価格は、トウモロコシが466セント（前年度591セント）、大豆は1,155セント（1,366）になった。2月の新穀限月の平均価格は、大豆がトウモロコシに対して2.48倍となり、昨年は2.31倍であったので、農家が今年の新穀は、大豆がトウモロコシよりも比較優位になると理解した。

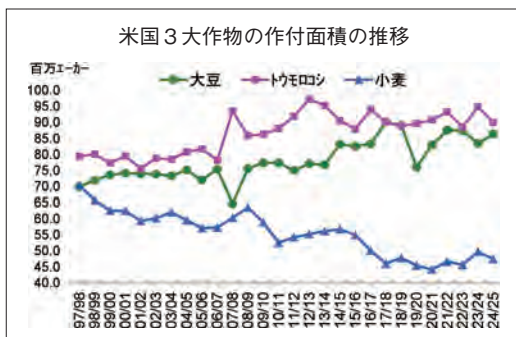
3月28日に米国農務省から発表された、農家の新穀作付け意向面積は次の

通りになった。

(単位：千エーカー)

	2024年産	市場予想	前年実績
トウモロコシ	90,036	91,776	94,641
大豆	86,510	86,530	83,600
小麦	47,498	47,330	49,575

96年農業法以降、自由な作付けが可能になった米国農家は、需要動向を反映した先物市場の価格シグナルに応じて、それまで小麦産地であった大平原北西部にと、積極的に大豆の栽培面積を拡大させて来たが、穀



倉地帯の耕作面積に制約があり、コーンベルトではトウモロコシと大豆とが2者択一の関係にある。2024年産の農家作付け意向面積は、トウモロコシは90百万エーカーと、前年比4.6百万エーカー（4.9%）の減少で、事前予想よりも1.7百万エーカー少なかった。一方、大豆は前年比2.9百万エーカー（3.5%）の増加見込みになったが、事前予想とほぼ一致した。需給の緩和見通しを背景に、2月下旬にトウモロコシの期近限月が3年3カ月振りに4ドルを割り込んだことが、米国農家にトウモロコシの栽培を手控えるシグナルを発したと推察できる。一方、大豆は、米国の現物需給が引き締まり、東部の搾油業界向けに割安なブラジル産大豆を輸入する動きが出て来たことが、大豆の比価の改善を通じて、農家に増産を要請したと推察された。全小麦の面積は、昨年より2.1百万エーカー少ない47.5百万エーカーと見込まれた。播種が終わっている冬小麦の面積が34.1百万エーカーと推定され、その他春小麦が11.3百万エーカー、デュラム小麦が前年比0.35百万エーカー多い2.0百万エーカーと見込まれた。トウモロコシと大豆との合計は176.5百万エーカーで、昨

年実績の178.2百万エーカーを下回り、これに小麦を加えた224.0百万エーカーは昨年実績の227.8百万エーカーを下回っているため、価格の下落による農家の増産意欲の低下、即ち安値が安値を癒すと考えられた。

これら農家の意向通りの作付面積が実現するかどうかは、6月上旬まで2か月間の天気次第になる。近年の播種時期の面積変動を見ると、農家はトウモロコシの栽培を最優先させ、天気が許せば予定を超えてトウモロコシの面積拡大が起こった。少し高目の土壌温度が必要な大豆は播種作業が後になる結果、面積にしわ寄せが起こりやすい傾向があり、実作付面積の推定値は6月末の報告を待たねばならない。

2. 四半期在庫報告は端境期に向かって、正反対の需給環境を確認

同じく、3月28日に報告された四半期全米在庫報告は、米国の端境期に向かう現物需給を予測する上で大切な手掛かりであった。トウモロコシは、端境期に向かっての供給量が十分に確保できていることを確認したが、大豆は窮屈な需給環境下にあり、消費を節約すると共に、場合によってはブラジルからの輸入や新穀の早植えを促すものになった。今回の全米在庫推定と前年下半期の消費実績は次のようになった。

(単位：100万ブッシェル)

	3月1日在庫	前年同期	前年下半期消費量 (小麦は第4四半期)
トウモロコシ	8,347.2	7,396.4	6,063
大豆	1,845.0	1,686.6	1,441
小麦	1,087.4	941.2	401

トウモロコシは、前年同期を上回る現物在庫が確認されたので、これからの消費量が前年並みであったとしても、需給に支障のない感触を与えたが、12-2月期の消費量が前年比11.7%増と推定され、安値による需要の回復が強材料になった。大豆は国内搾油消費が過去最高の水準で推移して、半期に1,100百万ブッシェルの消費が確実視された。端境期の需給が引き締まる大豆は、旧穀年度の消費節約を促す逆鞘の価格体系が必要になると判断された。

3. 米国の穀物需給に不安はなく、農家価格見通しは引き下げ

流通年度の後半を迎えて、シカゴ定期はウクライナ戦争の始まった直後(2022年5月)の高値からほぼ半値の水準に戻り、4月になると3年3カ月振りの安値圏での揉み合いが続いた。米国農務省が4月から毎週月曜日に、週間作況作柄進捗報告を発表するようになり、新穀小麦の生育状態と、トウモロコシや大豆の播種進捗を見守る時期を迎え、足元の需給動向への警戒感が薄らいだ。ウクライナ戦争に加えて、中東の地政学的リスクの高まりから、安全資産としての米国ドルの独歩高が促されて、日本を始めとする食糧輸入国では、米国ドル建て価格の下落効果(安値による消費の拡大)が帳消しにされてしまった。

4月11日に発表された米国農務省の4月度の需給報告は、3月末に発表された四半期在庫調査を反映させて、米国の消費動向の見直しと今年度の期末在庫の修正が注目された。また、収穫に向けて成熟期にある南米産地の作柄推定の見直しも大きな関心事であった。

① 米国需給——期末在庫が市場予想を上回り、弱材料と判断された

期末在庫見通しは下記の通り改訂された。

(単位：100万ブッシェル)

期末在庫	4月推定	市場予想	前月予測	前年実績
トウモロコシ	2,122	2,102	2,172	1,360
大豆	340	317	315	264
小麦	698	690	673	570

米国農務省は、トウモロコシの期末在庫見通しを50百万ブッシェル引き下げて、2,122百万ブッシェルに改訂したが、市場の事前予想より20百万ブッシェル多くなった。飼料用途の項目が25百万ブッシェル引き上げられて5,700百万ブッシェルになった。エタノール用トウモロコシ消費見通しが25百万ブッシェル増の5,400百万ブッシェルに改訂されたことで、産業用途の消費が25百万ブッシェル多い6,805百万ブッシェルに上向き改訂された。輸出見通しは

2,100百万ブッシェルで据え置かれた。期末在庫の引き下げ（需要の増加）があったにも関わらず、米国農務省は農家価格見通しを5セント引き下げて470セントに下方修正した。

三品揃って農家価格の引き下げになったことが、シカゴ定期には弱材料と判断された。トウモロコシは同日朝に発表された、輸出成約高に急ブレーキが掛ったことが弱材料になった。農家価格の年度比較は下記の通りになった。

(単位：セント)

農家価格	4月見通し	前月予測	前年度実績	前々年度実績
トウモロコシ	470	475	654	600
大豆	1,255	1,265	1,420	1,330
小麦	710	715	883	763

結果論になるが、高値が供給を促して、需給が緩和に向うことで、小麦やトウモロコシは2割安、大豆は1割強の下落と、前年比での農家価格の低下傾向が鮮明になった。

② 国際需給（生産高）と期末在庫見通し——トウモロコシの緩和と小麦の引き締め

(単位：万トン)

		4月予測	前月予測	前年実績	前年比
トウモロコシ	生産高	122,786	123,024	115,774	+7,012
	貿易量	20,059	20,227	18,023	+2,036
	期末在庫	31,828	31,963	30,219	+1,609
大豆	生産高	39,673	39,685	37,820	+1,853
	貿易量	17,306	17,361	17,209	+97
	期末在庫	11,422	11,427	10,131	+1,291
小麦	生産高	78,736	78,670	78,934	▲198
	貿易量	21,347	21,213	22,017	▲670
	期末在庫	25,827	25,883	27,100	▲1,273

トウモロコシの期末在庫予測は、4月も小幅な減少になったが、米国の大増産効果で、前年比で1,609万トンの積み増しができる見通しになった。アルゼンチンと南アフリカの作柄見通しが悪化したが、市場が懸念するブラジル

二期作の作柄見通しは、前年比1,300万減産の1億2,400万トンで様子見が続いた。大豆も、南米産地の作柄に不透明感が残るが、収穫がほぼ終了したブラジルが1億5,500万トン、収穫に着手されたばかりのアルゼンチンの作柄が5,500万トンで据え置かれた。一方輸入側では養豚業の低迷が報じられている中国の輸入見通しが1億500万トンで据え置きになったことで、南米の増産で期末在庫を積み増しする見通しに変わりはない。小麦は収穫情報の整理による微調整があったが、国際市場では黒海沿岸（ロシアとウクライナ）の輸出攻勢により欧州からの輸出が減少する見通しが注目された。米国産小麦の既契約を解約した中国の動向が注目されたが、年間輸入見通しに変わりはない。

③ 南米産地の生産高推定と輸出見通し—トウモロコシの作柄に不透明感が浮上

今年度の供給側の最後の不確実要因である、南米産地の作柄と輸出見通しは次のように報告されている。依然として、確定には程遠い状態であることで、市場に警戒感が残った。

(単位：万トン)

		4月予測	前月予測	前年実績	前年比
ブラジル	生産高	12,400	12,400	13,700	▲1,300
トウモロコシ	貿易量	5,200	5,200	5,426	▲226
アルゼンチン	生産高	5,500	5,600	3,600	+1,900
トウモロコシ	貿易量	4,200	4,200	2,524	+1,676

ブラジルでは一期作トウモロコシの収穫がほぼ完了して、大豆の後作になる二期作トウモロコシは播種作業が概ね完了した時点の予測になった。米国農務省はトウモロコシの作柄見通しを1億2,400万トンで据え置きにした。市場の事前予想は1億2,175万トンで、ブラジルのCONAB（食料供給公社）は1億1,096万トンとの推定を発表した。4月も現地側調査機関の推定値と、米国農務省との楽観的な見通しとの相違が縮小に向かう兆しはなかった。価格の低下による採算性の悪化から、作付面積の減少懸念を強めて、米国農務省は収穫面積見通しを当初の2,290万ヘクタールから2,190万ヘクタールに引き

下げたが、ブラジルの公式推定は発表されていない。二期作トウモロコシが、受粉期を迎えるのは5月初旬と予想されるので、ブラジル二期作トウモロコシの作柄が固まるにはかなり先のことになると思われる。

こうした、ブラジルの作柄見通しに下方修正のリスクが残る中、米国農務省は、アルゼンチンのトウモロコシ作柄見通しを前月予測の5,600万トンから5,500万トンに引き下げた。前月は、アルゼンチンが降雨に恵まれたことで、大豆ともども豊作見通しに改訂されたが、その後は高温湿潤気候に変わり、病害菌に絶好の繁殖条件を提供したとして、産地の穀物取引所がトウモロコシの作柄推定を大きく下方修正するようになった。ロザリオの穀物取引所は、アルゼンチンのトウモロコシの作柄見通しを、それまでの予測から650万トン少ない5,050万トンに引き下げて、過去に前例のないトウモロコシの病害菌（Spiroplasma）による被害が拡大して、農家がサイレージ用途に収穫を急いでいることを理由にした。ブエノスアイレスの穀物取引所も、トウモロコシの作柄見通しを250万トン少ない4,950万トンに下方修正したが、当初の作柄予測よりも700万トンの低下になった。また、南米産作柄予測の専門家であるコードニア博士も、アルゼンチンのトウモロコシの作柄見通しを200万トン引き下げて5,300万トンとした。一方、米国農務省は100万トンの引き下げで5,500万トンとして様子を見守っている。このように、南米産のトウモロコシは、ブラジルの二期作に続いて、アルゼンチンでも病害菌の被害による収穫面積の激減リスクが残ることになった。米国需給の緩和傾向が確認できたが、国際市場の供給余力は米国農務省予測の通りにならない可能性が残った。

4. 世界各地の天候不順から、シカゴの穀物定期が動き出した

5月に入り、シカゴの穀物定期に天候相場の雰囲気が強まり、例年通り価格の変動性が高まった。豊作が確定的と思われた南米諸国のトウモロコシや大豆が、生育の最終局面で思い掛けない難関に直面して、減産リスクが急浮上した。そうした中、米国農務省から5月度の需給報告が発表されて、新穀

年度の需給バランスが披露されるのと相前後して、世界各地の天候不順に市場の関心が向かった。大豆やトウモロコシは1月中旬以来の高値圏に上昇する一方、小麦は米国の主産地カンザスの高温少雨のみならず、ロシアに遅霜の被害発生の報告などの天候不順を囁して、昨年12月初旬以来の高値圏に急伸した。需給報告に示されたファンダメンタルズに基調的な変化は少なかったが、4月下旬からの天候推移や外部市場の地政学的リスクの高まりに触発されて、穀物市場は俄かに天候相場の様相を強め、大手投機筋が持続一辺倒の取組指針を修正に動いた。

米国穀倉地帯は、5月後半が低温多雨型の天気予報となり、トウモロコシの播種作業の遅延が懸念された。大平原南部の冬小麦産地には恵みの雨になる可能性が高いが、カンザス州の土壤水分不足を解消するまでの雨量は期待できないとされた。ブラジル南部のリオグランデドスル州を見舞った大規模な大雨と洪水は、天気予報が当分の間は降雨の止むことがないとし、大豆の収穫や品質劣化が懸念された。こうした南部産地とは反対に、受粉期に高温乾燥型の天気が続いた中央部の二期作トウモロコシ地帯は、漸く俄雨の予報が示された。一方、アルゼンチンの中央部では早霜警報が発出され、成熟期の大豆やトウモロコシの品質劣化が懸念された。そして、メディアはロシアの対独戦勝記念式典の様子を伝えたが、この時期に稀な降雪・極寒の中での行事を報じたことで、モスクワ以南の冬小麦産地での凍害・霜害の発生が懸念されるようになった。黒海周辺地域は、今後高温乾燥型の天気に戻ると予報されたが、ウクライナからは戦争による栽培面積の減少が報告された。日替わりで、世界各地から様々な天候不順が伝わるようになると、テクニカル指標が買われ過ぎ警戒感を示しても、押し目買いが入り易くなり、三品共にチャートの姿が急速に好転した。

5. 米国の農家価格見通しの引き下げは、弱材料の出尽くしなのか？

市場の関心が次第に米国穀倉地帯や世界の主産地での天気予報に向かうようになってきたが、5月の需給報告では、農家価格予測が下記の通り示された。

(単位：セント)

農家価格予測	旧穀年度	新穀年度	相違（下落幅）
トウモロコシ	465	440	▲25 (5.4%)
大豆	1,255	1,120	▲135 (10.8%)
小麦	710	600	▲110 (15.5%)

三品とも需給が緩和に向かうので、農家価格は低下するとの予測が示されたが、値下がり幅は同率ではない。国際市場に反映される需給の緩和感が、それぞれの輸出市場への依存度や国内産業の消費動向によって、影響度合が違ってくる。嘗ては、三品の間に2-3-5の比価があり、政府の支持価格制度の枠組みの中で価格が動いていたが、トウモロコシを起点に考えると比価の法則性は現在も概ね維持されている。早ければメモリアルデー休日の辺りから、新穀の収穫に着手される小麦の作柄、そして中西部の農家はその頃にトウモロコシの播種作業を完了できる目途が付くかどうか、その後の市場の関心事になった。

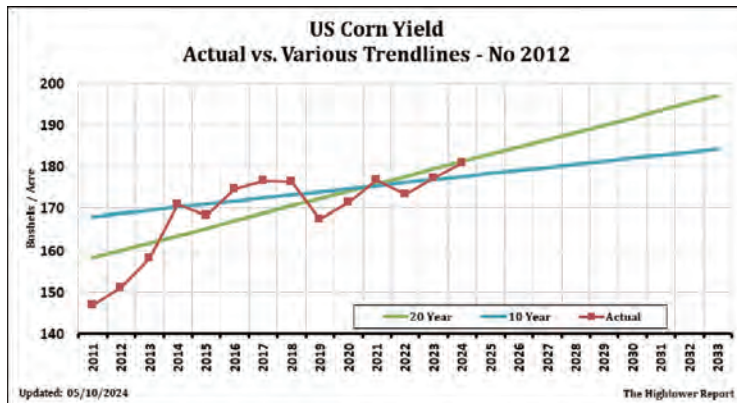
6. トウモロコシの需給は緩和するが、当初よりかなり引き締まる

a. 米国需給——面積の減少を単収の増加で補う見込みで、天気の協力が必要

トウモロコシは、5月5日時点の播種進捗が36%と前年同期から6%、平年より3%の遅れが生じていたことで、大幅な作付け遅延が発生した2019年産が思い出された。中でも東側の主産地イリノイで、32%（平年41%）と出遅れ、西側でもアイオワが47%（53%）、ネブラスカが31%（48%）と、作業の遅れが心配された。トウモロコシの初回の新穀生産高予測は、14,860百万ブッシェルと前年度より482百万ブッシェル（3.1%）の減産見通しで発表になった。作付面積が農家意向面積の90.0百万エーカーを基に、収穫予想面積を82.1百万エーカーとして、長期傾向値単収の181.0ブッシェルで計算された。前年度は収穫面積が86.5百万エーカーと単収が177.3ブッシェルであったので、面積の減少が生産高に大きく影響する。単収は、今後の生育期を通じての天気次第になるが、播種の遅れが単収に悪影響を及ぼす可能性（重要な受粉期

が後ズレすることで、真夏の高温乾燥期と重なること）を考慮すると、傾向値単収の実現が不確実視された。

＝トウモロコシの単収実績と予測＝（CMEより転載）



トウモロコシの旧穀需給は、期末在庫見通しが100百万ブッシェル引き下げられた。市場予想を78百万ブッシェル下回り、エタノール用途での消費増加が50百万ブッシェル、輸出需要の増加が50百万ブッシェルそれぞれ引き上げられた。飼料用途の項目は5,700百万ブッシェルで変更はなかったが、種子を含む産業用途は合計6,855百万ブッシェルに50百万ブッシェル増加し、輸出需要が2,150百万ブッシェルに修正された。期末在庫は2,022百万ブッシェル、対消費在庫率は13.8%に低下したが、年間の農家価格予測は5セント低い465セントに下方修正された。

新穀需給は面積の減少が影響して生産見通しが、14,860百万ブッシェルと前年比3%の減産になったが、前年度からの繰越在庫が多かったことで、総供給量は16,907百万ブッシェルと2017/18年以来となる高水準の供給体制になった。これが寄与して新穀年度の期末在庫は2,102百万ブッシェルと、期首在庫を80百万ブッシェル上回る見込みであるが、市場の事前予想より182百万ブッシェルも下回った。需要側の見通しは飼料用途の項目が5,750百万ブッシェルで今年度より50百万ブッシェルの増加、産業用途は横ばいであったが、輸

出需要は50百万ブッシェル増加見込みで2,200百万ブッシェルとなり、需要合計は14,805百万ブッシェルと生産高の14,860百万ブッシェルとほぼ釣り合っている。期末の対消費在庫率は13.8%から14.2%へ改善が見込まれ、農家価格見通しは440セントと旧穀年度から25セントの低下が見込まれた。こうした米国内のトウモロコシ価格の低下により、国際市場の価格競争力が強まるので輸出需要の増加に繋がると予測された。

b. 国際需給——繰越在庫の不透明感と米国の減産見込みで、需給の均衡を想定

(単位：万トン)

トウモロコシ	生産高	供給量	貿易量	消費量	期末在庫
旧穀年度	122,809	152,900	19,738	121,592	31,308
新穀年度	121,993	153,301	19,110	122,075	31,227
相違	▲816	+401	▲628	+483	▲81

旧穀年度の期末在庫は、前月予測から520万トン引き下げられた。米国の250万トンは需要の増加、ブラジルは主として作柄見通しの悪化が災いして240万トンの下方修正があった。新穀年度の生産高は、米国の作柄見通しが1,223万トン（3.1%）の減産見込みとなったことが大きく災いし、欧州や中国、そしてブラジルなどの増産では埋め合わせできず、世界全体では816万ト

トウモロコシ	旧穀生産高	貿易量	新穀生産高	貿易量	前年比
米国	38,969	5,461	37,746	5,588	▲1,223 / +127
メキシコ	2,330	2,110	2,500	2,180	+170 / +70
中国	28,884	2,300	29,200	2,300	+316 / unch
E U	6,100	2,100	6,480	1,800	+380 / ▲300
ロシア	1,660	560	1,600	520	▲60 / ▲40
ウクライナ	3,100	2,600	2,700	2,400	▲400 / ▲200
アルゼンチン	5,300	3,800	5,100	3,600	▲200 / ▲200
ブラジル	12,200	5,000	12,700	4,900	+500 / ▲100
南アフリカ	1,400	220	1,700	320	+300 / +100

ンの減産が見込まれている。世界の消費は堅調と見込まれるが、貿易量の増加が必要になるほどではなく、期末在庫の変動も極わずかで、需給の均衡が見込まれている。

旧穀年度は南半球の収穫が未だ終了しておらず、ブラジル、アルゼンチンの作柄及び輸出余力が未確定である。しかし、米国に豊富な供給余力があり、旧穀及び新穀年度で2年連続して、世界第一位の輸出国の座を奪還すると見込まれた。(2022/23年度は、米国の減産に対して、大豊作になったブラジルが世界第一位の輸出国に浮上した。)更に、新穀年度はブラジルの増産に対して、アルゼンチンの減産が見込まれる等、これから半年先の天候にも注意が必要な予測になった。飼料穀物では、中国がトウモロコシを2,300万トン輸入する見通しになっているが、大麦を1,000万トン、そしてソルガムを800万トン、合計4,100万トン輸入する見込みになった。

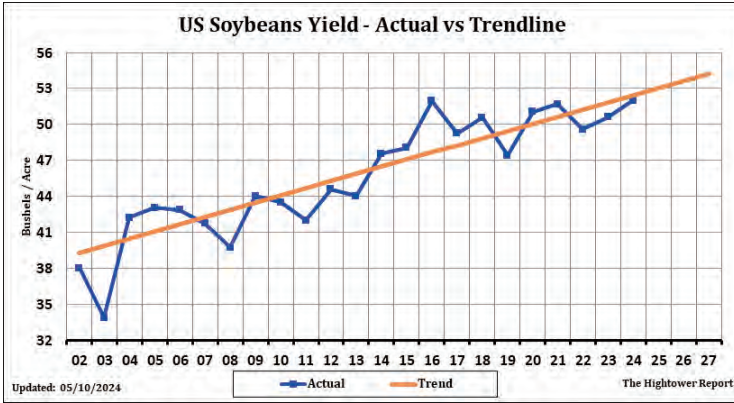
7. 大豆はブラジルの増産が続き、需給は一段と緩和に向かう見込み

a. 米国需給——需要は旺盛だが、新穀の増産により需給の緩和が進む

米国の播種作業よりも、ブラジルの南部産地リオグランデス州の大洪水がメディアに大々的に取り上げられ、収穫終盤を迎えた大豆の作柄と品質への被害が心配されると同時に、この地域の食肉加工業の閉鎖や物流網の寸断が懸念された。そうした中、米国の新穀大豆は、生産高の回復に伴う需給規模の拡大と期末在庫の積み増しが予測された。農家作付け意向面積の86.5百万エーカーを基に、収穫予想面積を85.6百万エーカーとして、傾向値単収の52.0ブッシェルで試算した結果、生産高は4,450百万ブッシェルと前年比285百万ブッシェル(6.8%)の増産予測になり、搾油需要と輸出の伸びを上回る増産見通しになった。

旧穀年度の期末在庫は340百万ブッシェルと前月予測が据え置かれた。種子用途の消費が過去に遡って修正されて、“その他”の項目での修正があったが、対消費在庫率は8.3%で変わらず、農家価格も1,255セントで前月予測と変わりなかった。

＝大豆の単収実績と傾向値＝（CMEより転載）



新穀年度は、生産高が4,450百万ブッシェルと前年比285百万ブッシェル(6.8%)の増産見込みになり、総供給量は4,805百万ブッシェルと前年比351百万ブッシェルの増加見通しになった。需要側は国内搾油消費が125百万ブッシェル増の2,425百万ブッシェル、輸出需要が125百万ブッシェル増の1,825百万ブッシェルとの予測で、総需要量は4,360百万ブッシェルと見込まれた。差し引きの期末在庫予測は445百万ブッシェルと、期首在庫を105百万ブッシェル積み増す見通しになり、対消費在庫率は今年度の8.3%から10.2%に改善が見込まれることで、農家価格は135セントと大きく低下して1,120セントと予測された。

b. 国際需給——南米諸国の増産が実現すれば、需給は大幅な緩和見込み

旧穀年度は南米産大豆の最終生産高が未だ確定していないが、新穀年度は世界の大豆生産高が2,531万トン(6.4%)の大増産で、4億2,226万トンと過去最高の作柄見通しが示された。

大豆	生産高	供給量	貿易量	消費量	期末在庫
旧穀年度	39,695	49,748	17,247	38,353	11,178
新穀年度	42,226	53,404	18,020	40,174	12,850
相違	+2,531	+3,656	+773	+1,821	+1,672

大豆は旧穀年度の期末在庫が、前月予測より244万トン下方修正されたが、

ブラジルの作柄見通しの下方修正と、中国の在庫減少によるものであった。大豆の国際需給は、南米産地の生産高が合計で全世界の55%を占めるようになったので、生産サイクルに半年間のズレが生じるが、前年比で2,531万トン(6.4%)の大増産が見込まれた。米国で777万トン(6.8%)の増産に続いて、ブラジルでは1,500万トンの増産で1億6,900万トンの過去最高の作柄が想定されている。その一方、需要は旺盛な大豆ミール消費が続くと見込まれて、世界最大の輸入国である中国の輸入量は、更に400万トン増加して1億900万トンと見込まれる。米国では播種作業が開始されているが、南米産地は未だ旧穀の収穫も終わっていないので、随分と遠い先の机上計算による需給予測との印象を与えた。

大豆	旧穀生産高	貿易量	新穀生産高	貿易量	前年比
米国	11,334	4,627	12,111	4,967	+777 / +340
中国	2,084	10,500	2,070	10,900	▲14 / +400
EU	298	1,430	305	1,430	+7 / unch
ブラジル	15,400	10,200	16,900	10,500	+1,500 / +300
アルゼンチン	5,000	460	5,100	550	+100 / +90
パラグアイ	1,050	650	1,070	680	+20 / +30

秋からラニーニャ現象が強まる中、果たして一年後にブラジルの新穀生産高が10%近くの大増産が達成できるのか、またブラジル・レアルの動向など、天気以外にも南米産地の農家の栽培意欲に影響を及ぼす不透明な要因が多いことが、大豆の需給の特色になった。

天候相場を見守る上で、最大の手掛かりになる米国農務省の新穀の需給バランスが以上の通り披露された。しかも、米国のみならず、世界の主産地から天候不順の報告が4月下旬から増加してきたことに市場が神経質になっていた矢先に、当初考えていたよりも、小麦やトウモロコシの需給見通しが、かなり均衡の保たれた、需給が引き締まる印象を与えたことで、大きな売持ちで対処して来た投機筋が、売持高の軽減に動いた。相場の格言は、「穀物の供給体制は、夏場の120日間で作られる」と言うもので、南米産地の比率が高ま

った現在は適切ではないかもしれないが、一旦は不要とされた天候リスクを大急ぎで織り込み、これからの夏場の天候リスクに備えることになった。

8. 静かな反響で終わった米国農務省の6月度需給報告

6月上旬になると、米国大平原では冬小麦の収穫前線が北上して、中西部では春作物の播種が概ね終了するとともに、シカゴの穀物市場に小麦の収穫プレッシャーが強まった。足元の需要が旺盛なトウモロコシや大豆は、新穀の初期生育が例年になく良好な作況で始まり、米国ドル高が上値を抑制する一方、テクニカルな下値支持線が働くことで一進一退が続いた。米国農務省の6月度需給報告は、偶数月は印象の薄い報告で終わるとの市場のジンス通り、懸念された小麦の国際需給も衆知の事実の確認に止まり、下値余地が試される展開になった。6月度の需給見通しの概要は次の通り。

① 米国需給——需給の緩和予想に変わり無し

(単位：100万ブッシェル)

期末在庫	旧穀年度		新穀年度	
	6月予測	前月予測	6月予測	前月予測
トウモロコシ	2,022	2,022	2,102	2,102
大豆	350	340	455	445
小麦	688	688	758	766

今月の主な変更点は、小麦でユーラシア大陸西側の作柄悪化に対して、米国の増産と輸出の増加見込みとなり、大豆は旧穀年度での国内搾油消費の削減と期末在庫の増加になったが、トウモロコシは変更点の少ない報告になった。

A. トウモロコシ—旧穀需給は前月からの変更点はなく、期末在庫見通しは事前予想よりも13百万ブッシェル多かった。新穀年度の需給も、前月5月度の面積と単収が据え置かれて、生産高推定に変更はなかったが、旧穀年度と同様、市場の事前予想よりも23百万ブッシェル多くなった。農家価格見通しも旧穀年度の465セント、新穀年度の440セントが据え置きになった。新穀には、トウモロコシの実作付面積の不透明感が残るが、初期生育が高い作況評

値になったことで、主産地の生育を見守る余裕ができた。6月28日に実作付面積推定と6月1日時点の全米在庫調査報告が予定されているので、米国農務省はそれらの統計資料に基づく需給の見直しを7月度の改定で披露するものと思われる。

B. 大豆—旧穀年度の期末在庫は、前月より10百万ブッシェルの増加となり、事前予想よりも4百万ブッシェルの増加になった。これは、搾油消費量が10百万ブッシェル少ない2,290百万ブッシェルに引き下げられたことによるもので、年間を通じての農家価格予測は1,255セントで据え置かれた。新穀年度の期末在庫も、前月予測より10百万ブッシェル多い455百万ブッシェルになり、市場の事前予想より7百万ブッシェル多くなった。搾油消費見通しが2,425百万ブッシェル、輸出需要が1,825百万ブッシェルで据え置きになり、旧穀年度からの繰越在庫の増加が、そのまま期末在庫の増加に繋がった。農家価格見直しも、前月の1,120セントが据え置かれた。

② 国際需給——小麦の需給引き締めりが顕在化

(単位：万トン)

期末在庫	旧穀年度		新穀年度		
	6月予測	前月予測	6月予測	前月予測	前年比
トウモロコシ	31,239	31,308	31,077	31,227	▲162
大豆	11,107	11,178	12,790	12,850	+1,897
小麦	25,956	25,780	25,227	25,361	▲729

穀物の国際需給は、小麦のように新穀の収穫が北半球で開始している作物もあれば、トウモロコシのように南米産地で旧穀年度の最後になる収穫が始まったばかりの産地があることで、その全容をある一定の時期を決めて把握することは難しい。しかし、北半球の比率の高い小麦は、その生育環境からも、9月末には世界全体の9割以上が収穫できるので、残りのトウモロコシや大豆などの先駆けとしての役割が期待されている。

a. トウモロコシの国際需給——米国産の作柄次第の様相が強まる

市場の関心事は、米国産の新穀が出回るまでの間、国際市場への追加供給基地としてのブラジルとアルゼンチンの作柄見直しであった。両国の数字は

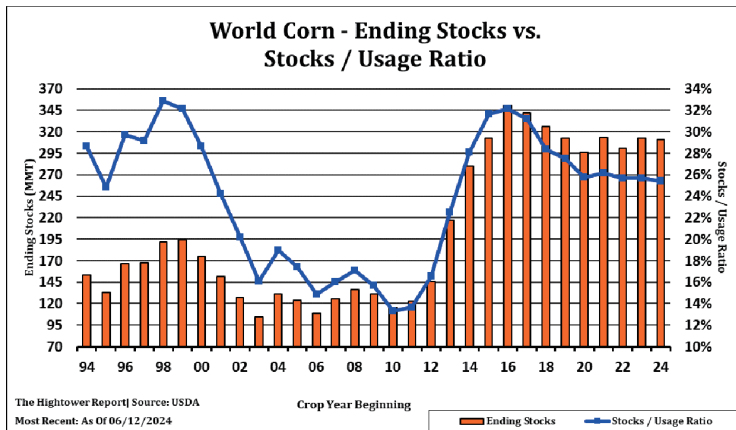
旧穀年度に集計されるが、ブラジルは輸出の大半を占める二期作トウモロコシの収穫が始まったばかりであり、アルゼンチンの収穫は3割強に進んだ段階で、それぞれに天候や病虫害による不安材料が伝えられていた。全体の需給見通しは、次のように示された。

(単位：万トン)

	生産高	供給量	飼料用途	総消費	輸出	期末在庫
新穀年度						
5月予測	121,993	153,301	77,403	122,075	19,110	31,227
6月予測	122,054	153,293	77,444	122,216	19,175	31,077
旧穀年度	122,810	152,904	76,022	121,665	19,911	31,239
前年比較	▲756	+389	+1,422	+551	▲736	▲162

新穀の生産高減少は、米国の減産によるところが大きいですが、飼料用途の増加は小麦の飼料用途の供給量が低下することを想定したと推察される。全体としての需給は均衡が保たれる見通しになった。

＝世界のトウモロコシ期末在庫と在庫率＝ (CME)



市場が注視していた南米の2023/2024年産トウモロコシの作柄は、米国農務省の発表の翌日に、ブラジルのCONAB（食料供給公社）が、トウモロコシの生産高推定を前月推定の1億1,200万トンから1億1,410万トンと上向き改訂を行った。米国農務省の6月予測は1億2,200万トンだったので、依然と

して数百万トン程度の相違がある。アルゼンチンは、収穫が4割の完了に進んだが、現地側の作柄見通しは4,700万トンから5,000万トンで、米国農務省の推定5,300万トンと大きな相違がある。このように旧穀年度の供給数量に不透明感が残るが、5月下旬の価格の下落は、ブラジルで二期作トウモロコシの収穫が開始されたことによる収穫プレッシャーと判断される。一方、6月からの下げ渋りは、季節的に北半球の供給が減少する中、米国への輸出需要が高止まりしたことによるものと理解された。

b. 大豆の国際需給——需給の大幅緩和見通しの中で、中国の買付に不透明感
シカゴ定期では、トウモロコシが新穀・期先限月に向けて順軌の価格体系を示して、将来の需給引き締まりに警戒を喚起する一方、大豆の新穀・期先限月には逆軌の価格体系を示して、需給の先行き緩和見通しを伝えていた。ブラジルから、新穀大豆の播種開始の前倒し決定が報じられて、9月初旬からブラジル中西部が天候相場入りすることになった。南米産地の播種開始に向けて、南米農家の作付け意欲に影響を及ぼす、中国からの需要動向が話題になるが、米国農務省が示した新穀大豆の需給バランスは、これまでのように南米産地に大增産を要請していない。6月の需給見通しの変更点はわずかであったが、平年並みの天候が実現すれば、需給の大幅緩和が達成されるとの予測が繰返されて、逆軌体系を大きく拡大させることになった。

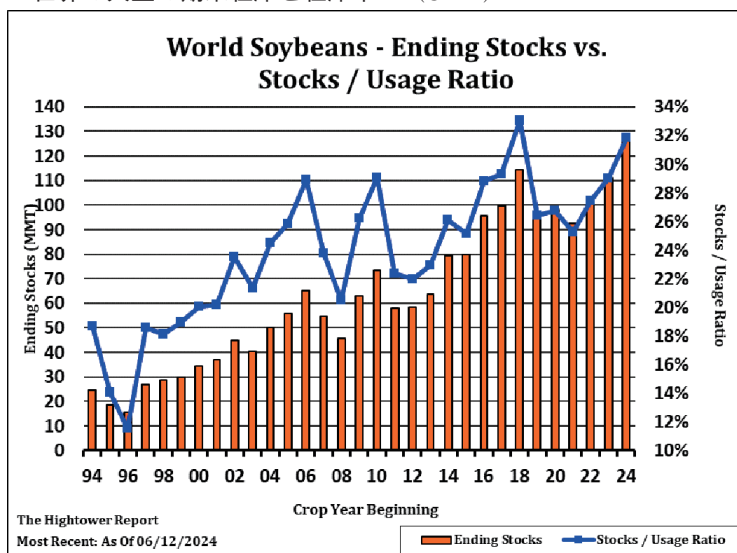
(単位：万トン)

	生産高	供給量	搾油消費	総消費	輸出	期末在庫
新穀年度						
5月予測	42,226	53,404	34,587	40,174	18,020	12,850
6月予測	42,226	53,333	34,578	40,163	18,020	12,790
旧穀年度	39,591	49,650	32,978	38,334	17,262	11,107
前年比較	+2,635	+3,683	+1,600	+1,829	+758	+1,683

大豆の国際需給は、年間1億トンを超える、中国の巨大な大豆輸入需要を南米諸国と米国でどのように分担して、供給するのかになっている。単純に中国の年間輸入量が、ブラジルの輸出余力と一致すれば、新穀年度には中国が米国を頼ることなく、BRICSの仲間取引で、大豆の調達を賄うことができ

る見込みになる。秋の大統領選挙を意識して、バイデン政権の対中国貿易の規制が一段と強化されているが、これまでの中国であれば、先安の価格体系を利用して、期先（新穀）の調達を進めるところが、今年に限って、まだ新穀年度での米国産大豆の成約に着手されていないが、それが中国畜産業の低迷や食料品消費の縮小傾向との関連で懸念材料になっている。

＝世界の大豆の期末在庫と在庫率＝（CME）



天候相場の様相を強めたシカゴ定期の高騰が一巡した後、外部の政治経済環境の影響を受けて、6月になると投機筋が穀物市場に対する弱気の取組を強化した。小麦には米国の収穫プレッシャーが強まったが、国際需給は引き締まり、米国中西部ではトウモロコシや大豆の新穀の作柄を決定付ける重要な生育期は7月からで、6月後半は東の間の休息期間のように見える。シカゴ定期が示す価格シグナルは、小麦やトウモロコシに底値感を示し、次の節目は米国の独立記念日（7月4日）に向けて6月末の実作付面積と四半期在庫報告になった。

9. 米国農務省の統計資料から、正しく物事を心配する必要性

少し話を戻すと、米国中西部の農家は、メモリアルデーの頃にトウモロコシの播種作業を終えることを目標にしている。今年はコーンベルト東側に低温多雨型の天気が定着する中で、5月26日時点でトウモロコシの播種完了は83%に進捗した。前年同期比で6%の遅れだが、平年比で1%早まったことで市場には安堵感が生まれた。多くの場所で、最適の期間内に播種を完了することができなかったが、既に終わった場所は“Rain makes Grains.”になるとして、シカゴ定期にリスク外しの手仕舞い売りが広まったと報じられた。5月の最終週は4日連続の陰線となり、週足はキーリバーサル型で終わった。しかし、トウモロコシの播種作業の進捗状況を冷静に考えて見ると、市場参加者の多くが受け止めた、平年よりも早く進んだとの思い込みは間違いとする見解が、農耕学者から指摘された。

米国農務省の週報で比較される平年とは5年間の単純平均で、5月26日時点でトウモロコシの播種完了は83%になるが、最低（2019年の58%）と最高（2021年の92%）を除いた中間3年の平均値は86%になる。従い、この時点の平年比は1%早いのではなく、3%の遅れが生じていたと言う見方が適切になると言う。更に、昨年はこの時点で播種完了が89%で、2023年産は過去最高の単収177.3ブッシェルが達成された。今年は、それよりも6%の遅れで播種が進展する中で、昨年実績を超える181.0ブッシェルの長期傾向値単収の実現は可能なのか？今週のトウモロコシの下落が、月初来、積み上げてきた天候（減産）リスクをそっくりそのまま返上することに、妥当性は見いだせないのではと言う懐疑的なコメントを提供している。

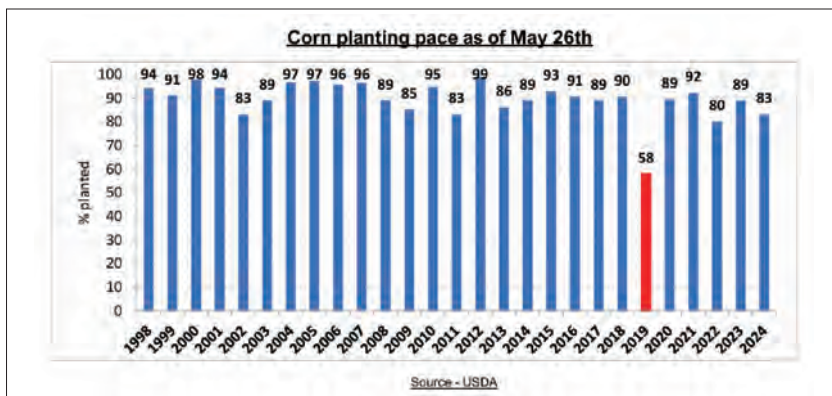
中西部の農家にとって、5月末日とは作物保険の担保条件としての最終栽培日になる。6月第一週に掛けて、コーンベルトのほぼ全域で保険の期限が到来することで、播種作業が遅れているコーンベルト東側と北部産地の農家が、単収の補償なしでも予定通りにトウモロコシを栽培するのか、それともトウモロコシの栽培を断念して、何もせずに作付け断念を宣言して保険求償

するのか、それとも他の作物に転作を検討するのかの選択に迫られている。更に、過去の経験則では5月15日から、播種の完了が5日遅れる毎に単収は3%の低下が発生していたという。悪天候により、トウモロコシの播種を断念して、6月上旬でも単収への影響が少ない種子の手配ができるのなら、大豆の栽培に挑戦する農家が一般的と言われるので、早くもトウモロコシから大豆に1.5百万エーカーの面積移動が予想されるようになったと報じられた。仮に、トウモロコシの収穫面積に1.5百万エーカーの減少が起これば、約270百万ブッシェルの減産になり、5月の需給バランスの期末在庫予測である2,100百万ブッシェルが1,830百万ブッシェルに低下する可能性を秘めていることになるが、市場はほぼ平年通りに播種を終えたとの安堵感に支配されている。仮に、トウモロコシの収穫面積の減退1.5百万エーカーの大半が大豆に転作されるとすると、大豆は78百万ブッシェルの増産になるので、期末在庫は523百万ブッシェルにと大幅な積み増しの可能性が生まれる。新穀需給の引き締まるトウモロコシと、需給が緩和する大豆との間で、トウモロコシ買／大豆売スプレッド取引が活発化することは必然と思われる。

トウモロコシも大豆も発芽直後の初期生育は、豊富な土壌水分が寄与して高い作況評価で始まったので、新穀の作柄見通しには実作付面積推定が重要な役割を担うことになる。これまでのトウモロコシ市場は、小麦の収穫プレッシャーという逆風の中で、秋の収穫期に向けてジリ安の展開になることが多かった。今年も同じことが繰り返されるのか、それとも、小麦相場が一足先に動き始めたように、世界の小麦需給は例年になく厳しい環境に置かれる可能性を示唆しているのか、トウモロコシも、自分のことは自分で面倒を見なければならなくなる（黒海からの飼料用小麦の供給不足）需給環境が想定される。今年の天候相場も、表面の数字に惑わされることなく、正しく心配する必要があるように思える。

(2024年6月21日記)

＝トウモロコシの作付け進捗（1998年から）＝（米国農務省，統計局）



USDA需給報告（US産トウモロコシ）

報告月次	23/24年度			24/25年度		
	3月	4月	5月	4月	5月	6月
作付面積	94.6	94.6	94.6		90.0	90.0
収穫面積	86.5	86.5	86.5		82.1	82.1
単収	177.3	177.3	177.3		181.0	181.0
生産高	15,342	15,342	15,342		14,860	14,860
期首在庫	1,360	1,360	1,360		2,022	2,022
輸入	25	25	25		25	25
総供給量	16,727	16,727	16,727		16,907	16,907
飼料用途	5,700	5,700	5,700		5,750	5,750
産業用途	6,805	6,855	6,855		6,855	6,855
エタノール	5,400	5,450	5,450		5,450	5,450
国内消費	12,505	12,555	12,555		12,605	12,605
輸出需要	2,100	2,150	2,150		2,200	2,200
総需要量	14,605	14,705	14,705		14,805	14,805
期末在庫	2,122	2,022	2,022		2,102	2,102
在庫率(%)	14.5	13.8	13.8		14.2	14.2
農家価格	4.70	4.65	4.65		4.40	4.40

注：面積は100万エーカー，単収はブッシェル・エーカー，生産・消費は100万ブッシェル。

世界のトウモロコシ需給バランス

23/24年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界 6月予測	30,094	122,810	18,658	76,022	121,665	19,911	31,239
中国	20,604	28,884	2,300	22,500	30,700	2	21,086
除 中国	9,490	93,926	16,358	53,522	90,965	19,909	10,153
米国	3,455	38,969	64	14,479	31,891	5,461	5,136
除 米国	26,638	83,841	18,594	61,544	89,774	14,450	26,103
メキシコ	450	2,330	2,110	2,800	4,660	5	225
アルゼンチン	132	5,300	2	1,040	1,480	3,800	154
ブラジル	1,004	12,200	130	6,300	7,950	5,000	384
欧州	769	6,100	2,100	5,750	7,770	440	759
ウクライナ	280	3,100	2	390	490	2,600	291
ロシア	91	1,660	5	970	1,080	600	76
南アフリカ	240	1,400	15	630	1,250	300	105
東南アジア	285	3,091	1,780	3,955	4,775	56	325
韓国	190	9	1,160	930	1,165	0	194
日本	130	1	1,550	1,200	1,550	0	131

単位は10,000トン。

24/25年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界 5月予測	31,308	121,993	18,437	77,403	122,075	19,110	31,227
世界 6月予測	31,239	122,054	18,616	77,444	122,216	18,175	31,077
中国	21,086	29,200	2,300	23,100	31,300	2	21,284
除 中国	10,153	92,854	16,316	54,344	90,916	19,173	9,793
米国	5,136	37,746	64	14,606	32,018	5,588	5,339
除 米国	26,103	84,308	18,553	62,839	90,198	13,586	25,738
メキシコ	225	2,500	2,180	2,820	4,690	5	210
アルゼンチン	154	5,100	1	1,030	1,480	3,600	174
ブラジル	384	12,700	150	6,400	8,050	4,900	284
欧州	759	6,480	1,800	5,830	7,870	420	749
ウクライナ	291	2,770	2	370	465	2,450	148
ロシア	76	1,540	5	970	1,080	500	41
南アフリカ	105	1,700	0	690	1,340	320	145
東南アジア	325	3,146	1,840	4,090	4,950	56	305
韓国	194	10	1,170	940	1,175	0	199
日本	131	2	1,550	1,220	1,555	0	127

単位は10,000トン。

世界の大豆需給バランス
23/24年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	搾油	内需	輸出	期末在庫
世界 6月予測	10,059	39,591	17,053	32,978	38,334	17,262	11,107
中国	3,234	2,084	10,500	9,900	12,170	10	3,638
除 中国	6,825	37,507	6,553	23,078	26,164	17,252	7,469
米国	719	11,334	68	6,232	6,542	4,627	953
除 米国	9,340	28,257	16,985	26,745	31,792	12,635	10,154
メキシコ	22	19	640	648	654	1	26
アルゼンチン	1,700	5,000	650	3,550	4,275	460	2,615
ブラジル	3,682	15,300	60	5,400	5,785	10,200	3,057
パラグアイ	17	1,050	2	350	365	665	39
欧州	110	298	1,430	1,490	1,662	30	146

単位は10,000トン。

24/25年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	搾油	内需	輸出	期末在庫
世界 5月予測	11,178	42,226	17,640	34,587	40,174	18,020	12,850
世界 6月予測	11,107	42,226	17,640	34,578	40,163	18,020	12,790
中国	3,638	2,070	10,900	10,300	12,680	10	3,918
除 中国	7,469	40,156	6,740	24,278	27,483	18,010	8,872
米国	953	12,111	41	6,600	6,899	4,967	1,238
除 米国	10,154	30,115	17,599	27,979	33,264	13,053	11,551
メキシコ	26	16	670	665	671	0	41
アルゼンチン	2,615	5,100	550	4,000	4,760	550	2,955
ブラジル	3,057	16,900	15	5,400	5,810	10,500	3,662
パラグアイ	39	1,070	2	350	368	680	63
欧州	146	305	1,430	1,520	1,702	30	149

単位は10,000トン。

編 集 後 記



梅雨入りが遅れた今年の6月のとある休日のことである。朝から汗を流した。熱中症に注意し、十分に水分を摂った。午後、2時間半ほど、エアコンの効いた車で移動。その際も水分を摂った。夕方のビールが美味しく、刺身を食べて早く寝た。

しばらくして気分が悪くなり目が覚めた。悪いものに当たったのであれば、出るだけ出て終わるはずであるがその雰囲気はない。さらに同じものを食べていた家族は、何ともないという。熱中症も疑ったが、汗が猛烈に出ており、「熱中症＝熱が体内にこもる」という感覚もなかった。暑さで体温調整が上手く行かなかったのは間違いない。好きなことをやっていたので、体調の異変にもっと早く気づくべきところ、チャンスを逸したようである。

後日、ラジオを聞いていたら、これも熱中症の一種であり、暑さが本格化する前に出る症状のようである。いずれにせよ、暑さのレベルが桁違いに高くなった昨今の日本の夏は、十分に注意しなければならない。自分の年齢も含め、改めて感じたこの頃である。

小欄を担当して、早いもので丸3年になる。初めての本誌への投稿は34年前のことで、当時は内容が気楽なこともあり、排泄するような感じで文章を書くことができた。小欄はそういうわけにいかず、各々数回は推敲した挙げ句の果てに、毎回2～3回はその原稿を没にして、まっさらな状態から書き直している。年齢とともに恥じらいが生じ、多少は進歩したのではと、前向きに捉えるようにしている。

今号は1月に開催されたアメリカ穀物協会による講演を、同会の浜本日本代表にご協力のもと、誌上載録させていただいた。この4月に入社し、関係部署に配属された方で、最初にご覧になる本誌が今号という方もおられると思うので、是非理解を深めていただきたい。

その意味ではコーン市況の座談会、海上運賃セミナーなど、今号は盛りだくさんである。夏休みの「課題図書」などと野暮なことを言うつもりはないが、熱中症に気をつけて是非役立てていただきたいと思う。

第60卷第3号／令和6年7月15日発行

発行人 姫野健二／発行所 東京都港区西新橋1-11-1 丸万一号館 飼料輸出入協議会

郵便番号 105-0003 電話 03(6457)9550